
木 更 津 市
高齡者日常生活ニーズ調査

報 告 書

平成23年（2011年）3月

木 更 津 市

目 次

I	調査概要	1
II	調査結果	4
1	調査票回答者及びあなたご自身のことについて	4
2	住環境について	10
3	健康状態について	12
4	今後の暮らしや住まいについて	15
5	市の高齢者福祉施策について	30
6	介護サービスについて	38
7	主な介護者について	58
III	日常生活圏域ニーズ調査の分析	66
1	総括	66
2	機能に関する分析結果	70
3	日常生活に関する分析結果	83
4	社会参加に関する分析結果	87
5	疾病に関する分析結果	90
6	主観的健康感に関する分析結果	94
7	介護に関する分析結果	96

(参考) 使用した調査票

I 調査概要

1 調査目的

木更津市では、高齢者保健福祉施策の方向性を示す「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」に基づいて施策を進めています。

この計画が平成23年度に終了することに併せ、第5期計画の策定に向け、以下の3つの調査対象者に対して、高齢者等の日頃の生活の様子や健康状態、住環境、今後の暮らしや住まい、市の高齢者福祉施策等、また、要介護認定者（居宅）に対しては、これに加えて、介護サービスの利用、主な介護者等について把握することを目的として実施しました。

2 調査対象者と配付・回収の状況

調 査 名	高齢者一般調査	介護予防意識調査	要介護認定者（居宅）調査
調査対象者	・65歳以上の介護予防事業の対象者でなく、要介護認定も受けていない市民	・65歳以上の介護予防事業の対象者（生活機能評価対象者）である市民	・要介護認定を受け、介護保険の居宅サービスを利用している市民、または、サービスを利用していない市民
抽出元及び抽出方法	・住民基本台帳及び外国人登録より無作為抽出	・生活機能評価対象者より無作為抽出	・認定情報及び介護給付状況を踏まえて、無作為抽出
母 数	・65歳以上的高齢者 平成23年1月1日現在 28,811人より生活機能評価対象者、要介護認定者を除く、いわゆる元気な高齢者 21,961人	・生活機能評価対象者 平成22年度調査 2,892人	・要支援・要介護認定者4,137人（65歳以上3,958人、65歳未満179人）のうち、居宅サービスを利用者、またはサービス未利用者
配 付 数 及 び 有効回収数	・配 付 数：400 ・有効回収数：257 ・有効回収率：64.3%	・配 付 数：400 ・有効回収数：318 ・有効回収率：79.5%	・配 付 数：700 ・有効回収数：376 ・有効回収率：53.7%

3 調査方法

郵送法（郵送配付－郵送回収、お礼状兼督促状の発送なし）

4 調査時点

平成23年1月1日現在

5 調査時期

平成23年1～2月

6 報告書の見方

- 集計は、小数点以下第2位を四捨五入しています。したがって、数値の合計が100.0%にならない場合があります。
- 回答の比率(%)は、その質問の回答者数(n値またはLn値)を基数として算出しました。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがあります。
- 図表においては、表側の無回答は表示していません。また、一部については、それ以外の表側についても表示していない場合があります。
- 本文や図表中の選択肢表記は、場合によって語句を短縮・簡略化している場合があります。
- 本調査のような標本調査の場合、標本誤差が存在します。表側とした調査回答者の属性(性別、性/年齢別等)のn値またはLn値が小さい(30人未満を目安)場合は、標本誤差が大きくなるため分析の対象から除き、本文の説明を省略しています。
- 本文中で、比率の比較をする際には、ポイント(小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位で示している)と表記しています。また、比率の比較は全体、他の表側の項目に対して「高い」、「低い」を表しています。

7 標本誤差について

本調査のように、対象者(標本)を抽出して行う標本調査の場合、標本と全体の間に誤差が生じます。これは標本誤差(b)と呼ばれ、下式(等間隔抽出の場合)により求められます。なお、標本誤差を設問に対する回答者数(n)と回答比率(p)から簡単に求められるように、本報告書では早見表を用意しています。

例えば、「問5 あなたのお近くに、ご親族がお住まいですか。(ひとつだけ○)」について、「徒歩で5分以内」という回答者数は、951人(n)中の20.4%(p)となっていますが、標本誤差は早見表により、±2.6%程度であることが得られます。このことから、「徒歩で5分以内」は、17.8%~23.0%の間にあると推測することができます。

$$b = 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

b = 標本誤差、N = 母集団数、n = 比率算出の基数(設問の回答者数)、p = 回答率

1.96 = 統計学の「正規分布表」から有意水準5%の定数(2として扱ってよい)

$\frac{N-n}{N-1}$ 1 として算出した

図表1-1 標本誤差の早見表

回答 比率 (p) 回答 者数 (n)	5% または 95% 前後	10% または 90% 前後	15% または 85% 前後	20% または 80% 前後	25% または 75% 前後	30% または 70% 前後	35% または 65% 前後	40% または 60% 前後	45% または 55% 前後	50% 前後
951	±1.4%	±1.9%	±2.3%	±2.6%	±2.8%	±3.0%	±3.1%	±3.2%	±3.2%	±3.2%
900	±1.5%	±2.0%	±2.4%	±2.7%	±2.9%	±3.1%	±3.2%	±3.3%	±3.3%	±3.3%
850	±1.5%	±2.1%	±2.4%	±2.7%	±3.0%	±3.1%	±3.3%	±3.4%	±3.4%	±3.4%
800	±1.5%	±2.1%	±2.5%	±2.8%	±3.1%	±3.2%	±3.4%	±3.5%	±3.5%	±3.5%
750	±1.6%	±2.2%	±2.6%	±2.9%	±3.2%	±3.3%	±3.5%	±3.6%	±3.6%	±3.7%
700	±1.6%	±2.3%	±2.7%	±3.0%	±3.3%	±3.5%	±3.6%	±3.7%	±3.8%	±3.8%
650	±1.7%	±2.4%	±2.8%	±3.1%	±3.4%	±3.6%	±3.7%	±3.8%	±3.9%	±3.9%
600	±1.8%	±2.4%	±2.9%	±3.3%	±3.5%	±3.7%	±3.9%	±4.0%	±4.1%	±4.1%
550	±1.9%	±2.6%	±3.0%	±3.4%	±3.7%	±3.9%	±4.1%	±4.2%	±4.2%	±4.3%
500	±1.9%	±2.7%	±3.2%	±3.6%	±3.9%	±4.1%	±4.3%	±4.4%	±4.4%	±4.5%
450	±2.1%	±2.8%	±3.4%	±3.8%	±4.1%	±4.3%	±4.5%	±4.6%	±4.7%	±4.7%
400	±2.2%	±3.0%	±3.6%	±4.0%	±4.3%	±4.6%	±4.8%	±4.9%	±5.0%	±5.0%
376	±2.2%	±3.1%	±3.7%	±4.1%	±4.5%	±4.7%	±4.9%	±5.1%	±5.1%	±5.2%
350	±2.3%	±3.2%	±3.8%	±4.3%	±4.6%	±4.9%	±5.1%	±5.2%	±5.3%	±5.3%
300	±2.5%	±3.5%	±4.1%	±4.6%	±5.0%	±5.3%	±5.5%	±5.7%	±5.7%	±5.8%
257	±2.7%	±3.7%	±4.5%	±5.0%	±5.4%	±5.7%	±6.0%	±6.1%	±6.2%	±6.2%
250	±2.8%	±3.8%	±4.5%	±5.1%	±5.5%	±5.8%	±6.0%	±6.2%	±6.3%	±6.3%
200	±3.1%	±4.2%	±5.0%	±5.7%	±6.1%	±6.5%	±6.7%	±6.9%	±7.0%	±7.1%
150	±3.6%	±4.9%	±5.8%	±6.5%	±7.1%	±7.5%	±7.8%	±8.0%	±8.1%	±8.2%
100	±4.4%	±6.0%	±7.1%	±8.0%	±8.7%	±9.2%	±9.5%	±9.8%	±9.9%	±10.0%
50	±6.2%	±8.5%	±10.1%	±11.3%	±12.2%	±13.0%	±13.5%	±13.9%	±14.1%	±14.1%

II 調査結果

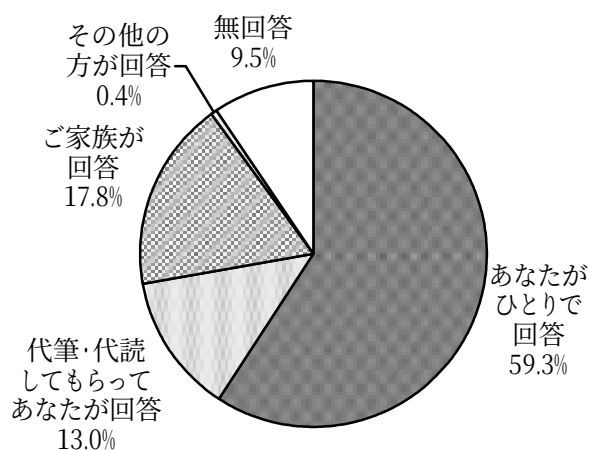
今回の調査対象者は、高齢者一般、介護予防、要介護認定者の3つがあり、問1～問3 1については、設問・選択肢を共通化したうえで、それぞれの調査対象者に質問しています。一方、問3 2以降については、要介護認定者のみに質問しています。

分析・報告書の作成にあたっては、問1～問3 1については、全体とともに高齢者一般、介護予防、要介護認定者の3つの調査種類ごとに行った方がよいと判断したものは、調査種類別の内容を、それぞれの本文と図表に盛り込んでいます。性別、年齢、世帯構成等の基本属性別のクロス集計結果は、全体に対するもののみ記載しています。一方、問3 2以降については、全体、基本属性別のクロス集計結果とも、要介護認定者のみの内容です。

1 調査票回答者及びあなたご自身のことについて

問1 はじめに、この調査票を回答される方はどなたですか。(ひとつだけ○)

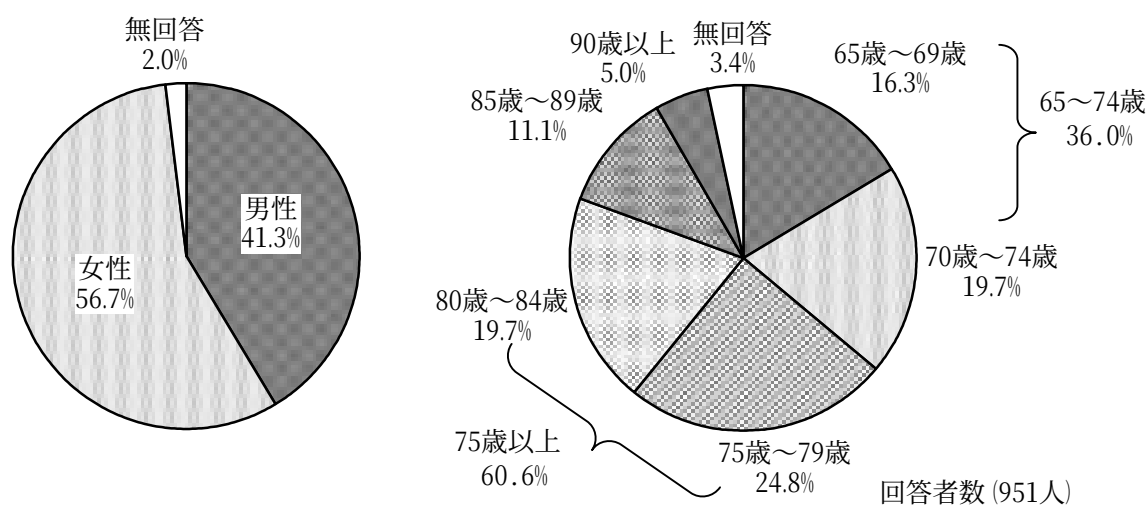
図表 2-1 調査票回答者



回答者数 (951人)

問2 あなたの性別と、現在の満年齢をお答えください。

図表 2-2 性別（左図）、年齢（右図）

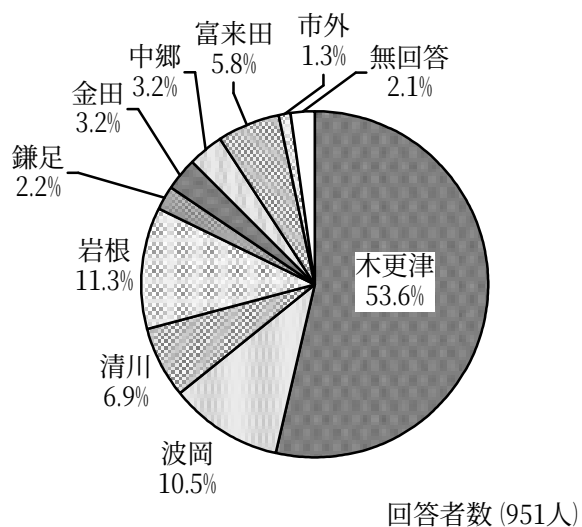


		回答者数 (人)	65歳 9歳	70歳 4歳	75歳 9歳	80歳 4歳	85歳 9歳	90歳 以上	無回答	65歳 75歳	75歳 以上	平均年齢 (歳)
全 体		951	16.3	19.7	24.8	19.7	11.1	5.0	3.4	36.0	60.6	77.20
性別	男性	393	20.4	20.9	25.4	18.8	11.2	2.3	1.0	41.3	57.7	76.35
	女性	539	13.9	19.3	25.2	21.0	11.5	7.2	1.9	33.2	64.9	77.92
調査種類	高齢者一般	257	24.5	33.1	28.8	7.4	3.1	-	3.1	57.6	39.3	73.50
	男性	115	24.3	32.2	29.6	8.7	3.5	-	1.7	56.5	41.8	73.73
	女性	136	25.7	34.6	29.4	6.6	2.9	-	0.7	60.3	38.9	73.39
	介護予防	318	14.8	20.1	26.4	21.7	10.4	2.8	3.8	34.9	61.3	77.10
	男性	138	19.6	20.3	26.1	21.7	10.9	-	1.4	39.9	58.7	76.33
	女性	175	11.4	20.6	27.4	22.3	10.3	5.1	2.9	32.0	65.1	77.68
	要介護認定者	376	12.0	10.1	20.7	26.3	17.3	10.4	3.2	22.1	74.7	79.90
	男性	140	17.9	12.1	21.4	24.3	17.9	6.4	-	30.0	70.0	78.47
	女性	228	8.8	9.2	21.1	28.5	17.5	13.2	1.8	18.0	80.3	80.84

※要介護認定者のうち、65～69歳(45人)には、65歳未満(7人)を含めて集計している。以下同様である。

問3 あなたのお住まいの地域はどちらになりますか。(ひとつだけ○)

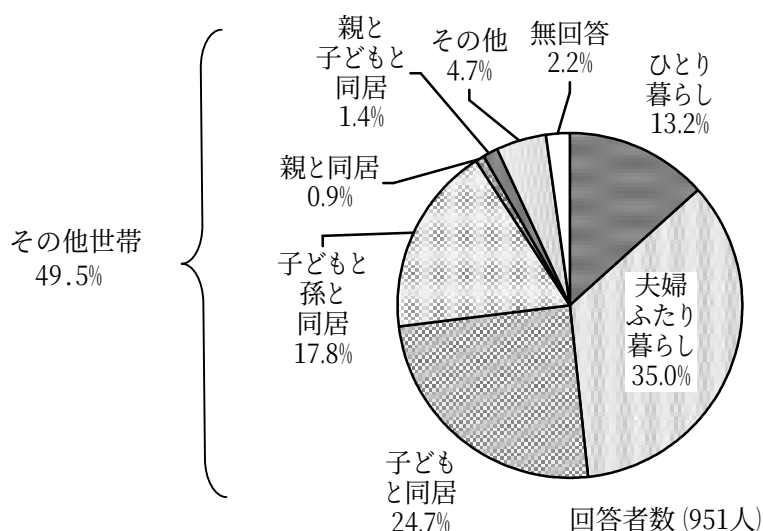
図表 2-3 居住地域（日常生活圏域）



	回答者数 (人)	木更津	波岡	清川	岩根	鎌足	金田	中郷	富来田	市外	無回答	(%)
全 体	951	53.6	10.5	6.9	11.3	2.2	3.2	3.2	5.8	1.3	2.1	
調査種類	高齢者一般	257	54.5	8.2	7.4	12.5	1.9	3.9	3.1	5.4	0.8	2.3
	介護予防	318	51.6	12.6	7.2	9.7	3.5	3.1	6.9	0.6	1.6	
	要介護認定者	376	54.8	10.4	6.4	11.7	1.3	2.7	5.1	2.1	2.4	

問4 あなたの現在の世帯構成を、以下の中からお答えください。(ひとつだけ○)

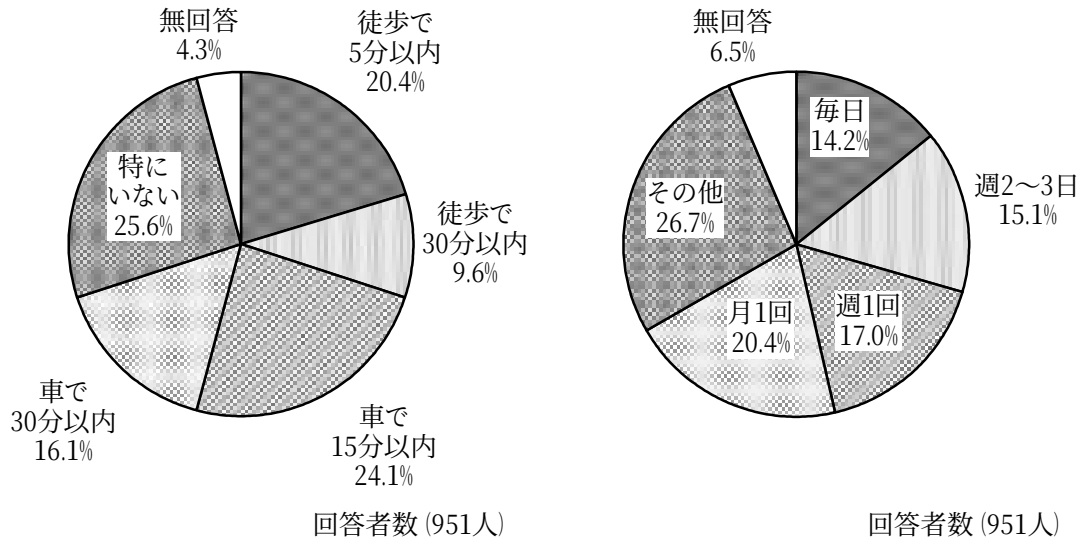
図表 2-4 世帯構成（調査票どおり、3区分集約）



		回答者数 (人)	ひとり暮らし 世帯 (%)	夫婦のみ世帯 (%)	その他世帯 (%)	無回答 (%)
全 体		951	13.2	35.0	49.5	2.2
調査種類	高齢者一般	257	8.9	43.6	45.1	2.3
	介護予防	318	11.9	40.6	46.9	0.6
	要介護認定者	376	17.3	24.5	54.8	3.5
性別	男性	393	10.7	45.8	42.7	0.8
	女性	539	15.6	28.2	55.5	0.7
年齢	65歳～69歳	155	7.7	43.9	47.1	1.3
	70歳～74歳	187	12.3	50.3	37.4	-
	75歳～79歳	236	15.7	37.7	46.2	0.4
	80歳～84歳	187	16.6	28.3	54.5	0.5
	85歳～89歳	106	15.1	18.9	65.1	0.9
	90歳以上	48	12.5	4.2	79.2	4.2
要介護度	要支援1	56	28.6	19.6	44.6	7.1
	要支援2	68	25.0	29.4	45.6	-
	要介護1	49	18.4	26.5	55.1	-
	要介護2	50	10.0	28.0	60.0	2.0
	要介護3	43	14.0	27.9	55.8	2.3
	要介護4	27	3.7	22.2	70.4	3.7
	要介護5	21	9.5	19.0	66.7	4.8
	わからない	17	11.8	23.5	47.1	17.6

問5	あなたのお近くに、ご親族がお住まいですか。(ひとつだけ○)
問6	ご親族の方と気軽に会いする頻度はどのくらいですか。(ひとつだけ○)

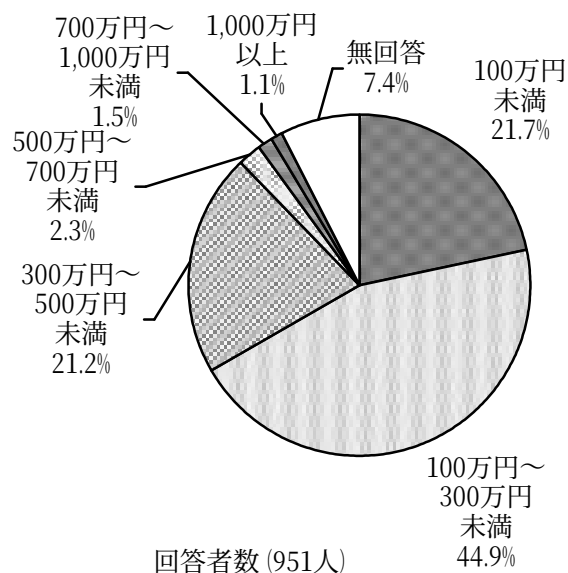
図表 2-5 近所での親族の居住（左図）、親族と気軽に会う頻度（右図）



		回答者数 (人)	近所での親族の居住						親族と気軽に会う頻度						(%)
			5 徒 分 歩 以 内	3 徒 0 歩 分 以 内	1 車 5 分 以 内	3 車 0 分 以 内	特 に い な い	無 回 答	毎 日	週 2 〜 3 日	週 1 回	月 1 回	そ の 他	無 回 答	
全 体		951	20.4	9.6	24.1	16.1	25.6	4.3	14.2	15.1	17.0	20.4	26.7	6.5	
調査種類	高齢者一般	257	21.8	11.7	23.3	16.3	22.2	4.7	14.4	12.1	21.8	23.0	22.2	6.6	
	介護予防	318	21.1	9.7	24.5	17.6	23.9	3.1	13.8	17.9	16.7	20.1	26.4	5.0	
	要介護認定者	376	18.9	8.0	24.2	14.6	29.3	5.1	14.4	14.9	14.1	18.9	30.1	7.7	
性別	男性	393	18.8	8.1	25.2	16.0	30.5	1.3	13.2	14.2	17.0	21.4	30.0	4.1	
	女性	539	21.7	10.9	23.9	16.7	22.6	4.1	14.8	16.1	17.6	20.4	25.2	5.8	
年齢	65歳～69歳	155	16.8	9.0	25.2	19.4	28.4	1.3	9.0	15.5	13.5	25.8	30.3	5.8	
	70歳～74歳	187	25.1	10.2	24.1	15.5	23.5	1.6	16.6	16.0	19.8	18.2	25.1	4.3	
	75歳～79歳	236	18.2	11.4	22.5	16.9	25.8	5.1	12.3	14.4	18.2	20.3	28.4	6.4	
	80歳～84歳	187	20.3	8.0	23.5	18.7	26.2	3.2	12.8	17.1	18.2	21.4	26.2	4.3	
	85歳～89歳	106	18.9	9.4	27.4	12.3	30.2	1.9	18.9	7.5	17.9	20.8	32.1	2.8	
	90歳以上	48	29.2	12.5	25.0	10.4	20.8	2.1	22.9	25.0	14.6	16.7	16.7	4.2	
世帯構成	ひとり暮らし世帯	126	25.4	8.7	23.8	19.0	21.4	1.6	14.3	18.3	20.6	17.5	23.8	5.6	
	夫婦のみ世帯	333	20.4	10.8	23.7	17.1	26.4	1.5	15.3	17.1	16.5	24.9	23.1	3.0	
	その他世帯	471	20.0	9.1	25.5	14.6	26.5	4.2	14.0	13.4	17.0	18.7	30.6	6.4	

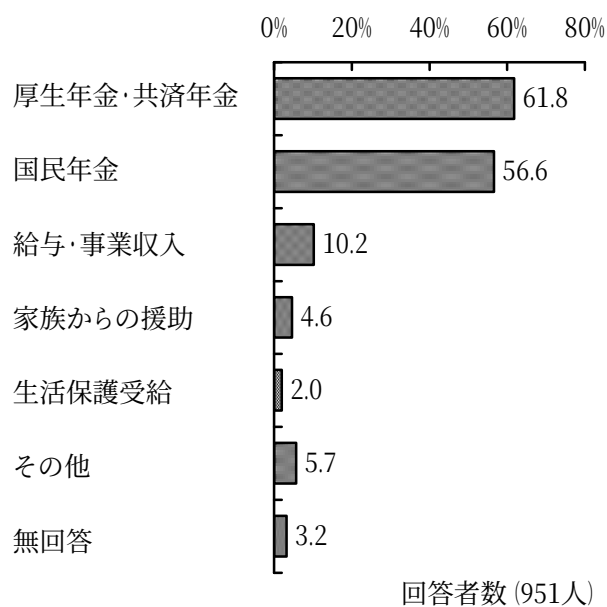
問7 あなたと配偶者（ひとり暮らしの方は、あなたのみ）の税込みの年収（年金を含む）の合計は、次のうちどれですか。（ひとつだけ○）

図表 2-6 本人と配偶者の税込み年収



問8 あなたと配偶者（ひとり暮らしの方は、あなたのみ）の収入は、次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

図表 2-7 収入の種類



2 住環境について

問9 あなたのお住まいについて伺います。(それぞれひとつだけ○)

(1) 一戸建て、または共同住宅のどちらですか。(住宅の建て方)

(2) お住まいは、次のうちどれですか。(住宅の所有の関係)

(3) 何階で生活していますか。2～5階で生活している場合、エレベーターはありますか。

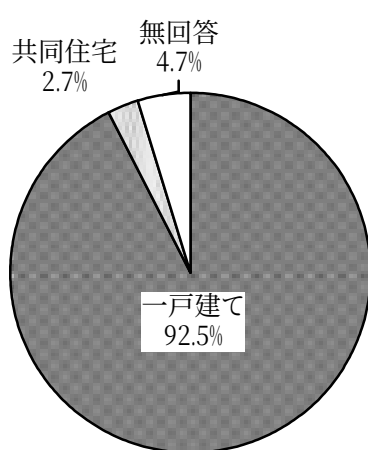
住宅の建て方についてたずねたところ、全体でみると、「一戸建て」が92.5%、「共同住宅」が2.7%となっています。

住宅の所有関係としては、「持家」が87.5%と最も高く、「公営・UR都市機構・公社の借家」が0.8%、「民間賃貸住宅」が6.2%、「借間」が1.1%となっています。

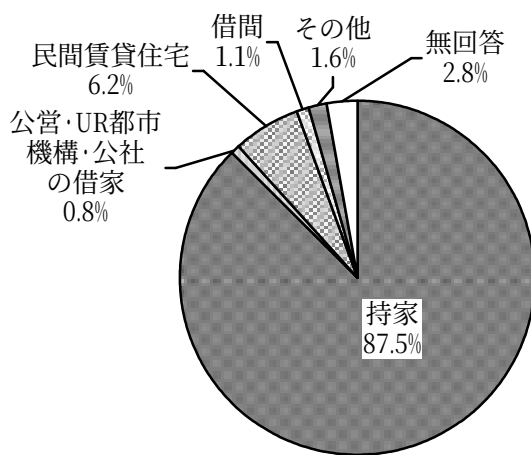
住んでいる階は、「1階」が66.4%、「2階」が14.5%、「3～5階」が1.2%、「6階以上」が0.9%となっています。

2～5階で生活していると回答した人に、エレベーターの有無をたずねたところ、「ある」が6.7%、「ない」が76.5%となっています。

図表 2-8 住宅の建て方（左図）、住宅の所有の関係（右図）、

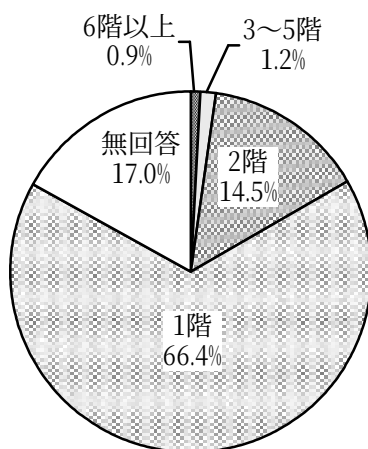


回答者数 (951人)

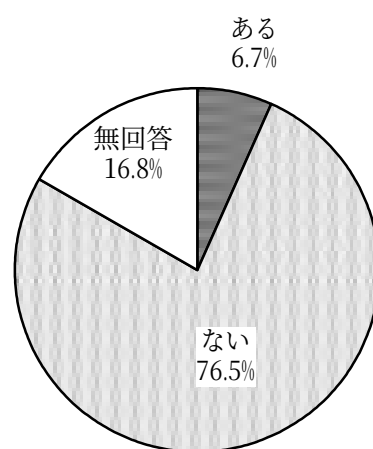


回答者数 (951人)

図表 2-9 住んでいる階（左図）、エレベーターの有無（右図）



回答者数 (951人)



回答者数 (149人)

住宅の建て方と住宅の所有関係の組み合わせを分析したところ、全体でみると、「一戸建て・持家」が85.3%と最も高くなっています。次いで、「賃貸住宅」が6.4%、「その他」が2.1%「共同住宅・持家」が0.5%の順となっています。居住地区（圏域）別にみると、木更津、波岡では「賃貸住宅」がやや高くなっていますが、大部分の地区は「一戸建て・持家」となっています。世帯構成にみると、ひとり暮らし世帯では「賃貸住宅」がやや高くなっています。

住居階数とエレベーターの有無の組み合わせを分析したところ、全体でみると、「3～5階（エレベーターなし）」が0.5%、「2階（エレベーターなし）」が11.5%であり、「2階以上（エレベーターなし）」は合わせて12.0%となっています。居住地区（圏域）別にみると、鎌足で「6階以上」、金田で「3～5階（エレベーターなし）」、清川で「2階（エレベーターなし）」がやや高くなっています。

図表 2-10 住宅の建て方×住宅の所有の関係

		回答 数	・一 戸 家 建 て	・共 同 住 宅	賃 貸 住 宅	そ の 他	無 回 答	(%)
全 体		951	85.3	0.5	6.4	2.1	5.7	
居住 地域 (圏 域)	木更津	510	81.8	0.8	9.6	2.7	5.1	
	波岡	100	91.0	1.0	5.0	-	3.0	
	清川	66	89.4	-	3.0	-	7.6	
	岩根	107	88.8	-	2.8	2.8	5.6	
	鎌足	21	95.2	-	-	-	4.8	
	金田	30	93.3	-	-	3.3	3.3	
	中郷	30	96.7	-	-	-	3.3	
	富来田	55	94.5	-	3.6	-	1.8	
	市外	12	66.7	-	-	16.7	16.7	
世帯 構成	ひとり暮らし世帯	126	77.0	0.8	11.9	4.0	6.3	
	夫婦のみ世帯	333	89.5	0.6	7.5	0.3	2.1	
	その他世帯	471	85.8	0.4	4.5	3.0	6.4	

図表 2-11 住居階数とエレベーターの有無

		回答 者 数 (人)	6 階 以 上	ベ 3 ー 3 階 あり(エ レベーターなし)	ベ 3 ー 3 階 あり(エ レベーターなし)	タ 2 ー 2 階 あり(エ レベーターなし)	タ 2 ー 2 階 あり(エ レベーターなし)	1 階	無 回 答	(%)
全 体		951	0.9	0.5	0.5	0.5	11.5	66.4	19.7	
居住 地域 (圏 域)	木更津	510	1.2	0.8	0.8	0.6	12.0	63.9	20.8	
	波岡	100	1.0	-	-	-	12.0	67.0	20.0	
	清川	66	-	-	-	-	15.2	74.2	10.6	
	岩根	107	0.9	-	-	-	13.1	72.9	13.1	
	鎌足	21	4.8	-	-	-	-	81.0	14.3	
	金田	30	-	-	3.3	-	10.0	63.3	23.3	
	中郷	30	-	-	-	-	3.3	66.7	30.0	
	富来田	55	-	-	-	-	5.5	80.0	14.5	
	市外	12	-	8.3	-	16.7	33.3	25.0	16.7	

3 健康状態について

健康状態についての設問（問11～問17）については、「Ⅲ 日常生活圏域ニーズ調査の分析」に記載します。

問10 あなたには、かかりつけの医師がいますか。（あてはまるものすべてに○）

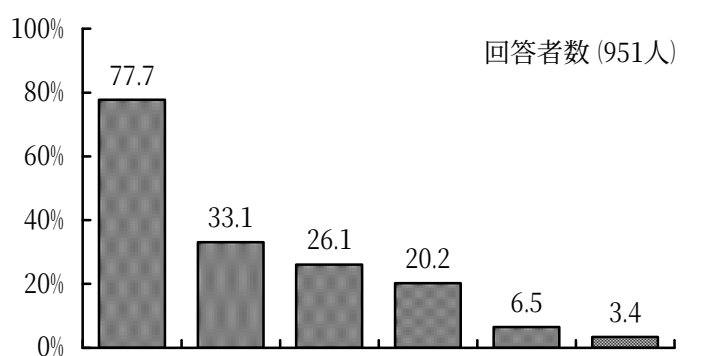
かかりつけ医の有無についてたずねたところ、全体でみると、「内科医」が77.7%と最も高くなっています。次いで、「歯科医」が33.1%、「整形外科医」が26.1%となっています。一方、「かかりつけの医師はいない」が6.5%となっています。

調査種類別に見ると、高齢者一般は「整形外科医」がやや低く、介護予防は「内科医」、「歯科医」がやや高く、要介護認定者は「歯科医」が低くなっています。

性別に見ると、女性は男性よりも「内科医」、「歯科医」、「整形外科医」、男性は女性よりも「その他の診療科の医師」のかかりつけ医がいる割合が高くなっています。

年齢別に見ると、「内科医」はおおむね年齢が高くなるにつれて高くなり、75歳以上では8割を超えています。「歯科医」は84歳以下では3～4割ですが、85歳以上になると2割未満となっています。「整形外科医」は70～84歳で3割前後と高くなっています。

図表 2-12 かかりつけの医師の有無



		回答者数	内科医	歯科医	整形外科医	科その の医 師 の 診 療	医か 師は り い つ な け い の	無回答	(%)
全	体	951	77.7	33.1	26.1	20.2	6.5	3.4	
調 査 種 類	高齢者一般	257	73.2	38.1	19.1	12.5	11.3	4.3	
	介護予防	318	81.1	41.8	32.1	17.0	6.6	2.2	
	要介護認定者	376	77.9	22.3	25.8	28.2	3.2	3.7	
性 別	男性	393	73.5	31.6	19.8	24.4	9.7	2.8	
	女性	539	81.8	34.5	30.4	17.6	4.3	2.6	
年 齢	65歳～69歳	155	65.8	34.8	18.1	20.0	12.3	5.2	
	70歳～74歳	187	75.9	43.9	25.7	18.7	8.0	3.2	
	75歳～79歳	236	80.1	37.3	30.9	22.5	5.5	3.0	
	80歳～84歳	187	85.6	31.0	29.9	22.5	4.3	-	
	85歳～89歳	106	83.0	16.0	19.8	17.9	4.7	0.9	
	90歳以上	48	83.3	16.7	25.0	16.7	2.1	4.2	

問 1 8 あなたが普段利用する主な交通手段は、次のうちどれですか。①食料品や日用品の買物、②医療機関の受診のそれぞれでお答えください。(①②ともそれぞれあてはまるものすべてに○)

食料品や日用品の買物で普段利用する主な交通手段についてたずねたところ、全体でみると、「自動車（人に乗せてもらう）」が33.3%と最も高くなっています。次いで、「徒歩」が26.5%、「自動車（自分で運転）」が24.5%、「自転車」が12.7%の順となっています。

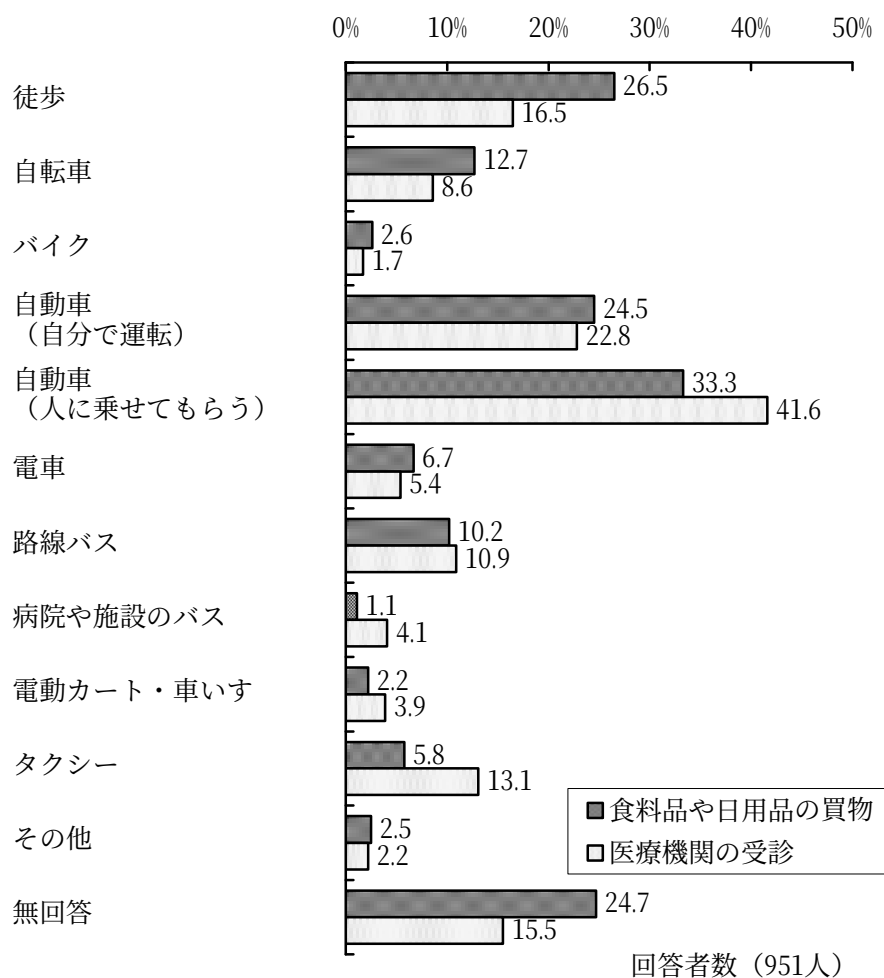
医療機関の受診で普段利用する主な交通手段についてたずねたところ、全体でみると、「自動車（人に乗せてもらう）」が41.6%と最も高くなっています。次いで、「自動車（自分で運転）」が22.8%、「徒歩」が16.5%、「タクシー」が13.1%の順となっています。

調査種類別にみると、要介護認定者は、「徒歩」、「自転車」、「自動車（自分で運転）」、「電車」、「路線バス」といった自力で可能な交通手段の利用が減っています。医療機関の受診では、それに代わって「自動車（人に乗せてもらう）」が半数を超えています。

性別にみると、食料品や日用品の買物、医療機関の受診とも、「自動車（自分で運転）」は男性、「自動車（人に乗せてもらう）」は女性で高くなっています。

年齢別にみると、おおむね年齢が高くなるにつれて、「徒歩」、「自転車」、「自動車（自分で運転）」、「電車」、「路線バス」といった自力で可能な交通手段の利用が減っています。「自動車（人に乗せてもらう）」については、食料品や日用品の買物ではあまり年齢による差はありませんが、医療機関の受診では年齢が高くなるにつれて高くなり、80歳以上では半数を超えています。「タクシー」についても75歳以上でやや高くなっています。

図表 2-13 普段利用する主な交通手段（食料品や日用品の買物、医療機関の受診）



図表 2-14 普段利用する主な交通手段（食料品や日用品の買物、医療機関の受診）

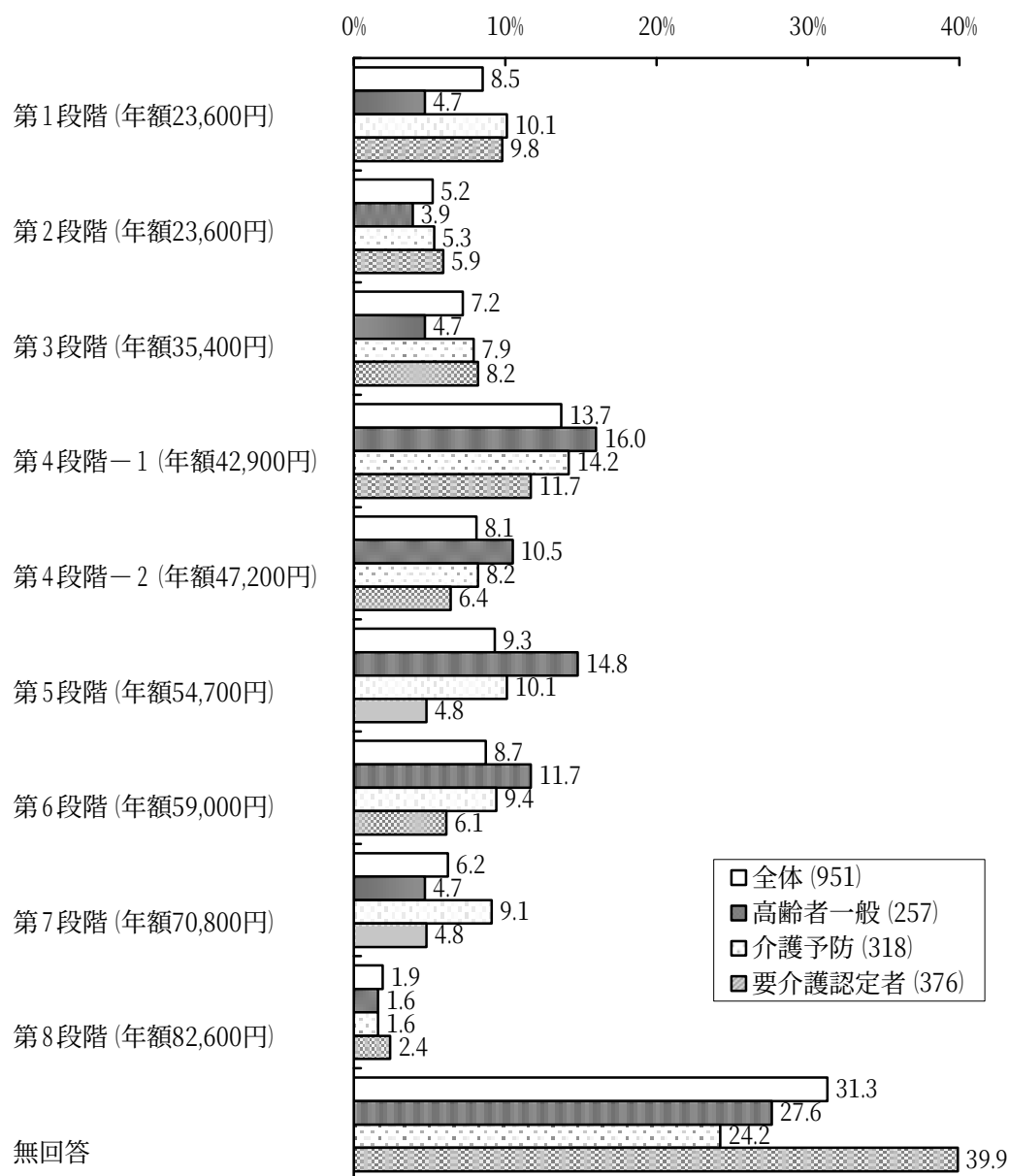
		回答者数 (人)	徒歩	自転車	バイク	自動車 (自分で運転)	自動車 (人に乗せてもらう)	電車	路線バス	病院や施設のバス	電動カート・車いす	タクシー	その他	無回答	(%)
食料品や日用品の買物															
全 体		951	26.5	12.7	2.6	24.5	33.3	6.7	10.2	1.1	2.2	5.8	2.5	24.7	
調査種類	高齢者一般	257	37.0	22.6	3.9	41.6	27.2	10.1	12.1	0.4	-	2.3	0.4	11.3	
	介護予防	318	31.8	16.0	4.4	33.6	38.7	9.7	13.2	0.3	0.3	6.0	0.6	12.9	
	要介護認定者	376	14.9	3.2	0.3	5.1	33.0	1.9	6.4	2.1	5.3	8.0	5.6	43.9	
性別	男性	393	23.7	13.7	3.6	42.2	16.8	4.3	7.1	1.0	3.1	5.3	3.1	26.0	
	女性	539	29.5	12.1	2.0	11.3	45.6	8.5	12.8	1.1	1.7	6.1	2.2	23.6	
年齢	65歳～69歳	155	31.0	13.5	3.9	40.0	31.6	7.7	9.0	-	2.6	2.6	1.9	20.6	
	70歳～74歳	187	39.6	20.9	3.2	39.6	31.0	9.6	12.8	0.5	0.5	2.7	0.5	13.4	
	75歳～79歳	236	26.3	13.6	3.8	21.6	35.2	7.2	14.4	1.3	1.3	8.9	2.1	22.0	
	80歳～84歳	187	20.3	10.2	1.1	18.2	36.4	5.3	8.6	1.6	3.2	8.0	3.7	25.7	
	85歳～89歳	106	23.6	5.7	0.9	2.8	34.9	3.8	7.5	0.9	4.7	7.5	3.8	37.7	
	90歳以上	48	6.3	-	-	-	27.1	-	2.1	4.2	4.2	2.1	6.3	56.3	
医療機関の受診															
全 体		951	16.5	8.6	1.7	22.8	41.6	5.4	10.9	4.1	3.9	13.1	2.2	15.5	
調査種類	高齢者一般	257	23.3	14.8	2.7	38.9	23.7	8.2	12.1	2.3	-	5.4	0.8	14.8	
	介護予防	318	20.8	11.6	2.8	31.1	39.0	6.3	16.0	2.2	0.6	14.5	0.3	12.9	
	要介護認定者	376	8.2	1.9	-	4.8	56.1	2.7	5.9	6.9	9.3	17.3	4.8	18.1	
性別	男性	393	16.0	9.4	1.5	42.0	26.2	4.6	9.2	3.8	5.1	12.7	1.8	14.5	
	女性	539	17.4	8.3	1.9	8.9	53.2	6.1	12.4	4.5	3.2	13.5	2.4	15.4	
年齢	65歳～69歳	155	20.0	9.0	3.9	38.1	35.5	3.9	9.0	1.9	6.5	7.1	3.2	11.0	
	70歳～74歳	187	25.1	16.0	1.6	35.3	34.8	10.2	12.8	3.2	1.6	8.0	-	12.3	
	75歳～79歳	236	16.5	8.5	2.1	21.2	35.6	6.4	13.6	6.4	2.1	15.3	1.3	21.2	
	80歳～84歳	187	12.8	5.9	0.5	17.1	50.3	3.2	10.7	4.3	5.9	21.4	2.7	11.2	
	85歳～89歳	106	13.2	4.7	0.9	2.8	53.8	-	9.4	3.8	3.8	13.2	3.8	14.2	
	90歳以上	48	-	-	-	-	62.5	4.2	4.2	4.2	8.3	10.4	2.1	27.1	

4 今後の暮らしや住まいについて

問 19 あなたの介護保険料所得段階は、次のどの段階ですか。（ひとつだけ○）

木更津市の第4期計画での介護保険料所得段階は、第1段階～第8段階（9区分）に分かれています
が、本調査対象者の回答結果では次図のようになっています。なお、保険料年額は平成22年度の値です。

図表 2-15 介護保険料所得段階



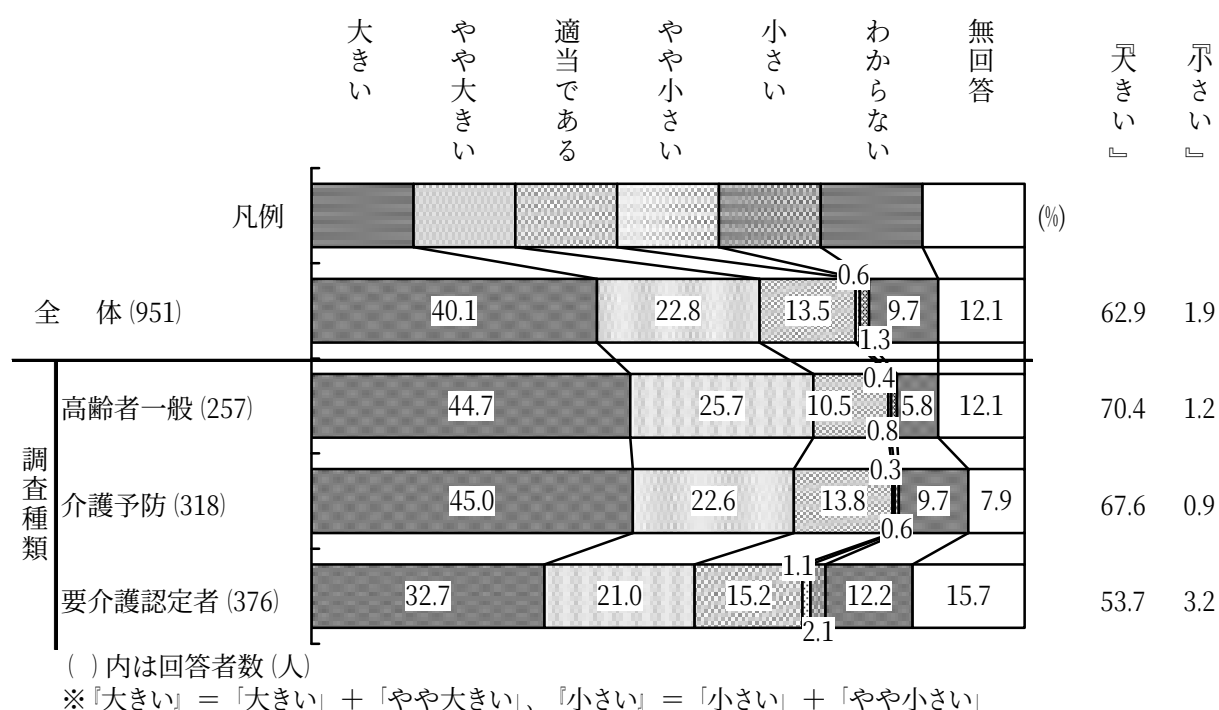
問20 介護保険の保険料について、家計への影響は次のうちのどれに近いですか。
(ひとつだけ○)

介護保険料の家計への影響についてたずねたところ、全体でみると、「大きい」が40.1%、「やや大きい」が22.8%であり、合わせて『大きい』が62.9%となっています。これに対して、「適当である」は13.5%、また、「やや小さい」が0.6%、「小さい」が1.3%であり、合わせて『小さい』が1.9%となっています。

調査種類別にみると、高齢者一般、介護予防、要介護認定者の順に、『大きい』の割合が下がり、代わって、「適当である」の割合が上がっています。

本人と配偶者の年収別にみると、おおむね年収の低い人ほど「大きい」、年収の高い人ほど「適当である」が高くなっています。

図表 2-16 介護保険料の家計への影響



		回答者数	大きい	やや大きい	適当である	やや小さい	小さい	わからない	無回答	(%)
全 体		951	40.1	22.8	13.5	0.6	1.3	9.7	12.1	
本人と配偶者の年収	100万円未満	206	47.1	16.0	9.2	1.5	1.0	12.1	13.1	
	100万円～300万円未満	427	41.9	23.9	13.6	0.2	0.9	7.3	12.2	
	300万円～500万円未満	202	34.2	32.2	14.9	0.5	1.0	12.4	5.0	
	500万円～700万円未満	22	22.7	36.4	22.7	-	-	4.5	13.6	
	700万円～1,000万円未満	14	35.7	7.1	35.7	-	7.1	7.1	7.1	
	1,000万円以上	10	30.0	20.0	20.0	-	10.0	20.0	-	

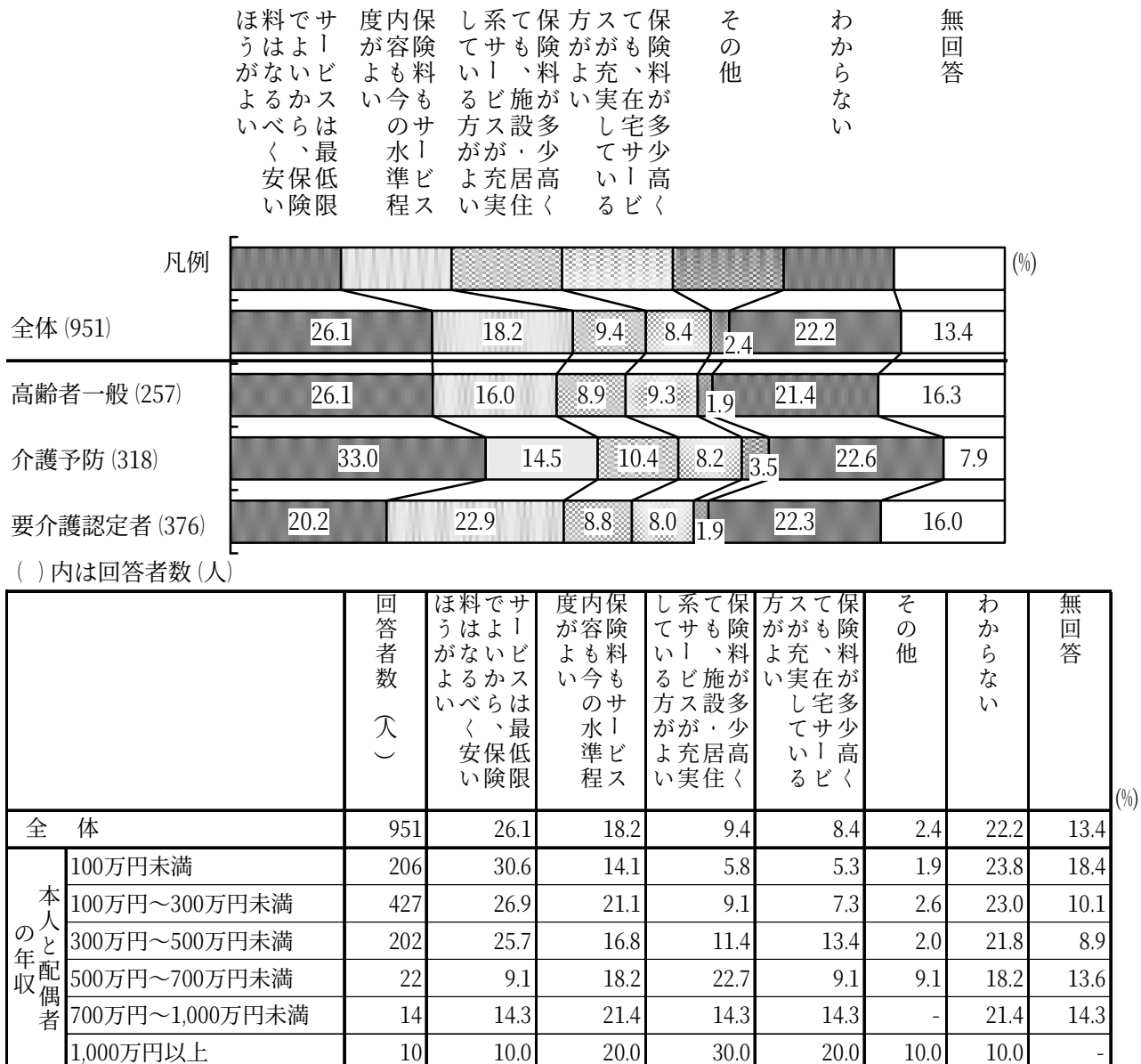
問 2 1 介護保険制度で提供する介護サービスや介護予防のためのサービスの範囲について、あなたの考えにもっとも近いものは、次のうちどれですか。（ひとつだけ○）

保険料とサービスのバランスについてたずねたところ、全体でみると、「サービスは最低限でよいから、保険料はなるべく安いほうがよい」が26.1%、「保険料もサービス内容も今の水準程度がよい」が18.2%、「保険料が多少高くても、施設・居住系サービスが充実している方がよい」が9.4%、「保険料が多少高くても、在宅サービスが充実している方がよい」が8.4%となっており、「保険料が多少高くても、施設・居住系サービスや在宅サービスが充実している方がよい」は合わせて17.8%となっています。

調査種類別にみると、高齢者一般、介護予防は「サービスは最低限でよいから、保険料はなるべく安いほうがよい」、要介護認定者は「保険料もサービス内容も今の水準程度がよい」が高くなっています。

本人と配偶者の年収別にみると、おおむね年収の低い人ほど「サービスは最低限でよいから、保険料はなるべく安いほうがよい大きい」、年収の高い人ほど「保険料もサービス内容も今の水準程度がよい」、「保険料が多少高くても、施設・居住系サービスが充実している方がよい」、「保険料が多少高くても、在宅サービスが充実している方がよい」が高くなっています。その境は500万円と見ることができます。

図表 2-17 保険料とサービスのバランス



問 2 2 日常生活での不安、悩み、心配ごとがありますか。それはどのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○)

日常生活での不安、悩み、心配ごとについてたずねたところ、全体でみると、「健康に不安がある」が55.7%と最も高くなっています。次いで、「認知症にならないか心配である」が36.7%、「外出時の転倒や事故に不安がある」が32.8%、「地震や火災が起きたときの避難が心配である」が32.4%などの順となっています。

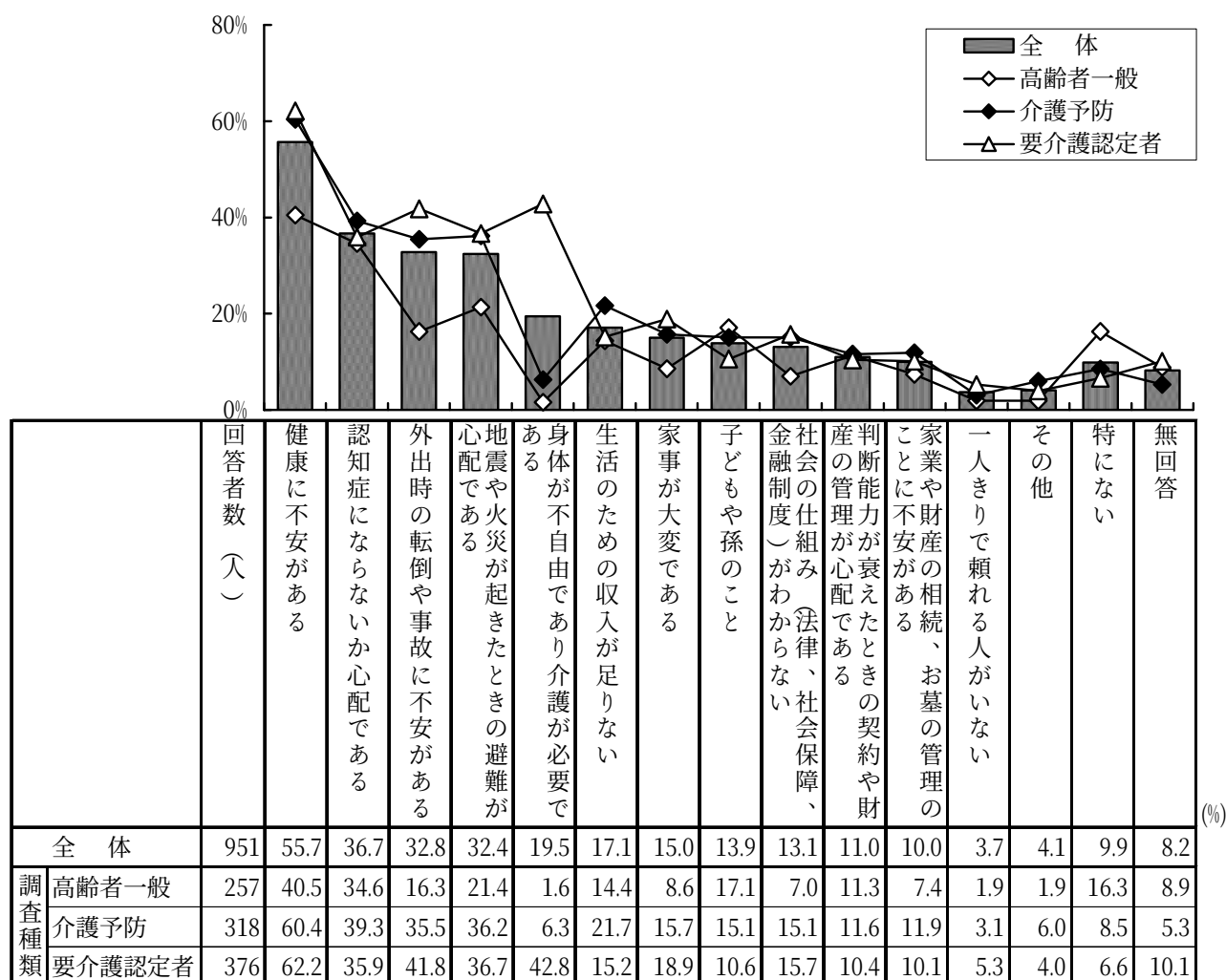
調査種類別にみると、要介護認定者は「健康に不安がある」、「外出時の転倒や事故に不安がある」「地震や火災が起きたときの避難が心配である」「身体が不自由であり介護が必要である」が高く、多くの不安、悩み、心配ごとをかかえている様子がうかがえます。

性別にみると、男性よりも女性のほうが、「認知症にならないか心配である」、「外出時の転倒や事故に不安がある」、「地震や火災が起きたときの避難が心配である」など多くの項目で高くなっています。

年齢別にみると、84歳以下では「健康に不安がある」、「認知症にならないか心配である」が高くなっています。75歳以上では「外出時の転倒や事故に不安がある」、「地震や火災が起きたときの避難が心配である」が高くなっています。「身体が不自由であり介護が必要である」は80歳以上でやや高くなり、90歳以上では半数となっています。

世帯構成別にみると、ひとり暮らし世帯では「外出時の転倒や事故に不安がある」、夫婦のみ世帯では「健康に不安がある」、その他世帯では「身体が不自由であり介護が必要である」がやや高くなっています。

図表 2-18 日常生活での不安、悩み、心配ごと



図表 2-19 日常生活での不安、悩み、心配ごと（性別、年齢別、世帯構成別）

		回答者数 (人)	健康に不安がある	認知症にならないか心配である	外出時の転倒や事故に不安がある	地震や火災が起きたときの避難が心配である	身体が不自由であり介護が必要である	生活のための収入が足りない	家事が大変である	子どもや孫のこと	(%)
	全 体	951	55.7	36.7	32.8	32.4	19.5	17.1	15.0	13.9	
性別	男性	393	55.7	34.1	29.3	29.5	20.6	18.8	12.0	14.8	
	女性	539	56.4	39.0	35.4	34.7	18.4	15.8	17.6	13.0	
年齢	65歳～69歳	155	56.1	39.4	24.5	27.7	20.6	23.9	9.0	18.7	
	70歳～74歳	187	55.1	39.6	29.9	31.6	10.7	24.1	13.4	14.4	
	75歳～79歳	236	59.3	38.6	35.6	32.2	14.0	16.9	19.1	16.1	
	80歳～84歳	187	62.0	37.4	39.6	36.4	23.5	11.2	21.9	10.2	
	85歳～89歳	106	41.5	28.3	31.1	32.1	23.6	5.7	10.4	8.5	
	90歳以上	48	52.1	29.2	35.4	33.3	50.0	10.4	6.3	6.3	
世帯構成	ひとり暮らし世帯	126	54.8	31.0	41.3	34.9	15.1	21.4	24.6	9.5	
	夫婦のみ世帯	333	58.3	36.9	34.2	36.0	16.5	18.3	15.6	13.8	
	その他世帯	471	54.8	37.8	29.7	29.5	22.3	15.3	12.7	15.1	

		回答者数 (人)	社会の仕組み（法律、金融制度）がわからない	社会の仕組（法律、金融制度）がわからない	判断能力が衰えたとき	契約能力が衰えたとき	心配である	墓の管理や財産の相続、不安がある	一人きりで頼れる人がいない	その他	特にな	無回答	(%)
	全 体	951	13.1	11.0	10.0	3.7	4.1	9.9	8.2				
性別	男性	393	12.2	11.5	9.4	3.1	4.1	12.0	7.6				
	女性	539	13.7	10.6	10.2	4.3	4.3	8.5	7.8				
年齢	65歳～69歳	155	7.1	12.9	9.0	1.3	3.2	5.8	6.5				
	70歳～74歳	187	17.6	10.2	9.6	3.2	3.2	11.8	5.3				
	75歳～79歳	236	15.3	13.1	13.1	5.5	5.1	10.2	8.1				
	80歳～84歳	187	13.4	11.2	8.0	3.2	4.8	8.6	10.2				
	85歳～89歳	106	9.4	7.5	7.5	4.7	4.7	17.0	7.5				
	90歳以上	48	12.5	-	4.2	2.1	2.1	8.3	8.3				
世帯構成	ひとり暮らし世帯	126	15.1	15.9	15.9	16.7	4.8	9.5	8.7				
	夫婦のみ世帯	333	13.8	15.6	11.4	1.5	4.8	9.0	8.1				
	その他世帯	471	12.3	6.6	7.4	1.9	3.6	10.8	7.4				

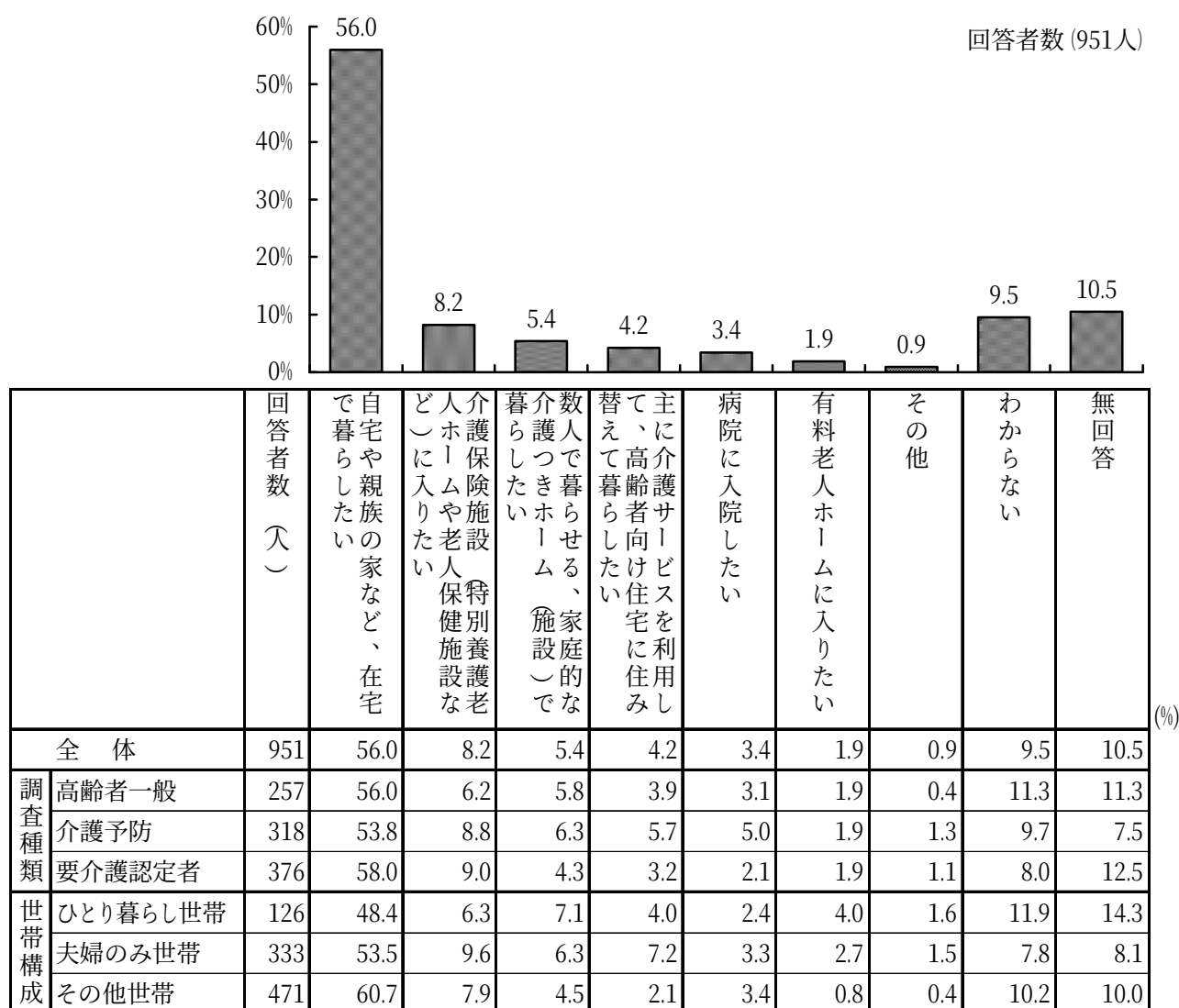
問 2 3 あなたは、今後どこで介護を受けたいと思いますか。(もっとも近い考えひとつだけ○)

今後どこで介護を受けたいかについてたずねたところ、全体でみると、「自宅や親族の家など、在宅で暮らしたい」が56.0%と最も高くなっています。次いで、「わからない」(9.5%)、「無回答」(10.5%)を除くと、「介護保険施設(特別養護老人ホームや老人保健施設など)に入りたい」が8.2%、「数人で暮らせる、家庭的な介護つきホーム(施設)で暮らしたい」が5.4%、「主に介護サービスを利用して、高齢者向け住宅に住み替えて暮らしたい」が4.2%などの順となっています。

調査種類別にみると、どの対象者とも「自宅や親族の家など、在宅で暮らしたい」が最も高くなっていますが、介護予防、要介護認定者は「介護保険施設(特別養護老人ホームや老人保健施設など)に入りたい」もやや高くなっています。

世帯構成別にみると、どの世帯でも「自宅や親族の家など、在宅で暮らしたい」が最も高くなっています。なお、ひとり暮らし世帯は「数人で暮らせる、家庭的な介護つきホーム(施設)で暮らしたい」、夫婦のみ世帯は「主に介護サービスを利用して、高齢者向け住宅に住み替えて暮らしたい」、「介護保険施設(特別養護老人ホームや老人保健施設など)に入りたい」、その他世帯は「介護保険施設(特別養護老人ホームや老人保健施設など)に入りたい」がやや高くなっています。

図表 2-20 今後どこで介護を受けたいか



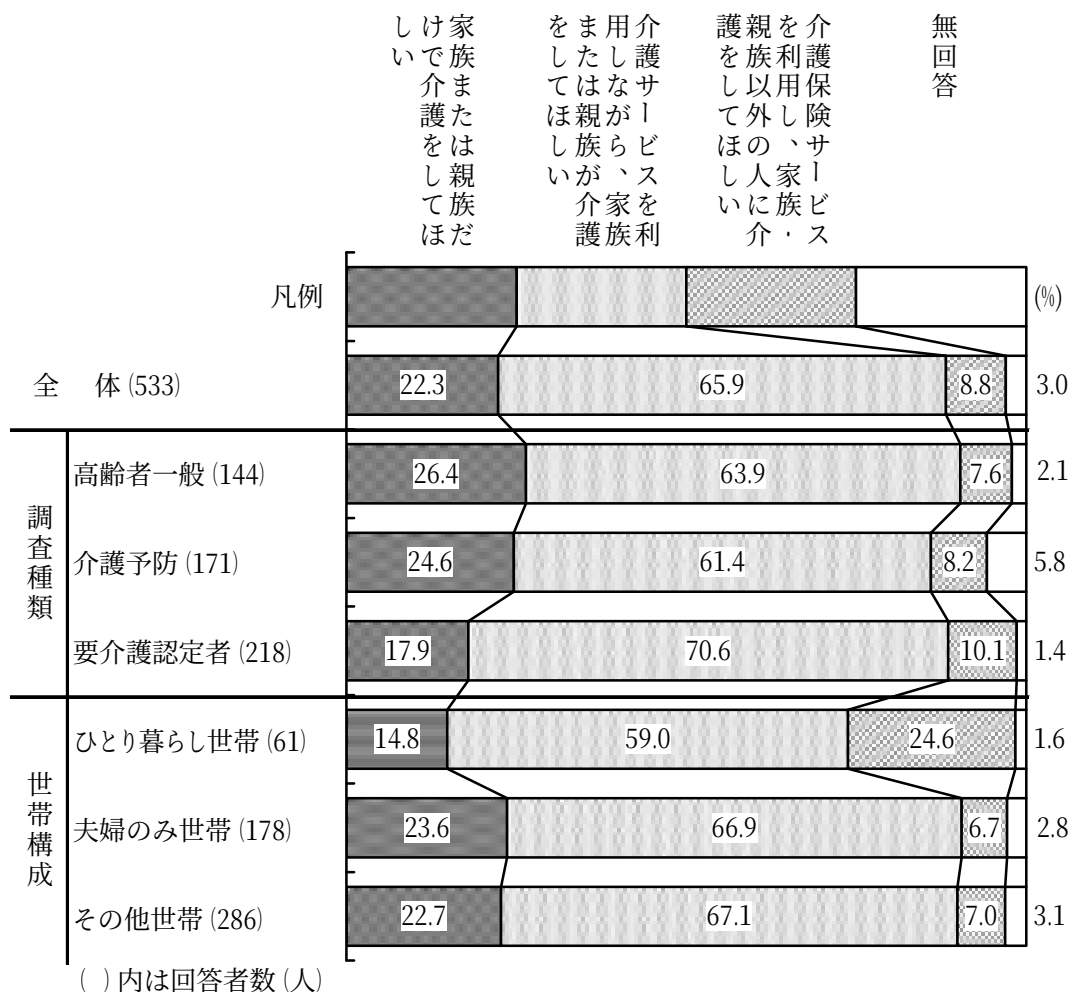
問23-1 問23で「1」と回答した方へ、今後どなたから介護を受けたいと思いますか。
(もっとも近い考えひとつだけ○)

今後どこで介護を受けたいかで「自宅や親族の家など、在宅で暮らしたい」と回答した人に、今後だれから介護を受けたいかについてたずねたところ、全体でみると、「家族または親族だけで介護をしてほしい」が22.3%、「介護サービスを利用しながら、家族または親族が介護をしてほしい」が65.9%、「介護保険サービスを利用し、家族・親族以外の人に介護をしてほしい」が8.8%となっています。

調査種類別にみると、高齢者一般、介護予防、要介護認定者の順に、「家族または親族だけで介護をしてほしい」の割合が低くなり、代わって、「介護サービスを利用しながら、家族または親族が介護をしてほしい」、「介護保険サービスを利用し、家族・親族以外の人に介護をしてほしい」の割合が高くなっています。

世帯構成別にみると、どの世帯構成でも「介護サービスを利用しながら、家族または親族が介護をしてほしい」が最も高くなっていますが、ひとり暮らし世帯では「介護保険サービスを利用し、家族・親族以外の人に介護をしてほしい」、夫婦のみ世帯、その他世帯では「家族または親族だけで介護をしてほしい」、「介護サービスを利用しながら、家族または親族が介護をしてほしい」がやや高くなっています。

図表 2-21 自宅等の場合、今後だれから介護を受けたいか



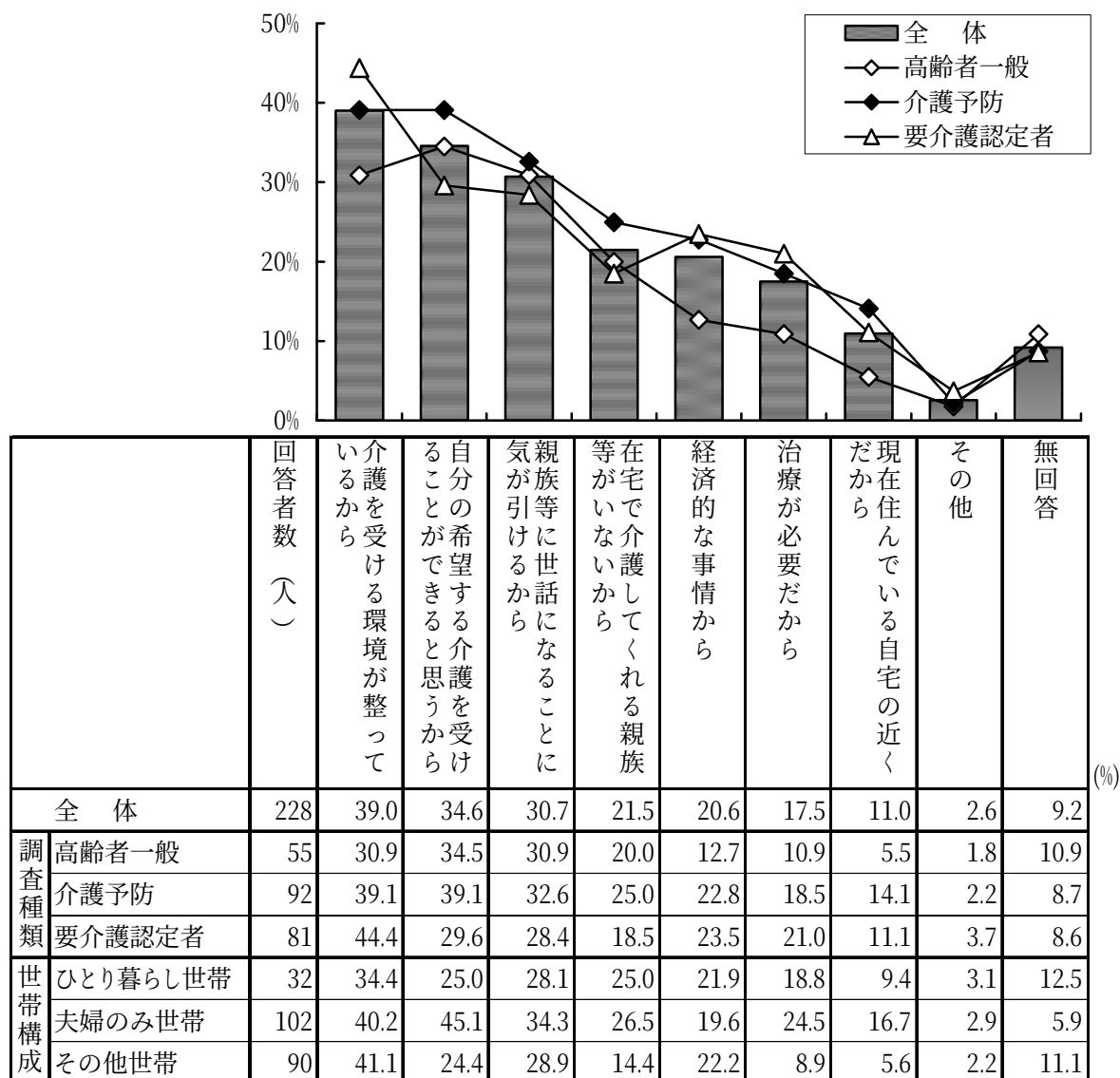
問23-2 問23で「2～7」と回答した方へ、その場所を選んだのは、どのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)

今後どこで介護を受けたいかで「自宅や親族の家など、在宅で暮らしたい」以外と回答した人に、介護を受けたい場所を選んだ理由についてたずねたところ、全体でみると、「介護を受ける環境が整っているから」が39.0%と最も高くなっています。次いで、「自分の希望する介護を受けることができると思うから」が34.6%、「親族等に世話になることに気が引けるから」が30.7%、「在宅で介護してくれる親族等がないから」が21.5%、「経済的な事情から」が20.6%などの順となっています。

調査種類別にみると、高齢者一般は「自分の希望する介護を受けることができると思うから」、介護予防は「介護を受ける環境が整っているから」、「自分の希望する介護を受けることができると思うから」が最も高くなっています。要介護認定者では「介護を受ける環境が整っているから」が最も高く、「治療が必要だから」もやや高くなっています。

世帯構成別にみると、ひとり暮らし世帯とその他世帯では「介護を受ける環境が整っているから」、夫婦のみ世帯では「自分の希望する介護を受けることができると思うから」が最も高くなっています。また、夫婦のみ世帯では「親族等に世話になることに気が引けるから」もやや高くなっています。

図表 2-22 自宅等以外の場合、介護を受けたい場所を選んだ理由



問2-4 あなたは、人生の最期を迎える場所は、どこを希望していますか。（ひとつだけ○）

人生の最期を迎える場所で希望するところについてたずねたところ、全体でみると、「自宅」が51.3%と最も高くなっています。次いで、「病院」が19.6%、「施設」が3.4%の順となっています。なお、「わからない」が16.7%となっています。

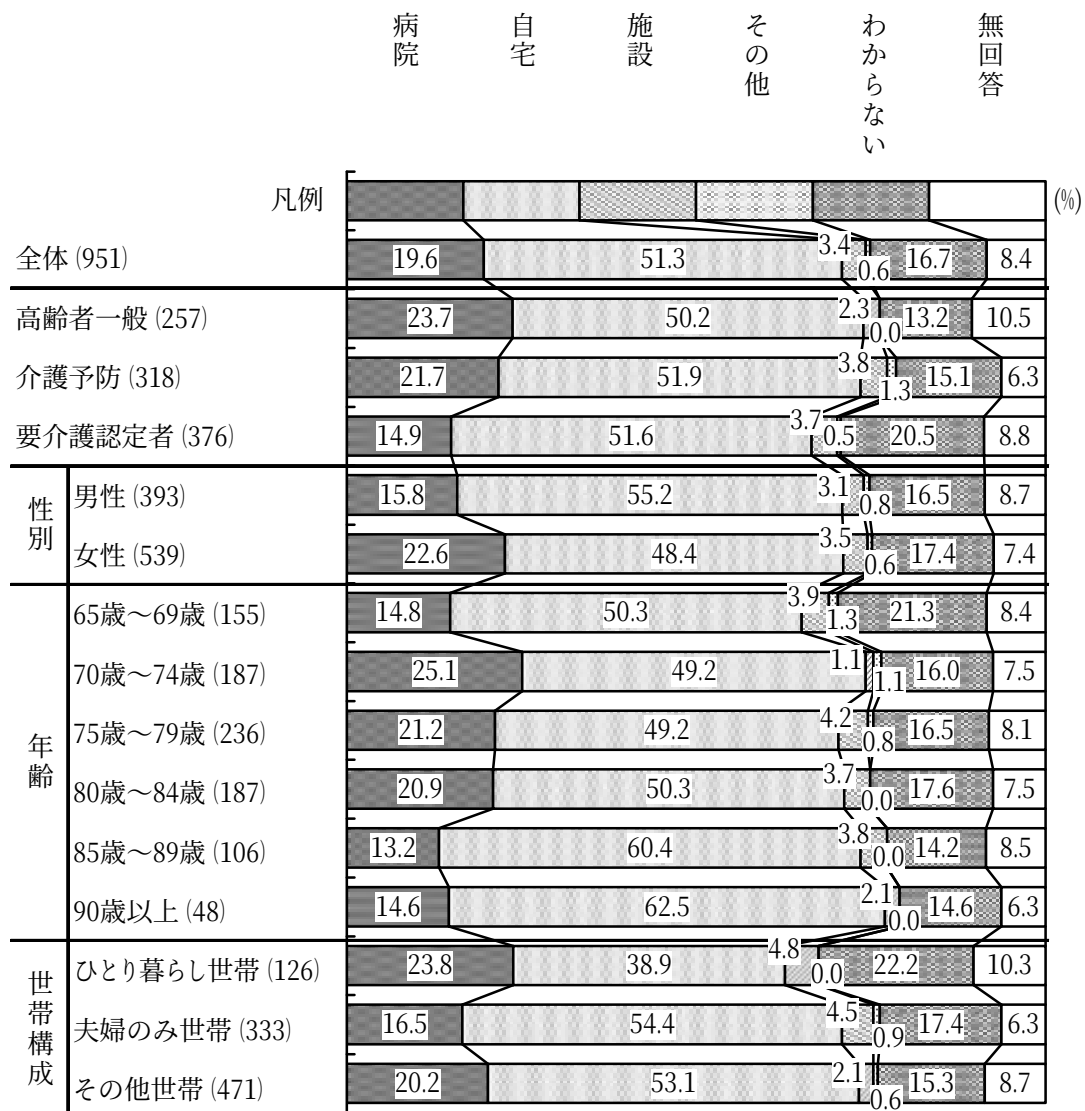
調査種類別にみると、いずれも「自宅」が5割強と差はありませんが、要介護認定者では「病院」がやや低く、「わからない」がやや高くなっています。

性別にみると、男性は「自宅」、女性は「病院」が高くなっています。

年齢別にみると、85歳以上では「自宅」が高くなっています。65～69歳では「わからない」、70～84歳では「病院」がやや高くなっています。

世帯構成別にみると、ひとり暮らし世帯では「病院」、夫婦のみ世帯とその他世帯では「自宅」が高くなっています。

図表 2-23 人生の最期を迎える場所で希望するところ



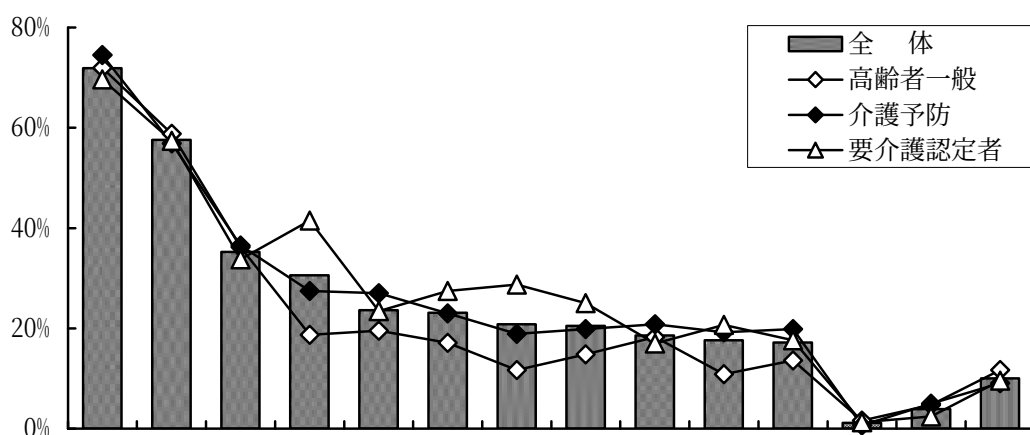
()内は回答者数(人)

問25 あなたは、在宅で暮らし続けるために必要なことは、どのようなことだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

在宅で暮らし続けるために必要と思うことについてたずねたところ、全体でみると、「住み続けられる住まいがある」が71.9%と最も高くなっています。次いで、「家族が同居している、または近くにいる」が57.6%、「身近に利用できる医療機関がある」が35.3%、「日中に訪問介護や通所サービスなど、普段から利用できる介護サービスがある」が30.6%などの順となっています。

調査種類別にみると、「住み続けられる住まいがある」、「家族が同居している、または近くにいる」、「身近に利用できる医療機関がある」は、高齢者一般、介護予防、要介護認定者で差がありません。「日中に訪問介護や通所サービスなど、普段から利用できる介護サービスがある」、「必要に応じて、通ったり、宿泊することができるような介護サービスがある」、「入浴のみ、食事のみ、リハビリのみなど、短時間の通所サービスが受けられる」、「介護者の入院など緊急時に入所可能な短期入所サービスが利用できる」は要介護認定者でやや高くなっています。

図表 2-24 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと



		回答者数（人）	住み続けられる住まいがある	家族が同居している、または近くにいます	身近に利用できる医療機関がある	日中に訪問介護や通所サービスなど、普段から利用できる介護サービスがある	自宅に医師が訪問して診療してくれる	必要に応じて、通ったり、宿泊することができるような介護サービスがある	入浴のみ、食事のみ、リハビリのみなど、短時間の通所サービスが受けられる	介護者の入院など緊急時に入所可能な短期入所サービスが利用できる	見守ってくれる友人・知人が近くにいます	介護者の心身の負担を軽減するさまざまな支援がある	夜間にも訪問介護や訪問看護など、訪問してくれる介護サービスがある	その他	わからない	無回答
全 体		951	71.9	57.6	35.3	30.6	23.6	23.1	20.8	20.5	18.6	17.6	17.2	1.2	3.9	10.0
調査種類	高齢者一般	257	72.0	58.8	36.2	18.7	19.5	17.1	11.7	14.8	18.3	10.9	13.6	1.6	4.7	11.7
	介護予防	318	74.5	56.9	36.5	27.4	27.0	23.0	18.9	19.8	20.8	19.2	19.8	0.6	5.0	9.1
	要介護認定者	376	69.7	57.4	33.8	41.5	23.4	27.4	28.7	25.0	17.0	20.7	17.6	1.3	2.4	9.6

性別にみると、「住み続けられる住まいがある」は、女性より男性のほうがやや高くなっています。その他については、いずれの項目とも男性より女性のほうが高くなっています。

年齢別にみると、「住み続けられる住まいがある」は、どの年齢でも7割前後と最も高くなっています。

「日中に訪問介護や通所サービスなど、普段から利用できる介護サービスがある」、「自宅に医師が訪問して診療してくれる」、「必要に応じて、通ったり、宿泊することができるような介護サービスがある」、「入浴のみ、食事のみ、リハビリのみなど、短時間の通所サービスが受けられる」、「介護者の入院など緊急時に入所可能な短期入所サービスが利用できる」が65～69歳で高いほかは、おおむね70歳以上では年齢が高くなるにつれて高くなっています。

世帯構成別にみると、「住み続けられる住まいがある」はどの年齢でも7割強で差がありません。その他では、ひとり暮らし世帯では「見守ってくれる友人・知人が近くにいる」、その他世帯では「家族が同居している、または近くにいる」、「介護者の入院など緊急時に入所可能な短期入所サービスが利用できる」が高くなっています。

図表 2-25 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと（性別、年齢別、世帯構成別）

		回答者数 (人)	住み続けられる 住まいがある	家族が同居している、 または近くにいる	身近に利用できる医療 機関がある	日中に訪問介護や通所 サービスなど、普	自宅に医師が訪問して 診療してくれる	が必要に応じて、通つ たり、宿泊すること	ど、入浴のみ、食事の み、リハビリのみな	期入所サービスの利用 ができる	見守ってくれる友人・ 知人が近くにいる	な介護者の心身の負担 を軽減するさまざま	夜間にも訪問介護や 訪問看護など、訪問
	全 体	951	71.9	57.6	35.3	30.6	23.6	23.1	20.8	20.5	18.6	17.6	17.2
性別	男性	393	74.8	54.7	33.3	25.2	22.6	19.3	19.3	18.1	15.5	17.0	17.0
	女性	539	70.7	60.3	37.1	34.9	24.7	26.2	22.1	22.4	21.0	18.4	17.8
年齢	65歳～69歳	155	72.3	59.4	39.4	38.1	29.7	32.3	26.5	26.5	17.4	25.8	25.8
	70歳～74歳	187	76.5	59.4	35.3	22.5	19.8	18.7	16.0	13.4	19.3	12.3	13.9
	75歳～79歳	236	70.8	51.7	31.8	25.4	18.6	16.1	17.4	17.8	20.3	14.8	13.6
	80歳～84歳	187	72.7	56.7	35.3	35.3	26.7	27.8	22.5	22.5	21.4	19.8	18.7
	85歳～89歳	106	69.8	63.2	35.8	30.2	23.6	23.6	22.6	18.9	13.2	16.0	17.0
	90歳以上	48	68.8	72.9	43.8	47.9	37.5	27.1	29.2	37.5	14.6	22.9	18.8
世帯構成	ひとり暮らし世帯	126	72.2	27.0	29.4	31.0	17.5	12.7	20.6	9.5	26.2	8.7	12.7
	夫婦のみ世帯	333	72.4	52.3	36.0	27.3	24.0	23.1	19.8	19.5	15.6	17.4	20.4
	その他世帯	471	72.2	70.3	36.3	32.9	24.8	26.3	21.9	24.0	18.9	20.0	16.3

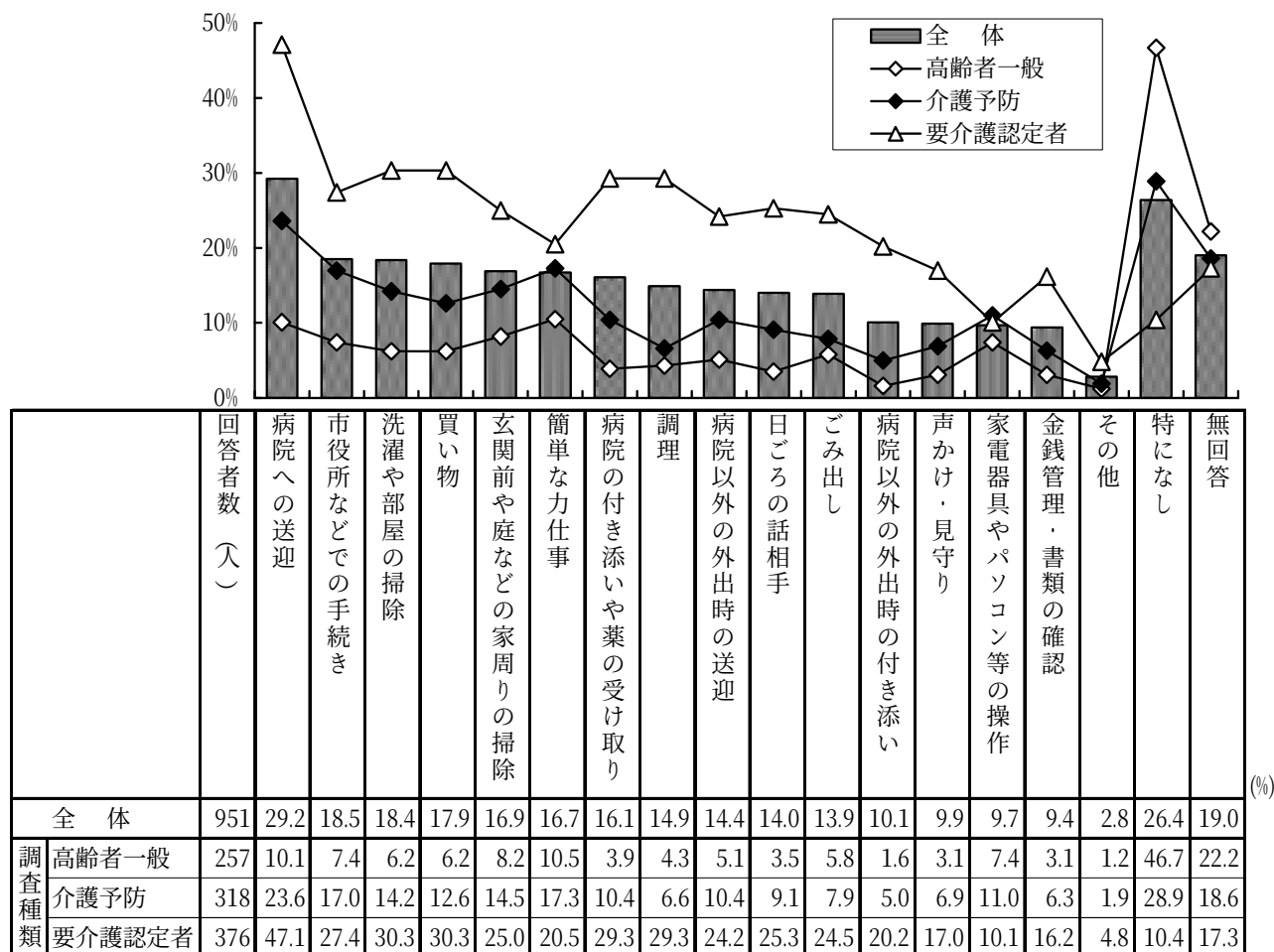
※「その他」、「わからない」、「無回答」は、表示を省略する。

問 2 6 あなたは、普段の生活の中で手助けしてほしいことが何かありますか。
(あてはまるものすべてに○)

普段の生活の中で手助けしてほしいことについてたずねたところ、全体でみると、「病院への送迎」が29.2%と最も高くなっています。次いで、「市役所などでの手続き」が18.5%、「洗濯や部屋の掃除」が18.4%、「買い物」が17.9%、「玄関前や庭などの家周りの掃除」が16.9%、「簡単な力仕事」が16.7%、「病院の付き添いや薬の受け取り」が16.1%などの順となっています。なお、「特になし」が26.4%となっています。

調査種類別にみると、「家電器具やパソコン等の操作」を除き、各項目とも要介護認定者、介護予防、高齢者一般の順で低くなっています。特に要介護認定者では、「病院への送迎」が5割弱のほか、多くの項目で2～3割と高くなっています。一方、「特になし」は、要介護認定者、介護予防、高齢者一般の順で高くなっています。

図表 2-26 普段の生活の中で手助けしてほしいこと



性別にみると、「特になし」は、女性より男性のほうが高くなっています。その他については、いずれの項目とも男性より女性のほうが高くなっています。

年齢別にみると、「簡単な力仕事」、「家電器具やパソコン等の操作」を除き、おおむね年齢が高くなるにつれて各項目とも高くなっています。「病院への送迎」は75歳以上では3割超～4割超と高くなっています。

世帯構成別にみると、ひとり暮らし世帯では、「市役所などでの手続き」、「洗濯や部屋の掃除」、「買い物」、「玄関前や庭などの家周りの掃除」、「簡単な力仕事」、「病院の付き添いや薬の受け取り」、「調理」、「病院以外の外出時の送迎」、「日ごろの話相手」、「ごみ出し」、「病院以外の外出時の付き添い」、「声かけ・見守り」、「家電器具やパソコン等の操作」、「金銭管理・書類の確認」、「その他」、「特になし」が高くなっています。「特になし」は夫婦のみ世帯で3割超と高くなっています。

図表 2-27 普段の生活の中で手助けしてほしいこと（性別、年齢別、世帯構成別）

	回答者数 (人)	病院への送迎	市役所などでの手続き	洗濯や部屋の掃除	買い物	玄関前や庭などの家周りの掃除	簡単な力仕事	病院の付き添いや薬の受け取り	調理	病院以外の外出時の送迎	日ごろの話相手	ごみ出し	病院以外の外出時の付き添い	声かけ・見守り	家電器具やパソコン等の操作	金銭管理・書類の確認	その他	特になし	無回答
全 体	951	29.2	18.5	18.4	17.9	16.9	16.7	16.1	14.9	14.4	14.0	13.9	10.1	9.9	9.7	9.4	2.8	26.4	19.0
性別																			
男性	393	25.4	16.8	15.3	12.5	12.5	12.7	14.2	13.0	13.0	11.2	8.9	8.7	7.6	9.4	8.1	2.0	33.1	20.9
女性	539	32.3	19.9	20.8	22.1	20.2	19.5	17.4	16.5	15.6	16.5	17.6	10.9	11.9	10.0	10.2	3.5	22.3	16.7
年齢																			
65歳～69歳	155	20.0	16.1	14.2	12.9	13.5	10.3	10.3	11.6	12.3	11.6	13.5	7.7	9.0	8.4	6.5	3.2	36.1	19.4
70歳～74歳	187	15.5	13.9	9.6	7.5	9.6	13.4	7.5	8.6	9.1	4.8	8.0	6.4	5.9	8.0	4.8	1.1	36.4	19.8
75歳～79歳	236	30.1	18.2	20.3	20.8	19.1	17.4	11.9	12.3	14.0	13.6	16.9	8.1	9.7	8.1	8.9	1.3	30.1	17.4
80歳～84歳	187	43.3	25.1	25.1	22.5	19.8	22.5	24.1	21.9	20.9	21.9	13.9	13.4	13.4	16.0	12.8	3.2	13.9	18.2
85歳～89歳	106	32.1	18.9	18.9	24.5	23.6	18.9	25.5	19.8	17.0	19.8	13.2	11.3	10.4	12.3	14.2	7.5	22.6	14.2
90歳以上	48	45.8	20.8	29.2	27.1	20.8	12.5	33.3	27.1	16.7	20.8	22.9	25.0	20.8	2.1	12.5	4.2	8.3	25.0
世帯構成																			
ひとり暮らし世帯	126	26.2	20.6	21.4	24.6	27.0	26.2	11.9	15.1	15.9	17.5	18.3	12.7	12.7	11.9	7.1	6.3	21.4	13.5
夫婦のみ世帯	333	26.4	18.3	19.5	15.0	15.6	15.3	12.3	15.6	13.5	12.6	11.7	9.0	7.5	11.7	9.3	2.4	31.2	16.8
その他世帯	471	32.5	18.3	17.4	18.5	15.5	15.5	20.0	14.6	15.1	14.2	14.4	10.2	10.8	7.6	10.2	2.3	25.1	21.0

(%)

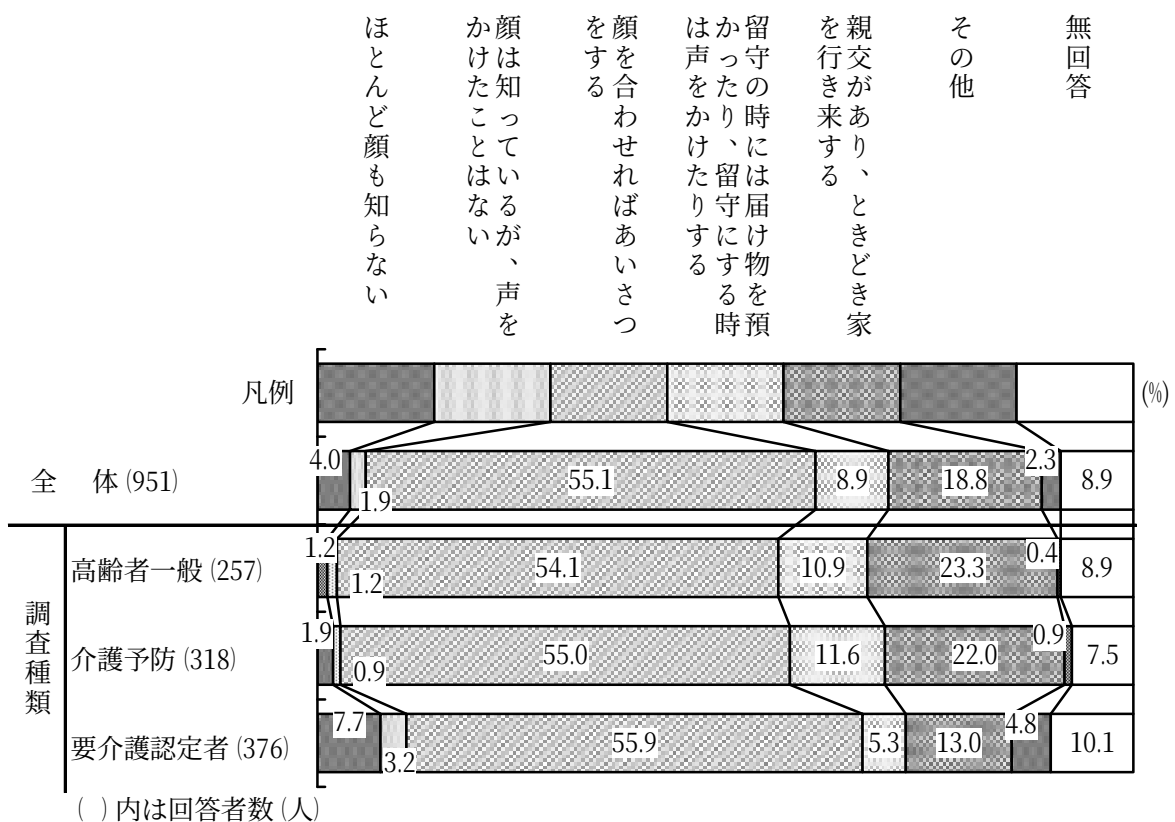
問 2 7 あなたは、ご近所の人とどの程度のつきあいをしていますか。(ひとつだけ○)

近所の人とのつきあいの程度についてたずねたところ、全体でみると、「ほとんど顔も知らない」が4.0%、「顔は知っているが、声をかけたことはない」が1.9%、「顔を合わせればあいさつをする」が55.1%、「留守の時には届け物を預かったり、留守にする時は声をかけたりする」が8.9%、「親交があり、ときどき家を行き来する」が18.8%となっています。

調査種類別にみると、「ほとんど顔も知らない」は、高齢者一般、介護予防、要介護認定者の順で高くなっています。一方、「親交があり、ときどき家を行き来する」は、高齢者一般、介護予防、要介護認定者の順で低くなっています。

要介護認定者については、「留守の時には届け物を預かったり、留守にする時は声をかけたりする」も低くなっており、近所の人との付き合いが薄くなっていることがうかがえます。

図表 2-28 近所の人とのつきあいの程度



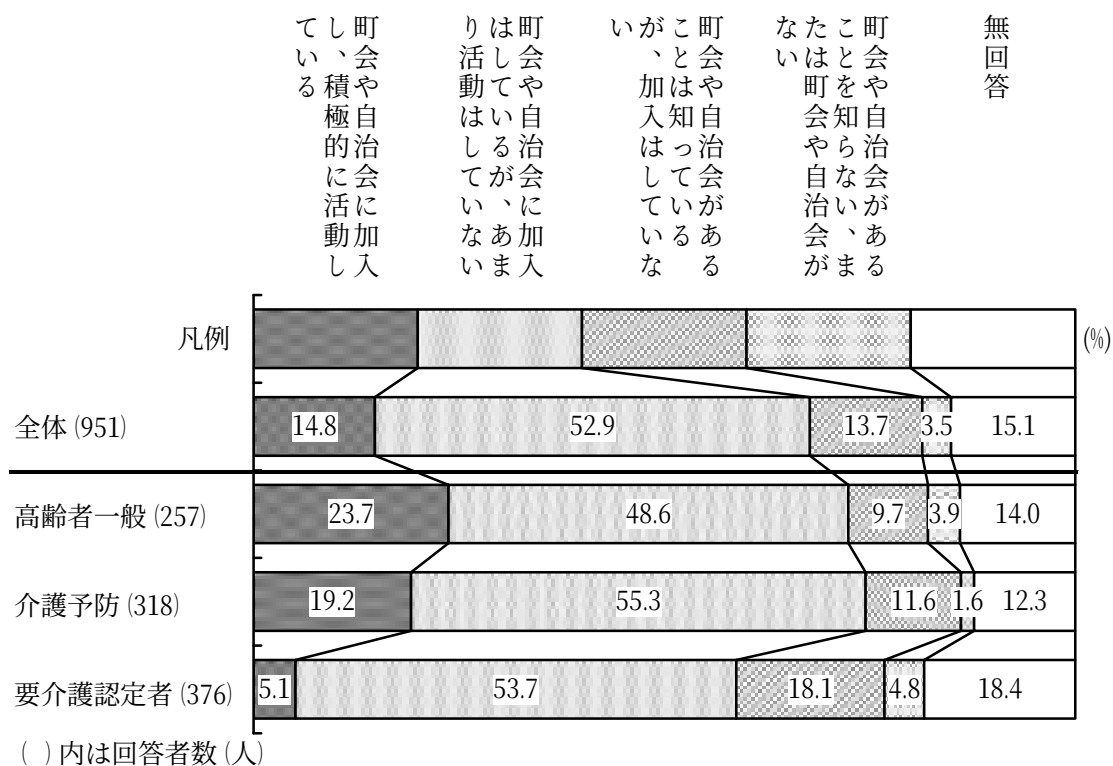
問 2 8 あなたは、町会や自治会に加入していますか。(ひとつだけ○)

町会や自治会への加入状況についてたずねたところ、全体でみると、「町会や自治会に加入し、積極的に活動している」が14.8%、「町会や自治会に加入はしているが、あまり活動はしていない」が52.9%、「町会や自治会があることは知っているが、加入はしていない」が13.7%、「町会や自治会があることを知らない、または町会や自治会がない」が3.5%となっています。

調査種類別にみると、「町会や自治会に加入し、積極的に活動している」は、高齢者一般、介護予防、要介護認定者の順で低くなっています。一方、「町会や自治会があることは知っているが、加入はしていない」は、高齢者一般、介護予防、要介護認定者の順で高くなっています。

要介護認定者については、近所の人との付き合いの程度と同様に、町会や自治会での活動や加入が低くなっていることがうかがえます。

図表 2-29 町会や自治会への加入状況



問２９ あなたは、木更津市の高齢者福祉施策について、今後充実してほしいと思うことはありますか。（あてはまるものすべてに○）

調査種類別にみると、介護予防は「介護を受けられる施設の整備」が最も高いほか、各項目についても高いものが多くなっています。高齢者一般と要介護認定者は、「介護する家族に対する支援」が最も高くなっています。高齢者一般と介護予防は、「健康増進事業」もやや高くなっています。

回答者数 (人)	全体	高齢者一般	介護予防	要介護認定者
介護する家族に対する支援	41%	37%	41%	44%
介護を受けられる施設の整備	41%	36%	44%	44%
申請や相談がしやすい窓口の設置	34%	31%	41%	30%
介護保険や市の在宅介護サービス	34%	28%	39%	34%
医療機関の整備など医療の充実	32%	32%	36%	27%
介護保険制度や市の高齢者施策に関する情報提供	28%	27%	31%	26%
介護保険制度や市の高齢者施策に関する情報提供	26%	20%	31%	26%
段差解消や歩道の設置など安全なまちづくり	22%	20%	27%	19%
定期的な見守りや安否確認など、地域の助けあい	22%	18%	23%	20%
高齢者の人権擁護	20%	22%	27%	12%
健康増進事業	17%	16%	19%	16%
介護を予防するための事業	14%	13%	16%	13%
高齢者のための住宅施策	10%	6%	12%	6%
高齢者の就労や社会参加の支援	2%	2%	2%	3%
その他	2%	2%	2%	3%
特にない	7%	6%	8%	5%
無回答	13%	12%	10%	16%

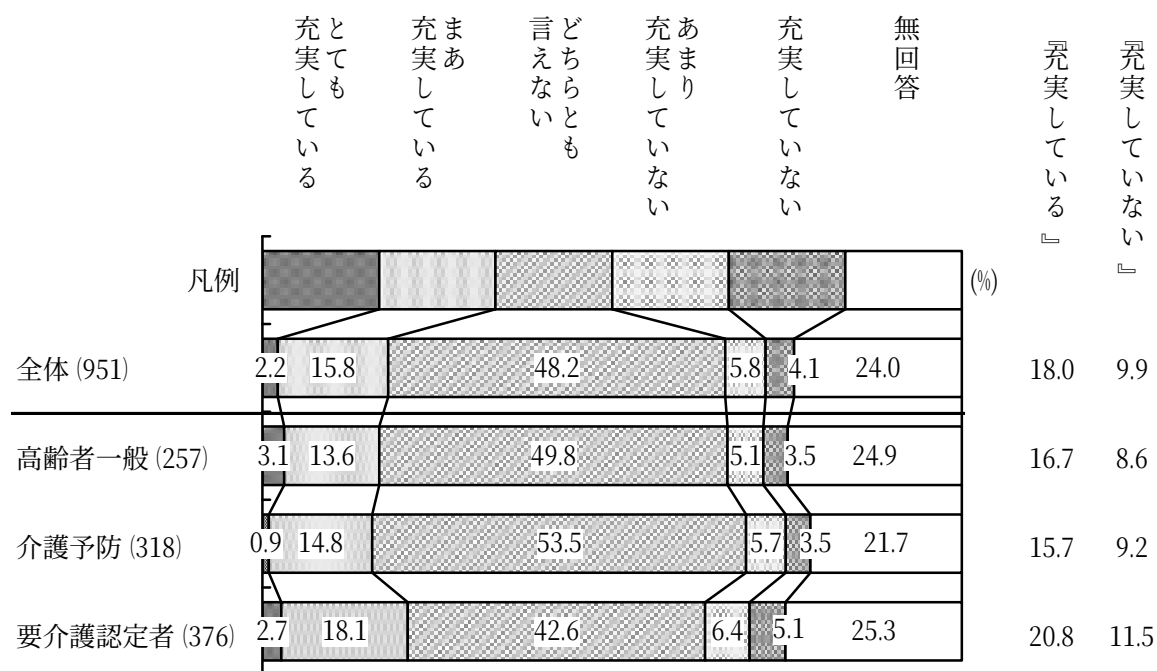
(%)

問30 木更津市の高齢者福祉施策について、あなたはどのように感じますか。
(もっとも近い考えひとつだけ○)

木更津市の高齢者福祉施策の充実度についてたずねたところ、全体でみると、「とても充実している」が2.2%、「まあ充実している」が15.8%であり、合わせて『充実している』は18.0%となっています。一方、「どちらとも言えない」が48.2%、また、「あまり充実していない」が5.8%、「充実していない」が4.1%であり、合わせて『充実していない』は9.9%となっています。

調査種類別にみると、要介護認定者は「まあ充実している」がやや高く、その分、「どちらとも言えない」がやや低くなっています。

図表 2-31 木更津市の高齢者福祉施策の充実度



()内は回答者数(人)

※『充実している』＝「とても充実している」＋「まあ充実している」、

『充実していない』＝「充実していない」＋「あまり充実していない」

問30（続き） 「4 あまり充実していない」、「5 充実していない」と答えた方へ、そのように感じている理由は何ですか

※そのように感じている理由【調査種別、性別、年齢、居住地区、世帯構成】

財政難を理由に、健康増進のための環境が整っていない。例えば、グラウンドゴルフ専用コート等。【介護予防、男性、70歳～74歳、木更津、親と同居】
車椅子を借りに行ったが、借りる事ができなかった。 【要介護認定者（居宅）、男性、65歳～69歳、波岡、子どもと同居】
どのデイサービスに行っても、食事・入浴・塗り絵・お手玉等のレクリエーションを過ごしている。もう少し一人一人に合った介護を希望する。リハビリも行えればよい。施設で働く方の研修や、施設同士の交流をお願いする。 【要介護認定者（居宅）、男性、65歳～69歳、中郷、夫婦ふたり暮らし】
介護保険料が何に使われているのかが、全然わからない。 【介護予防、男性、65歳～69歳、富来田、子どもと同居】
療法士が特にほしい。ホームヘルパーの数が足りないようである。 【要介護認定者（居宅）、男性、70歳～74歳、木更津、子どもと孫と同居】
特別養護老人ホームが少ない。【高齢者一般、男性、75歳～79歳、岩根、夫婦ふたり暮らし】
時々、公民館活動の行事で老人福祉施設等見学に行くが、入所手続き及び入所までの年月待ちが2～3年待ちとの声を聞き、残念に思う。 【要介護認定者（居宅）、男性、80歳～84歳、波岡、子どもと同居】
通所サービス等は利用できるが、施設・特別養護老人ホーム・老人保健施設の利用が難しい（入所待ち人数）。【要介護認定者（居宅）、女性、85歳～89歳、波岡、子どもと同居】
車社会が優先し、買物難民のようである。近くに食料品店がほしいと、常々思っている。【高齢者一般、女性、65歳～69歳、岩根、子どもと孫と同居】
民生委員がここ10年で2～3回しかお見えにならない。市の方はゼロ。定期的な見守りや安否確認等、地域の助け合いをしてほしい。【介護予防、女性、80歳～84歳、木更津、ひとり暮らし】
参加できる集まりや、同じ年代の人との交流ができる場所等がない。相談窓口がないし遠い。 【要介護認定者（居宅）、男性、75歳～79歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】
他の都市に比べ財政が乏しいためか、もう少し福祉に力を注いでもらいたい。 【要介護認定者（居宅）、男性、65歳～69歳、木更津、子どもと同居】
近くに住む高齢者を何人か見ているが、きめ細かい施策が欠けていると思う。 【介護予防、男性、65歳～69歳、岩根、子どもと同居】
介護を必要とする以前に、木更津市の高齢者施策についての情報提供をお願いする。 【高齢者一般、男性、70歳～74歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】
たくさんあるが、市として福祉施策全般に消極的である。 【介護予防、男性、70歳～74歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】
特別なPRもないし、今まで福祉関係の情報を受けた事もない。保険料を徴収されるのみ。 【介護予防、男性、70歳～74歳、木更津、ひとり暮らし】
病院が少ない。病院への交通機関が少ない。休日指定の医院等を利用する時、路線バス等がない場所である事が多い。【介護予防、男性、75歳～79歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】
高齢者福祉の対策は、どんな事をしているのか全然わからない。 【高齢者一般、男性、85歳～89歳、富来田、ひとり暮らし】
公民館・図書館等にエレベーターがほしい。図書館に文化的催物があっても諦めている方が多い。老人も学ぶ事には変わらない。 【要介護認定者（居宅）、女性、75歳～79歳、岩根、ひとり暮らし】

問3 1 木更津市の高齢者福祉施策へのご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

※意見・要望の回答内容【調査種別、性別、年齢、居住地区、世帯構成】

<住環境について>

お金のない生きる事に精一杯だった者として、安く入れる施設は絶対的に必要だと思う。私の住んでいる畑沢等、20年後は空き家だらけだと思ってしまう。家を担保にでも入れるような医療ホームができたらと願っている。子どもたちにも頼れない現状、「終の住み家」はホームに頼らざるを得ない。早急の対策をお願いする。【介護予防、女性、65歳～69歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】

現在、元気なので、あまり身近に考えていないが、それなりに病気になった時は、自分の家で暮らしたい。【高齢者一般、女性、70歳～74歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】

公共の住宅型有料高齢者ホームを建ててほしい。一寸した事でも聞ける、相談できる窓口を開設してほしい。【介護予防、女性、75歳～79歳、清川、夫婦ふたり暮らし】

介護保険制度が始まって以来、若い時には考えなかった老後について、考えさせられる事が多々ある。その大きな一つは、最後には施設かなという事だ。こんな思いは、私一人だけならよいが。もっと在宅重視の介護保険制度であってほしい。【高齢者一般、女性、80歳～84歳、木更津、子どもと孫と同居】

子どもと同居していても、上手く行かない場合もある。でも、孫と遠く離れたくない気持ちもある。同じ木更津市内にケアハウス、または、高専（高齢者専用住宅）を造っていただけたらありがたい。

【要介護認定者（居宅）、女性、85歳～89歳、木更津、子どもと孫と同居】

<健康状態について>

介護予防のため、後期高齢者の健康診査の項目を、国保の基本健康診査の項目に戻してほしい。理由は、診査項目が減っているため、気付いた時には手遅れになっている。

【介護予防、男性、80歳～84歳、岩根、夫婦ふたり暮らし】

<介護予防について>

高齢者が元気で生甲斐を感じつつ、毎日の生活を過ごせれば最高と思う。私は市内の公民館ダンスサークルに入部し、週3日、2～3時間踊りこみ、何人かと交流し、身体を動かし、汗を流している。これが元気の源と思っている。正月早々サークルの新年会に参加、部員の方々に本年の抱負を発表していただいた折、「やはりダンスサークルでのレッスンに生甲斐を感じている」と全員が答えた。生甲斐を感じられる事を公民館等で企画し、定年前後に生甲斐を見つけられるよう、手を貸されてはどうか。

【高齢者一般、男性、75歳～79歳、波岡、子どもと同居】

介護を受けるようになってからではなく、元気でいられるような事を、早めに各地域別に行っていけばよいのではないか。【要介護認定者（居宅）、女性、80歳～84歳、富来田、子どもと孫と同居】

<介護サービスの利用について>

低所得者（収入が基礎年金のみの者）向けの介護施設（入所施設）を増やしてほしい。介護施設への入所の順番を待っている間に死亡しそうだ。【高齢者一般、男性、65歳～69歳、鎌足、子どもと同居】

主人は若年性の認知症です。週2日デイサービスに行っているが、ほぼ80歳以上の女性に囲まれて折り紙や塗り絵等させられている。年齢の若い方へのケアのあり方を考えていただきたいと思う。また、そこで

働く方の意識の問題もある。一人ひとりに合った、プロとしての介護を望む。ケアマネジャーも単に月1回書類に印をもらいに來るだけで、その専門性に疑問を感じている。もっともっと研修が必要であり、施設同士の磨き合い、交流を望む。 【要介護認定者（居宅）、男性、65歳～69歳、中郷、夫婦ふたり暮らし】
デイサービスの事業所にもよると思うが、ケアマネジャー・ホームヘルパーの教育、プロとしての質の向上をお願いしたい。スタッフが足りないと新人が増え、思うような介護ができないようだ。研修等お願いしたい。もう少し優しく接してほしい。本人の希望や受け入れの問題で、やむを得ず在宅介護をしている場合、介護者の負担が大きい。在宅介護手当等、支援してほしい。介護タクシー等、料金が高く負担が大きい。オムツの支給は、大変助かっている。 【要介護認定者（居宅）、男性、80歳～84歳、木更津、その他】
脳梗塞で入院したが、その後のリハビリ病院がなく、市原の病院に転院し、リハビリを行った。木更津市にもリハビリを重点的にやってもらえる病院があれば、寝たきりになってしまう方も少なく、介護する家族も介護費が減り、お互いに負担が少なくなるのと思った。デイケアも人数が一杯で入れない。 【要介護認定者（居宅）、女性、65歳～69歳、波岡、子どもと同居】
家族が介護している場合、家族に援助してほしい。 【要介護認定者（居宅）、女性、65歳～69歳、波岡、夫婦ふたり暮らし】
主人と娘の介護をしているので、自分が、病気が重くなり入院等をしたら、家族はどうなるのか心配である。 【高齢者一般、女性、65歳～69歳、清川、その他】
介護施設へ入所してサービスを受けたい人が入所待ちをしている等、見聞きしている。これらの施設を整備するには財源の問題等があり、一言では解決できないが、中・長期的計画を持って充実を図っていただければ幸いである。 【介護予防、女性、70歳～74歳、波岡、夫婦ふたり暮らし】
夜間にも介護を充実してほしい。 【要介護認定者（居宅）、女性、70歳～74歳、市外、子どもと孫と同居】
特別養護老人ホーム・老人保健施設等を増やしてほしい。旧君津中央病院の跡地を活用してほしい。建設に対して市民に募金を呼掛けるとよいと思う。 【高齢者一般、女性、75歳～79歳、木更津、子どもと同居】
紙オムツやパット等がいただける事で、大変助かっている。今後も続けてほしいです。現在、宅老所（小規模な多機能型）を利用しているが、大変よくしてもらっている。このような事業所を、今後増やしていく事が必要だと思う。 【要介護認定者（居宅）、女性、80歳～84歳、木更津、子どもと孫と同居】
現在、市内のデイケアセンターに通っているが、機能回復訓練という項目があるのにも関わらず、何もしていない。狭いためか、一日座りばなしで足腰が弱り、歩けなくなっている。市当局も現地調査し、指導してほしい。 【介護予防、女性、85歳～89歳、木更津、子どもと同居】
要介護認定を申請し、市の職員が調査をされたが、その後、何の連絡もなく、通知の書類も届いていない。一年後に再申請するかどうかの書類が届き、その時初めて要介護1に認定されていたのに気が付く。再調査に來られて、また何の連絡も来ない。どのようなフォローをしているのか、よくわからない。 【要介護認定者（居宅）、女性、85歳～89歳、木更津、その他】
何年も待たずに入居できる施設を増やしてほしい。 【要介護認定者（居宅）、女性、一、岩根、その他】

<今後の暮らしや住まいについて>

昨年6月に脳梗塞になり、地域包括支援センターを退院時、病院で知っていろいろと面倒を看ていただき、力強く感謝している。近くに子どもたちがいないため、今はどうしたらよいのか悩んだ時、地域包括支援センターに相談している。これから病気が進行した時、不安も多々出てくると思うが、通院病院が遠方なため、話だけでも聞いていただこうと思っている。 【要介護認定者（居宅）、男性、65歳～69歳、波岡、夫婦ふたり暮らし】
買物・通院の足の確保・支援。 【高齢者一般、男性、70歳～74歳、波岡、夫婦ふたり暮らし】
高齢者が介護や相談があっても、窓口に行けない人も多いと思うので、在宅で相談やお願いができるような事を考えてほしい。 【介護予防、男性、70歳～74歳、波岡、ひとり暮らし】
施設に入所を希望しても、収容可能数が不足しているため、相当待たなければならない。この間の対応が心配である。将来、不自由になった時、日常用務（買物等）ができない。代行サービスを充実してほしい。

【介護予防、男性、70 歳～74 歳、中郷、夫婦ふたり暮らし】
相談しやすい窓口、または、訪問されて相談相手になってほしい。
【高齢者一般、男性、75 歳～79 歳、清川、夫婦ふたり暮らし】
地域包括支援センターとの連携・コミュニケーションを緻密に取って、生活機能が低下している高齢者の保護・救済をお願いしたい。【介護予防、男性、85 歳～89 歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】
人間、食べなければ生きてゆけない。特に高齢者・独居老人には切実な問題である。当市で既存の出前をしている店をピックアップし、さらに意欲的な業者を市主催で募集し、一覧表にて回覧板等で周知させ、利用を向上させれば、業者も宣伝の一助となり、利用者が増えれば利益向上、ならびに競争意識により、配達料の低額や無料も期待できる。一考を。【介護予防、男性、85 歳～89 歳、木更津、ひとり暮らし】
一人暮らしになり、一日中言葉を出さない日々がある。今のところは元気なので、一人で生活している方で、外に出られない方等を見守りするボランティア等、少しでもお役に立ちたいと思っている。「お元気ですか」の言葉掛けだけでも助かると思うので、見守りの会でも作ってほしい。
【高齢者一般、女性、70 歳～74 歳、木更津、ひとり暮らし】
住民相互に、日常声を掛け合う生活ができるよう、指導を行う事。気楽に集まる場所作りをしてほしい。平均的に隣は何する人ぞで、孤独死が増加している事が嘆かわしい。
【高齢者一般、女性、75 歳～79 歳、岩根、夫婦ふたり暮らし】
高齢者が、何所にどのような生活をしているか、市政の方々、民生委員の方々が、もう少し把握していただきたい。【介護予防、女性、85 歳～89 歳、木更津、ひとり暮らし】
地域包括支援センターの担当者は、親身になって相談に乗ってくれる人と、事務的に応対される人が様々であるので、教育をしっかりとしてほしい。
【要介護認定者（居宅）、女性、85 歳～89 歳、木更津、子どもと孫と同居】
近所にかりつけ医がいて、必要に応じて診療（往診など）できるようにしてほしい。大きな病院から近くにある医院へ情報を提供し、緊急でない場合は、近くのかりつけ医が見守るようなシステムがあると、本人も家族も助かる。高齢者の場合、移動も大変なので。
【要介護認定者（居宅）、女性、85 歳～89 歳、清川、子どもと同居】
介護認定を受ける時のみ自宅に訪問し、認定結果が通知されるが、その後は 1 回も訪問がない。自分でのようなサービスがあるか探さないと前に進めない現状である。介護する者にとり、急に外泊等しなければならぬ時、受け入れてくれる所等、何所に連絡すればよいのか等わからない。相談の窓口はあるのか。要介護度が変わるとケアマネジャーも異なり、戸惑っている。
【要介護認定者（居宅）、女性、90 歳以上、木更津、子どもと孫と同居】
最近、寝たきり状態になったのでよくわからないが、個人個人の状態が違うと思うので、専門の医療機関の手配をしてもらいたいと思う。寝たきりになっても安心して介護、介護できる支援、アドバイスを専門的に対応してほしい。【要介護認定者（居宅）、女性、90 歳以上、木更津、子どもと孫と同居】

<地域社会とのつながりについて>

自分でやれるような、また、自分に見合ったボランティアの内容等が知りたい（種類）。
【介護予防、男性、70 歳～74 歳、清川、夫婦ふたり暮らし】
私 77 歳、妻 73 歳の家族である。3 年前より私がアルツハイマー病で車も運転できず、妻も運転ができな い。病院・買物と利用できる循環バスがあるとよい。敬老会も出席したいが、会場までの交通手段がない ため、何時も欠席で寂しい思いをしている。
【高齢者一般、男性、75 歳～79 歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】
高齢者の楽しむ場所を近くにつくってほしい。【介護予防、男性、80 歳～84 歳、岩根、子どもと同居】
高齢者（一人暮らしの人も）が何所かに集まって、何時も元気に会話や運動、好きな事ができる場所を増 やし、お互いに情報を伝えあい、健康に過ごせるようにできたらよいのと思っている。親しい友だちを いっぱいづくり、生甲斐を見付けてほしいと思うので、その場所作りを前向きに考えていただきたい。
【高齢者一般、女性、65 歳～69 歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】

世相の急激な変化に、全体的に、当の高齢者でさえついていけない。先ず気持ちを切替えて、65歳以上を高齢者等という年齢の枠を取り払い、別の視点から市民を考え直す必要がある。老人の能力を活かす、活性化に取り組んでいく必然性があると思う。そうでなくては、お金なんか足りるはずがない。 【介護予防、女性、65歳～69歳、波岡、夫婦ふたり暮らし】
木更津市に提案。高齢者が集まって身体を動かす場をつくる。潮見公園で、毎日ラジオ体操ができるように朝、ラジオを流す。生ゴミを持ち寄り、各地区の公園の隅で堆肥を作り、花壇や公園を花畑にする。市の所有地や空き地を利用して、高齢者の野菜農園を作り、老人の楽しみを増やす。介護を予防する事を考えてほしい。 【高齢者一般、女性、70歳～74歳、木更津、子どもと同居】
コミュニケーションの不足。老人の組織化や活用（メンテナンスチームや子守りチームなど）。市の運営にアドバイスを求める。 【介護予防、女性、75歳～79歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】
公共施設には是非エレベーターを。老人ホームに温水プールがほしい。老人ホームにデイサービスに行ったが、何所もやっぱり面白くない。認知症の人と正常な人と一緒ではやりきれない。今私は、公民館で古典と合唱をやっているが、体力的に人様に迷惑を掛けているように思う。老人施設で学ぶ場があればと思う。内容があまりに幼稚でがっかり。1,000円以内の月謝を支払ってもよい。老人だからといって、皆同じではない。人間は一生学び続けたい。もっと知的な集合学習を希望する。タクシー利用で出掛けるのは実に辛い。老人を市のバスで美術館その他、自然の中へ行きたい。もちろん、バス代は支払う。 【要介護認定者（居宅）、女性、75歳～79歳、岩根、ひとり暮らし】
私たち農家に生活する高齢者としては土地もあるので、手伝っていただいて農作業をしている。短い期間だけお世話になり、終わりよしと願っている。でも、今はまだ少しは頑張っている。 【高齢者一般、女性、75歳～79歳、中郷、その他】
シルバー人材センターには度々お世話になり、助かっている。樹木の整理等です。雑草を取るのが、腰の悪い人も多く、なかなか綺麗にできない。入院した時は特に大変である。30分～1時間程度でも根から雑草を抜いて下さる仕事の担当者がいるとよい。今は食事の内容も複雑で、ホームヘルパーにも料理の講習が必要なのではと考えている。 【要介護認定者（居宅）、女性、85歳～89歳、木更津、ひとり暮らし】
86歳の高齢者だが、障害者のお世話（自宅）をしている。若者で元気をいただくので生甲斐を感じ、仕事を持っている（食事の世話全て）事はよい事だと感じ、働く喜びと健康をいただき感謝の日々である。 【高齢者一般、女性、85歳～89歳、岩根、その他】

<市の高齢者福祉施策について>

利用できる施設があっても車が運転できないため、利用に不便である（市営プール等）。交通の便のよい所にそういった施設がほしい。身体・行動の自由が利かない、制限がある者にとって、利用しやすいように考えて使われているように思えない。新しく何かを造ったりするような時は、そういう点を考えてほしい。 【要介護認定者（居宅）、男性、65歳～69歳、波岡、子どもと同居】
介護を必要とする以前に、木更津市の高齢者施策についての情報提供をお願いする。 【高齢者一般、男性、70歳～74歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】
木更津市に住んで約30年になる。木更津市は気候が温暖で、近くには海あり山ありで住みやすい地である。これから益々高齢化が進み、二人暮らしの夫婦も何時かは一人になる時が必ず訪れる。子どもたちに迷惑を掛けたくないと考え、安心して余生が送れる施設とか、生活支援をもっと充実してほしい。しかも年金生活でできる範囲内で、できる福祉施策をお願いしたい。 【高齢者一般、男性、70歳～74歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】
市として受身である。情報の発信が不足している。福祉施策について、広報きさらづ等に載せ、PRすべきである。団地にいる民生委員の活用。また、高齢者でも元気な人が多数いるので、介護ボランティア等のできる組織をつくるべきである。 【介護予防、男性、70歳～74歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】
高齢者への配食サービス等、市の取組の中でよい事もあるが、高齢者が増えている現状で、不足する支援やサービスがある。また、元気な高齢者への施策も、今後充実させてほしい。 【要介護認定者（居宅）、男性、70歳～74歳、清川、夫婦ふたり暮らし】

病院が少ない。また、病院への交通手段がない所が多い。木更津市は車社会で仕方ないかもしれないが、自力で動ける内はバスや電車で病院に通いたいので、病院を巡回するバスがあると助かると思う。年寄りでは自分で都合をつけてダイヤを調べ、自分のペースで利用できる。料金は割高でも構わないと思う。働いている身内に休んでもらっての送迎は、家族にも負担が掛かる。 【介護予防、男性、75 歳～79 歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】
小生は中里地区在住だが、同地区は過疎地帯で交通の便が悪く（バスが頼り。そのバスも市が援助してやっと運行しているとの事で、日に何本も来ないで何時もガラガラ）、利用者のニーズに合っていない。バスは駅循環がメインだからである。年寄りは、駅に行く用事なんて滅多にない。直接ショッピングの店に横付けがほしい。若い人たちは、ほとんどが車を持っている。バスなんか乗らない。したがってバスを廃止し、年寄りだけにタクシーのチケットを配布してほしい。その方がガラガラのバスを走らせるより予算が減ると思う。 【介護予防、男性、75 歳～79 歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】
高齢者が、利用し易い交通機関の配置（コミュニティバス）。【高齢者一般、女性、70 歳～74 歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】
高齢になって一番大変なのは、足腰が弱って外出するにしても運転もできないので、せめて市からバスで 30 分に 1 回出していただければありがたい。 【介護予防、女性、70 歳～74 歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】
年末に車が故障し、食料品の買物にタクシーを利用する事になり、交通の不便さを初めて実感した。手に持てるだけの買物に、往復 5000 円のタクシー代は、これから先、車を運転できなくなった時には負担が大きすぎると思った。閉じこもりをなくすためにも、交通の確保が必要かと思う。 【介護予防、女性、75 歳～79 歳、波岡、夫婦ふたり暮らし】
2 ヶ月毎に通院しなくてはなりませんが、バスの通っていない所なので、非常に困っています。介護保険を使えるようにしてもらいたい。 【高齢者一般、女性、75 歳～79 歳、清川、夫婦ふたり暮らし】
人間、いざという時、やはり人の助けが必要になるので、家族との連絡が直ぐ取れるように、話し合いをしておこうと思う。在宅高齢者宅に緊急連絡等、また、こちらから連絡がかわせられる所があればと思う。例えば、専用テレビ等、会話ができるような、または、専用電話等どうか。 【介護予防、女性、70 歳～74 歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】
歩道を整備してほしい。最近、知人が通路悪のため、転倒した話をよく聞く。駅西口の市駐車場の反対側等はひどい。少しの段差にもつまずく老人には、舗装の端の傾斜の多い道を歩くのは難儀。舗装の際の業者を指導してほしい。私自身、目を悪くしてから印刷物に困る事が多い。特に銀行等に多い薄い赤や緑の字は見づらく、字が小さく読めないなので助けがいる。印刷物には配慮をお願いする。 【介護予防、女性、75 歳～79 歳、木更津、夫婦ふたり暮らし】
介護の認定位しか会う事がないので、もう少し情報がほしい。その人に合ったサービス等、一般的に提案してほしい。 【要介護認定者（居宅）、女性、80 歳～84 歳、木更津、ひとり暮らし】
介護者の病気等、緊急ショートステイの充実を図ってほしい。 【要介護認定者（居宅）、女性、85 歳～89 歳、木更津、子どもと同居】
就寝中に急病になった場合、電話も掛ける事もできない場合、手元に置ける救急の時に使用する器具があればと思う（一人暮らし）。 【要介護認定者（居宅）、女性、85 歳～89 歳、金田、ひとり暮らし】
介護保険制度や高齢者施策が今一つ認識できておらず、制度自体の運用・活用が具体化できない。即ち、申請可能な事業もどういうものか判断に困惑している。広報等でわかりやすく説明していただければと思う。 【介護予防、女性、90 歳以上、富来田、子どもと同居】

6 介護サービスについて

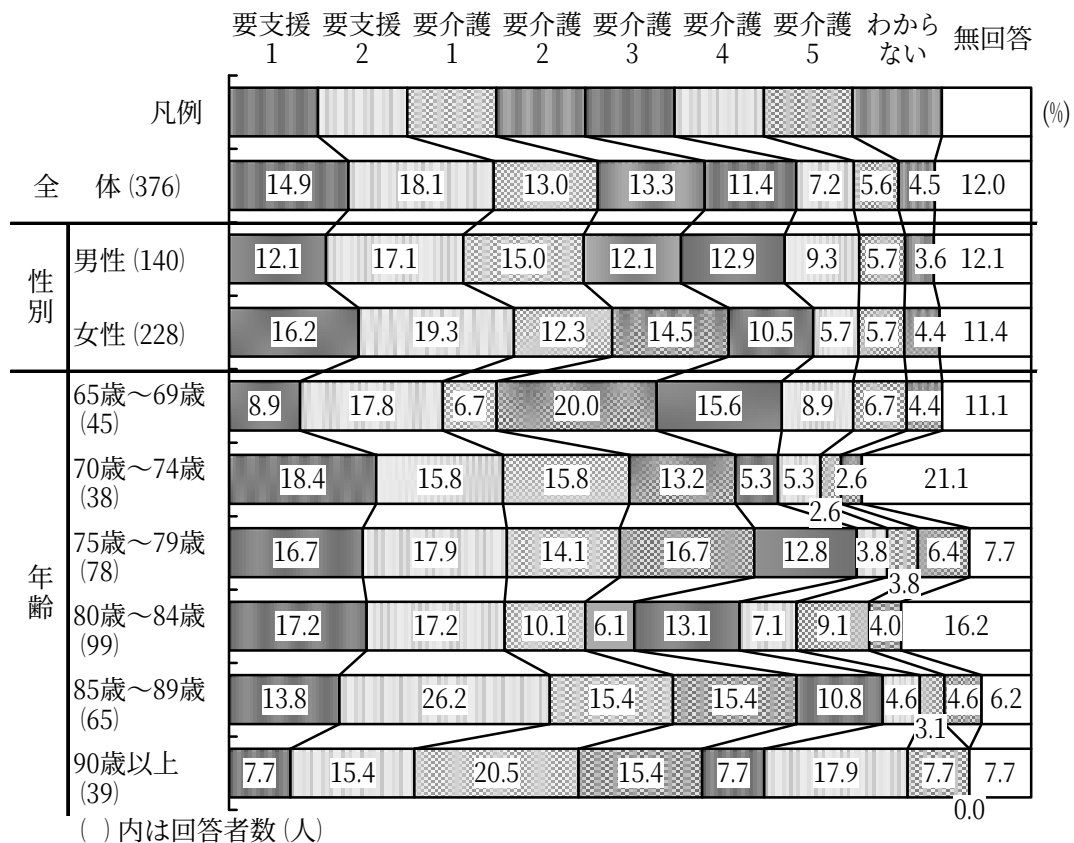
問32 あなたの要介護度は、次のうちどれに当てはまりますか。(ひとつだけ○)

要介護度についてたずねたところ、全体でみると、「要支援1」が14.9%、「要支援2」が18.1%であり、「要支援」が合わせて33.0%となっています。また、「要介護1」が13.0%、「要介護2」が13.3%であり、「要介護1～2」が合わせて26.3%、「要介護3」が11.4%、「要介護4」が7.2%、「要介護5」が5.6%であり、「要介護3～5」が合わせて24.2%、「要介護」は合わせて50.5%となっています。

性別にみると、女性は「要支援1」、「要支援2」が高く、一方、男性は「要介護1」、「要介護4」がやや高くなっています。

年齢別にみると、65～69歳では「要介護2～3」が高くなっています。70～89歳では、「要支援1～2」が高くなっています。90歳以上では、「要介護1」、「要介護4」が高くなっています。

図表 2-32 要介護度

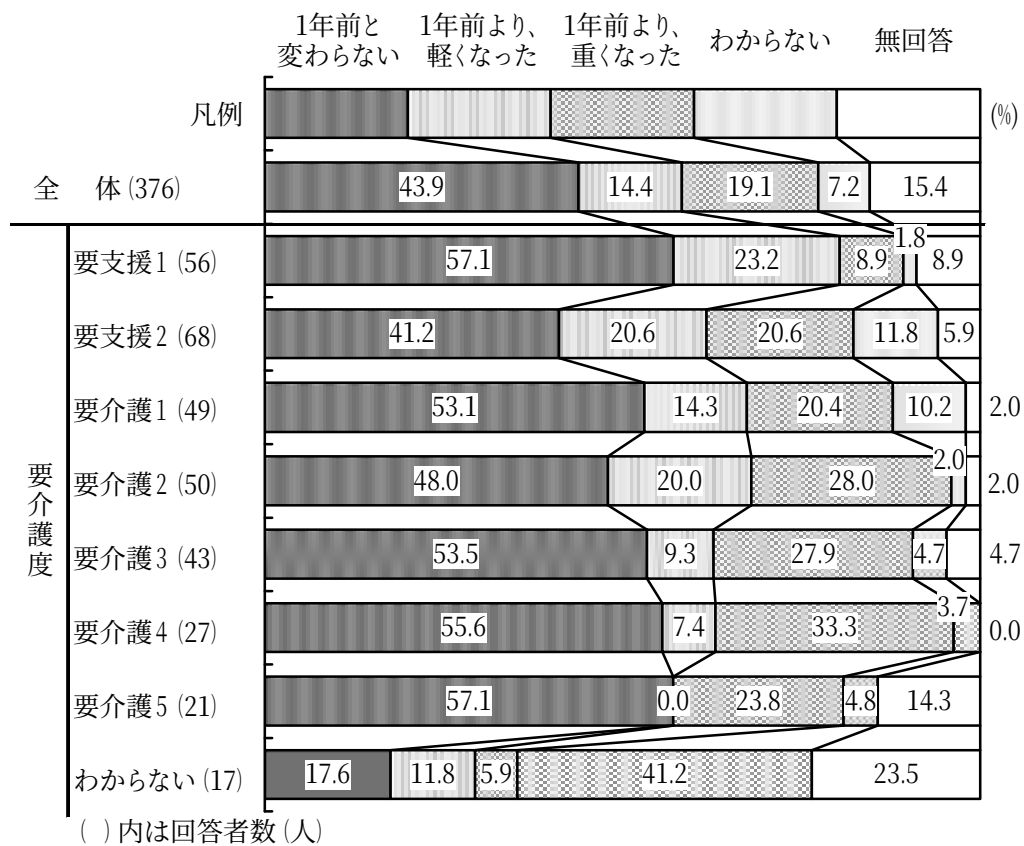


問33 あなたの要介護度は、ここ1年の間にどのように変化しましたか。(ひとつだけ○)

ここ1年の要介護度の変化についてたずねたところ、全体で見ると、「1年前と変わらない」が43.9%、「1年前より、軽くなった」が14.4%、「1年前より、重くなった」が19.1%となっています。

要介護度別にみると、いずれの要介護度でも、「1年前と変わらない」が4割強～6割弱となっています。「1年前より、軽くなった」は、要支援1から要介護2で20%前後となっています。一方、「1年前より、重くなった」は、要介護2から要介護4で30%前後となっています。特に、要介護4は、「1年前より、重くなった」が3分の1となっています。

図表 2-33 ここ1年の要介護度の変化

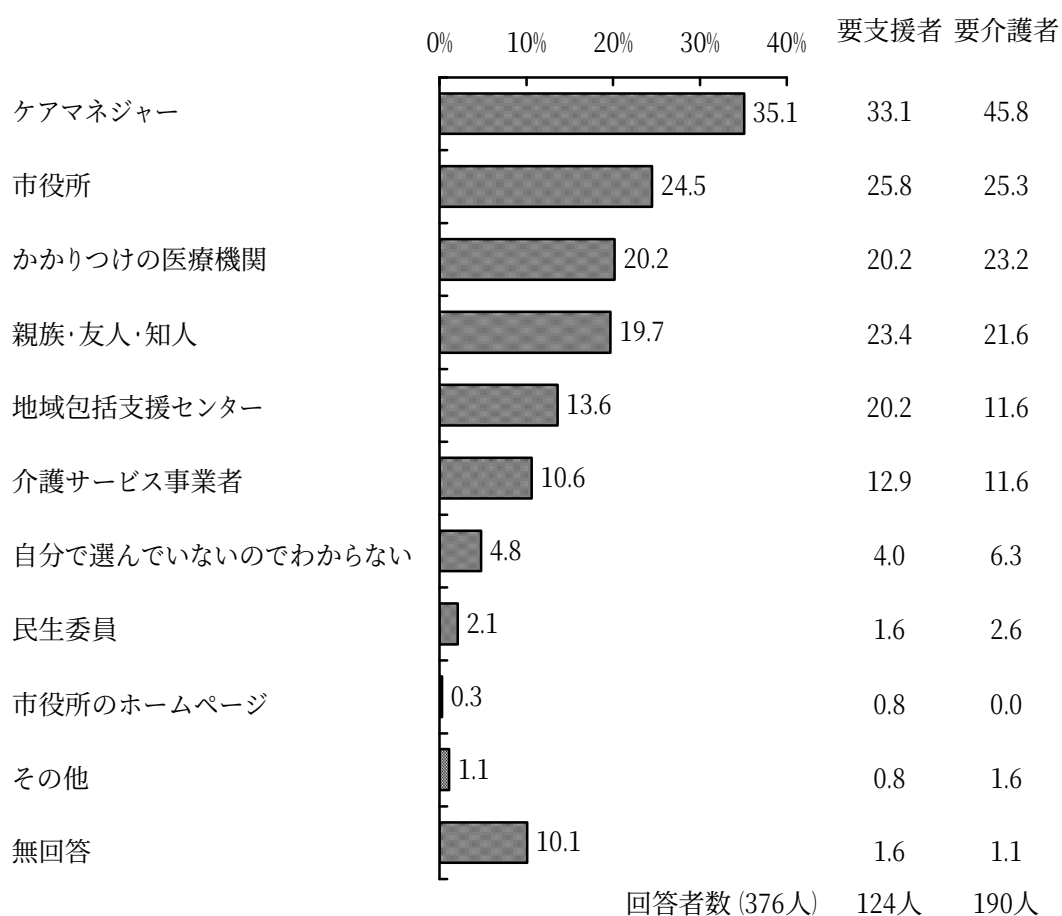


問34 あなたは、要介護認定を受けるときに、申請に関する情報をどこから入手しましたか。
(あてはまるものすべてに○)

要介護認定の申請情報の入手先についてたずねたところ、全体でみると、「ケアマネジャー」が35.1%と最も高くなっています。次いで、「市役所」が24.5%、「かかりつけの医療機関」が20.2%、「親族・友人・知人」が19.7%などの順となっています。

要支援者と要介護者についてみると、要支援者は「地域包括支援センター」、要介護者は「ケアマネジャー」がそれぞれ高いほかは、ほぼ同じような傾向が見られます。

図表 2-34 要介護認定の申請情報の入手先

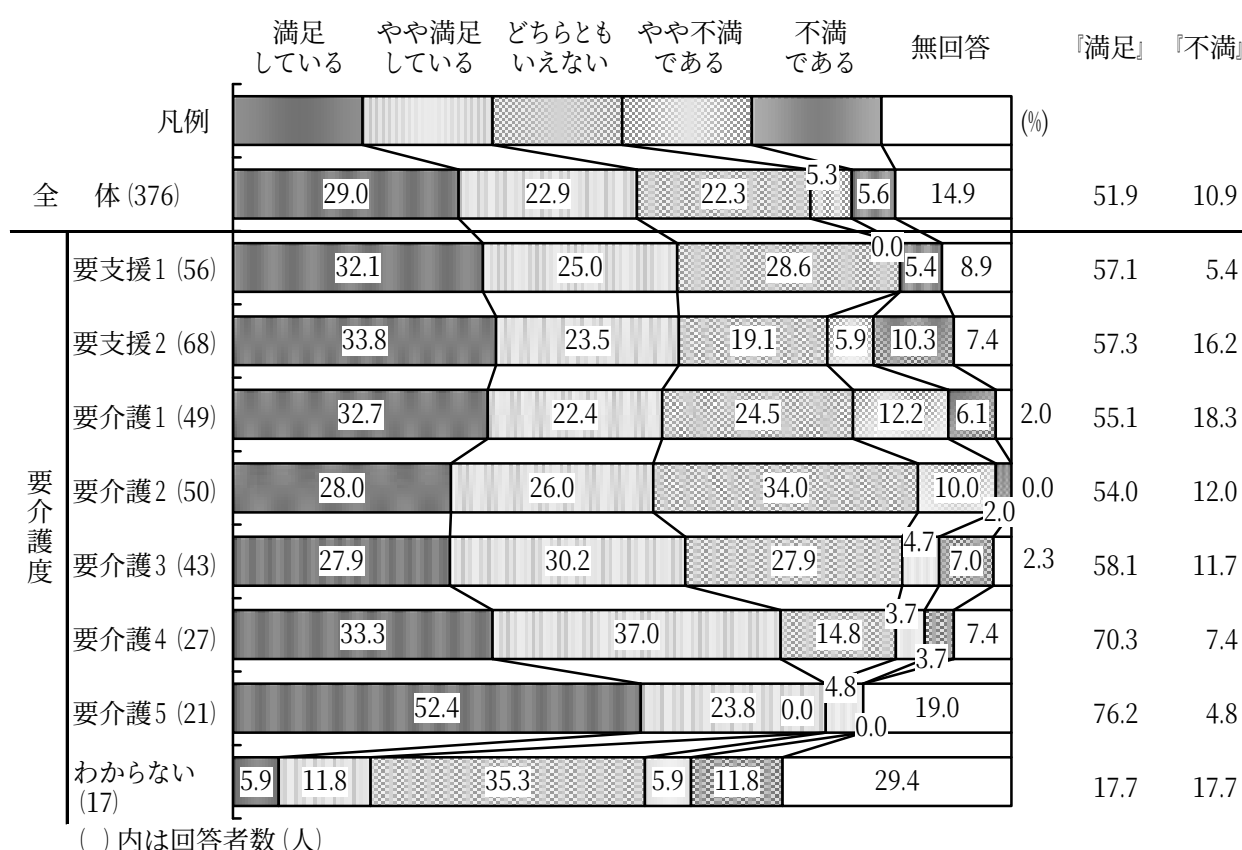


問35 あなたが受けた要介護認定訪問調査について、満足していますか。(ひとつだけ○)

要介護認定訪問調査の満足度についてたずねたところ、全体でみると、「満足している」が29.0%、「やや満足している」が22.9%であり、合わせて『満足』は51.9%となっています。これに対して、「どちらともいえない」が22.3%、また、「やや不満である」が5.3%、「不満である」が5.6%であり、『不満』は合わせて10.9%となっています。

要介護度別にみると、要支援2から要介護3で、『不満』がやや高くなっています。なお、要介護度がわからないと回答した人では、『満足』が低くなっています。

図表 2-35 要介護認定訪問調査の満足度



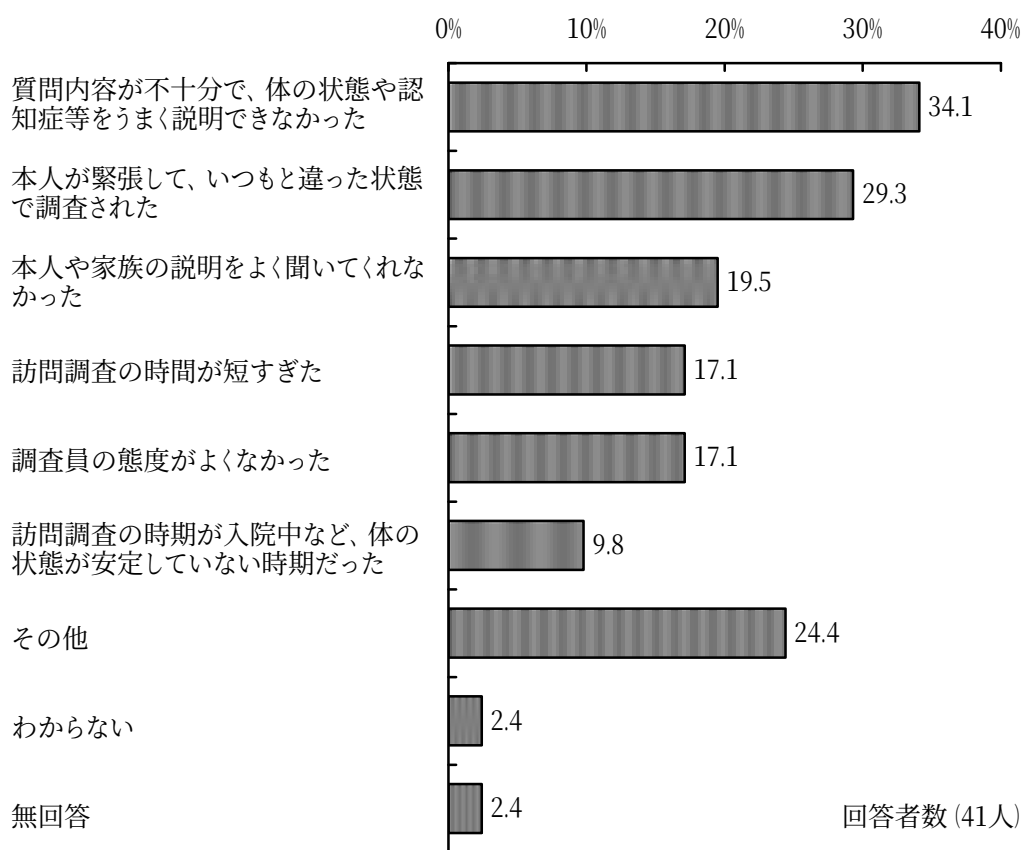
問35で「4、5」と回答した方に伺います。

問35-1 要介護認定訪問調査に満足していない理由は次のどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

要介護認定訪問調査の満足度で『不満』と回答した人に、満足していない理由についてたずねたところ、「その他」(24.4%)を除くと、「質問内容が不十分で、体の状態や認知症等をうまく説明できなかった」が34.1%と最も高くなっています。次いで、「本人が緊張して、いつもと違った状態で調査された」が29.3%、「本人や家族の説明をよく聞いてくれなかった」が19.5%、「訪問調査の時間が短すぎた」、「調査員の態度がよくなかった」がともに17.1%の順となっています。

図表 2-36 要介護認定訪問調査に満足していない理由

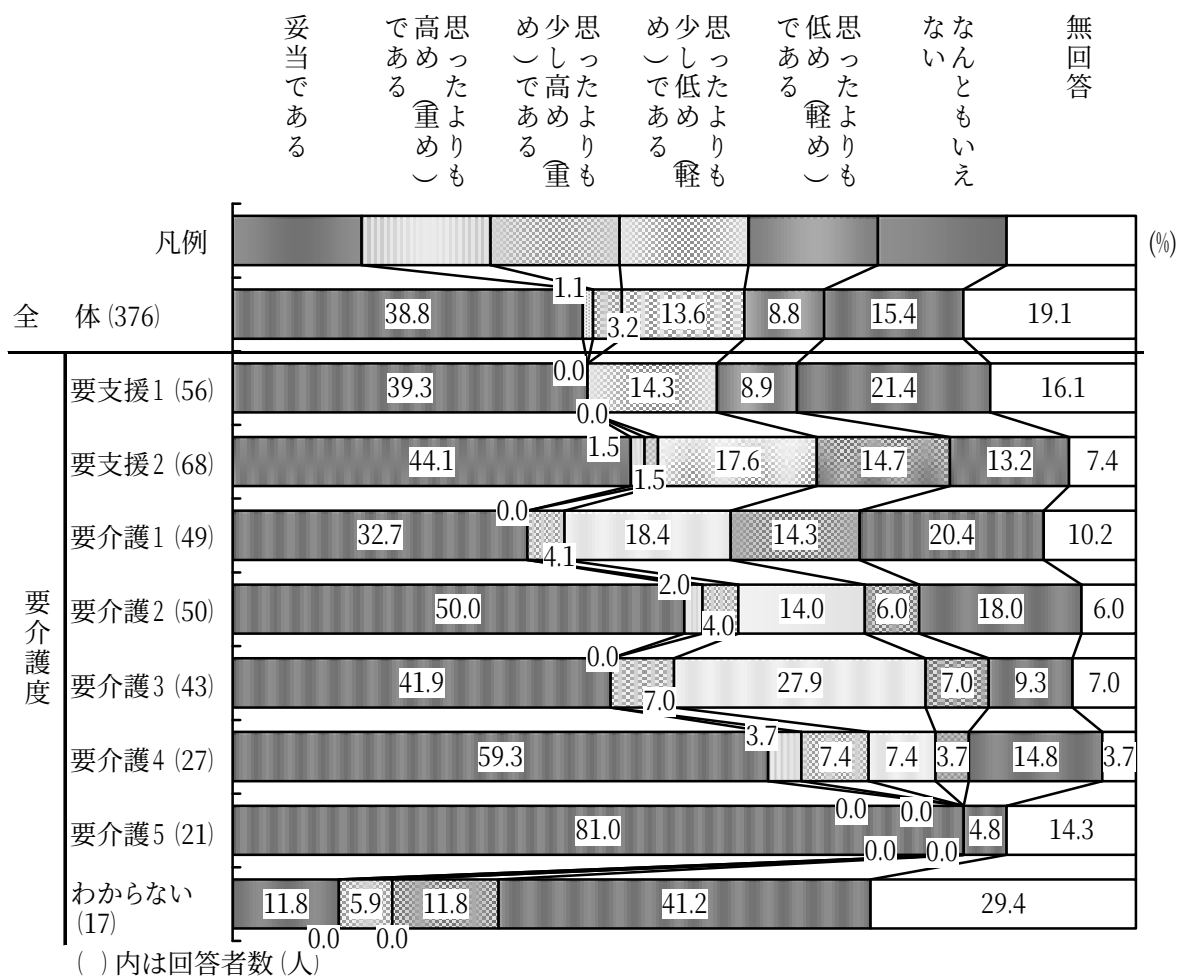


問36 あなたが受けた要介護度については、納得していますか。(ひとつだけ○)

要介護度に対する納得度についてたずねたところ、全体でみると、「妥当である」が38.8%となっています。これに対して、「思ったよりも高め（重め）である」が1.1%、「思ったよりも少し高め（重め）である」が3.2%、「思ったよりも少し低め（軽め）である」が13.6%、「思ったよりも低め（軽め）である」が8.8%となっています。また、「なんともいえない」は15.4%となっています。

要介護度別にみると、要介護度がわからないと回答した人を除き、どの要介護度でも「妥当である」が最も高くなっていますが、要支援1～要介護2は「思ったよりも低め（軽め）である」、「思ったよりも少し低め（軽め）である」がやや高くなっています。要介護3でも「思ったよりも少し低め（軽め）である」が高くなっています。一方、要介護4、要介護5は、「妥当である」が高くなっています。

図表 2-37 要介護度に対する納得度



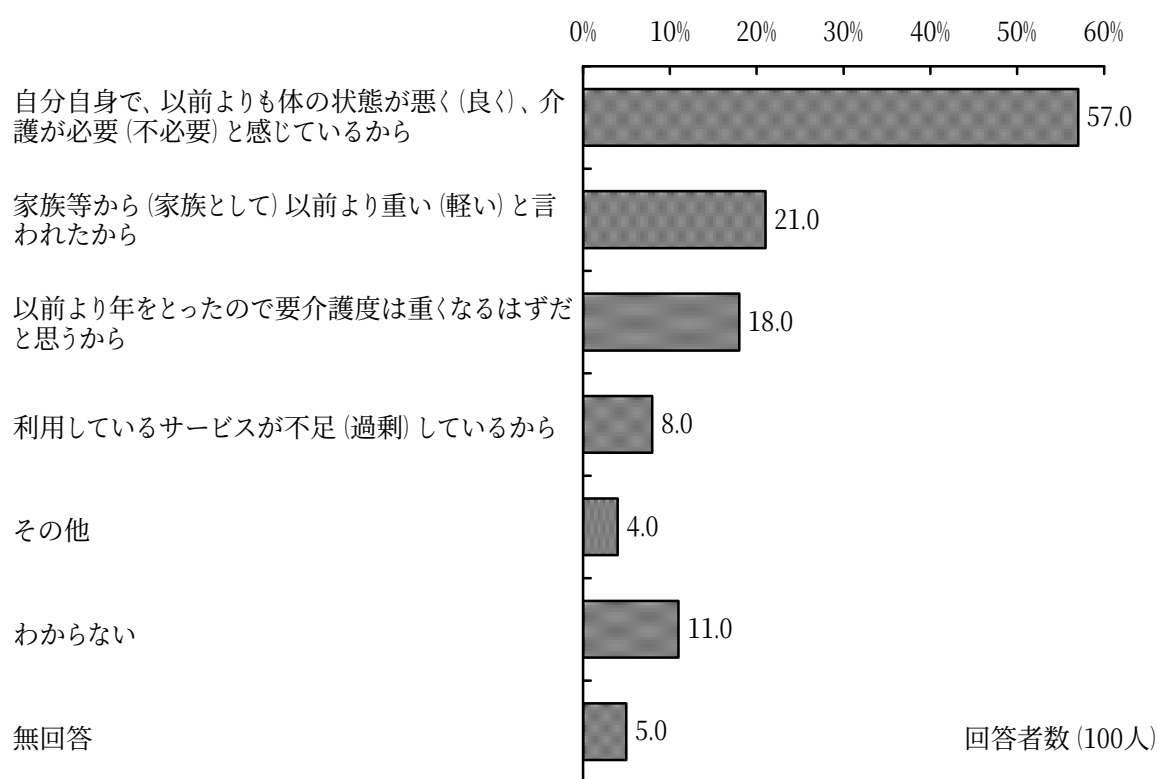
問36で「2～5」と回答した方に伺います。

問36-1 要介護度が思ったよりも高めまたは低めと思った理由は次のどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

要介護度が思ったよりも高めまたは低めと回答した人に、そう思った理由についてたずねたところ、全体でみると、「自分自身で、以前よりも体の状態が悪く(良く)、介護が必要(不必要)と感じているから」が57.0%と最も高くなっています。次いで、「わからない」(11.0%)を除くと、「家族等から(家族として)以前より重い(軽い)と言われたから」が21.0%、「以前より年をとったので要介護度は重くなるはずだと思うから」が18.0%、「利用しているサービスが不足(過剰)しているから」が8.0%の順となっています。

図表 2-38 要介護度が思ったよりも高めまたは低めと思った理由



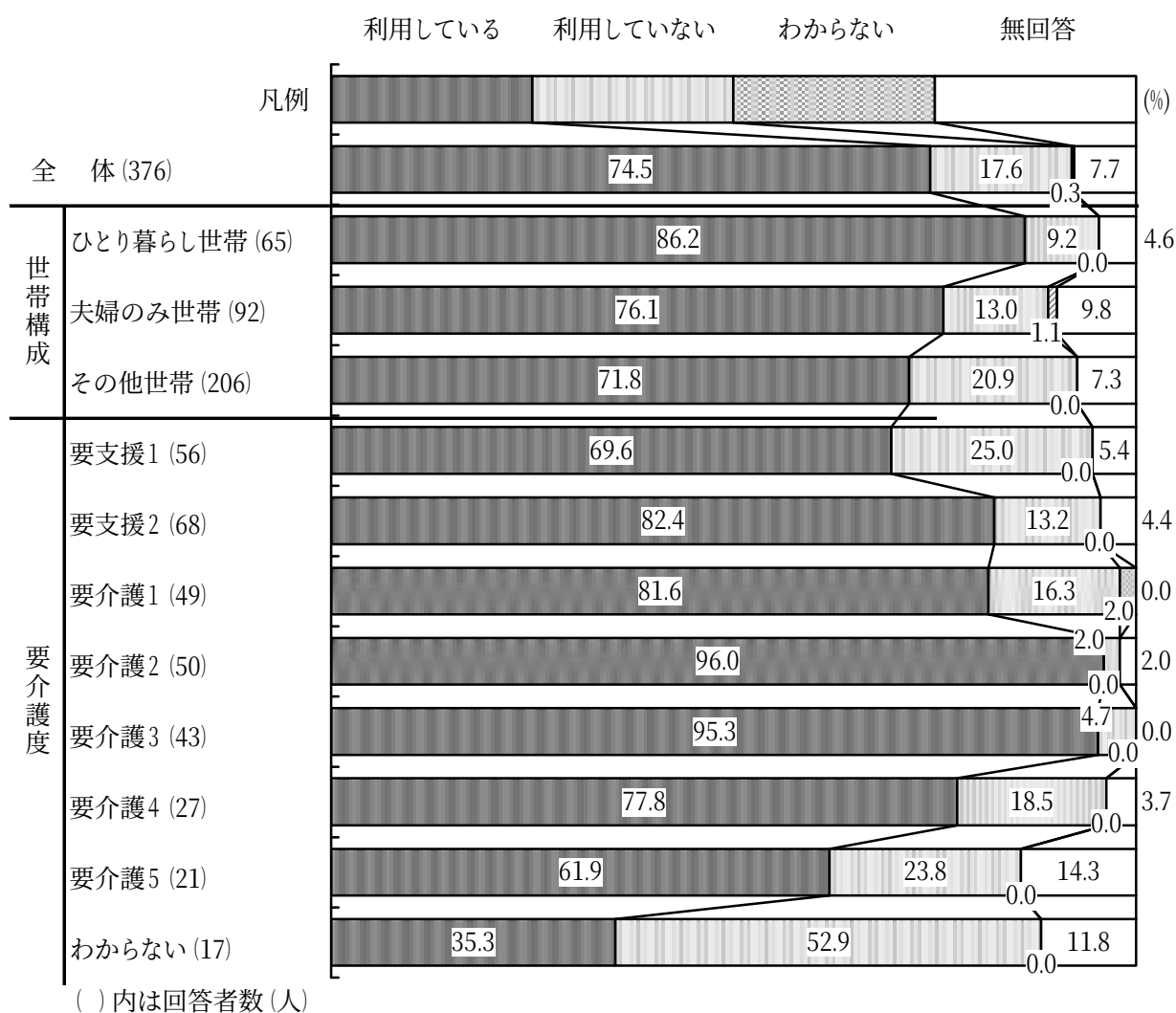
問37 あなた（あて名のご本人）は、現在介護保険サービスを利用していますか。
（ひとつだけ○）

介護保険サービスの利用有無についてたずねたところ、全体でみると、「利用している」が74.5%、「利用していない」が17.6%、「わからない」が0.3%となっています。

世帯構成別にみると、ひとり暮らし世帯、夫婦のみ世帯、その他世帯の順で、「利用している」が低くなり、代わって「利用していない」が高くなっています。

要介護度別にみると、要支援1～要介護3にかけては、おおむね要介護度が高くなるにつれて、「利用している」も高くなっており、要介護2～3では95%超となっています。要介護4～5は、「利用している」がそれぞれ77.8%、61.9%と低くなっています。なお、要介護度がわからないと回答した人では、「利用していない」が半数を超えています。

図表 2-39 介護保険サービスの利用有無



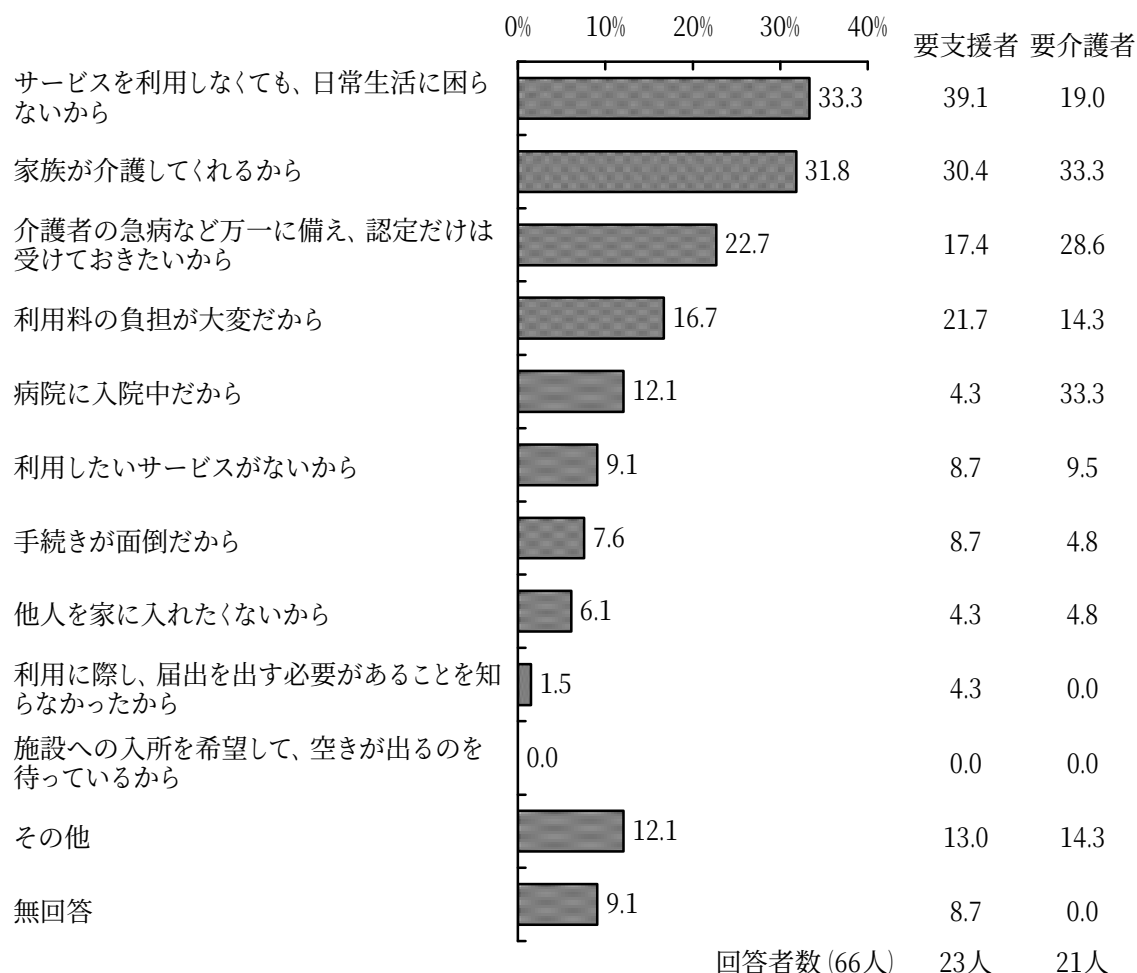
問37で「2」と回答した方に伺います。

問37-1 介護保険サービスを利用していない、もしくは利用をやめた理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

介護保険サービスを「利用していない」と回答した人に、介護保険サービスを利用していない、もしくは利用をやめた理由についてたずねたところ、全体でみると、「サービスを利用しなくても、日常生活に困らないから」が33.3%と最も高くなっています。次いで、「家族が介護してくれるから」が31.8%、「介護者の急病など万一に備え、認定だけは受けておきたいから」が22.7%、「利用料の負担が大変だから」が16.7%、「病院に入院中だから」が12.1%などの順となっています。

要支援者と要介護者についてみると、要支援者は「サービスを利用しなくても、日常生活に困らないから」が最も高くなっています。要介護者は「家族が介護してくれるから」、「病院に入院中だから」がそれぞれ最も高くなっています。

図表 2-40 介護保険サービスを使用しない、利用をやめた理由



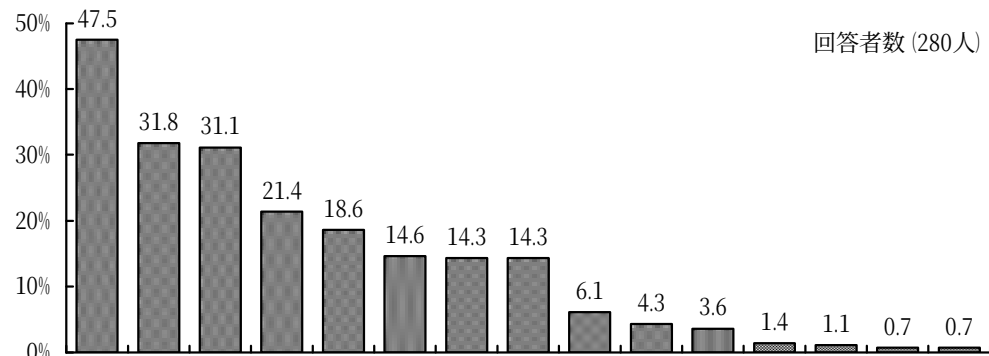
問38 あなたは、ご自分が利用したサービスについて満足していますか。
利用したものすべてに○を付けてください。(あてはまるものすべてに○)

利用した介護保険サービスについてたずねたところ、全体でみると、「通所介護（デイサービス）」が47.5%と最も高くなっています。次いで、「昼間・訪問介護（ホームヘルプサービス）」が31.8%、「福祉用具貸与」が31.1%、「住宅改修費の支給」が21.4%などの順となっています。

世帯構成別にみると、ひとり暮らし世帯では「昼間・訪問介護（ホームヘルプサービス）」、その他世帯では「通所介護（デイサービス）」が高く、「短期入所生活介護（ショートステイ）」もやや高くなっています。夫婦のみ世帯ではその中間となっています。この3つのサービスについては、世帯構成により、利用状況が対称的なものとなっています。

要介護度別にみると、おおむね要介護度が高い人ほど、「福祉用具貸与」、「福祉用具購入費の支給」、「住宅改修費の支給」、「訪問入浴介護」、「訪問看護」、「訪問リハビリテーション」など、本人の自宅で提供されるさまざまにサービスの利用率が高くなっています。「通所介護（デイサービス）」は要介護1～3、「昼間・訪問介護（ホームヘルプサービス）」は要支援2、要介護1、要介護4～5、「短期入所生活介護（ショートステイ）」は要介護3～5で高くなっています。

図表 2-41 利用した介護保険サービス（全体、要介護度別）



	回答者数 (人)	通所介護 (デイサービス)	昼間・訪問介護 (ホームヘルプサービス)	福祉用具貸与	住宅改修費の支給	通所リハビリテーション (デイケア)	短期入所生活介護 (ショートステイ)	訪問入浴介護	福祉用具購入費の支給	訪問看護	訪問リハビリテーション	夜間・訪問介護 (ホームヘルプサービス)	認知症対応型通所介護	居宅療養管理指導	ショートステイ (医療)	小規模多機能型居宅介護
全 体	280	47.5	31.8	31.1	21.4	18.6	14.6	14.3	14.3	6.1	4.3	3.6	1.4	1.1	0.7	0.7
世帯構成																
ひとり暮らし世帯	56	21.4	60.7	17.9	14.3	19.6	5.4	14.3	7.1	5.4	0.0	3.6	3.6	0.0	0.0	1.8
夫婦のみ世帯	70	42.9	30.0	31.4	27.1	22.9	11.4	17.1	20.0	11.4	10.0	7.1	2.9	2.9	1.4	0.0
その他世帯	148	58.8	22.3	36.5	22.3	16.9	19.6	13.5	14.9	3.4	3.4	2.0	0.0	0.7	0.7	0.7
要介護度																
要支援1	39	35.9	23.1	12.8	12.8	20.5	5.1	10.3	12.8	2.6	2.6	5.1	2.6	0.0	0.0	0.0
要支援2	56	42.9	30.4	19.6	17.9	16.1	10.7	5.4	7.1	0.0	3.6	1.8	0.0	0.0	1.8	0.0
要介護1	40	65.0	40.0	22.5	17.5	10.0	10.0	15.0	5.0	7.5	2.5	5.0	2.5	2.5	0.0	0.0
要介護2	48	58.3	25.0	50.0	29.2	22.9	18.8	14.6	18.8	0.0	4.2	2.1	2.1	0.0	0.0	0.0
要介護3	41	53.7	29.3	29.3	22.0	36.6	26.8	12.2	19.5	2.4	0.0	2.4	2.4	0.0	2.4	2.4
要介護4	21	38.1	33.3	57.1	33.3	14.3	23.8	33.3	23.8	19.0	14.3	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0
要介護5	13	30.8	69.2	76.9	38.5	7.7	23.1	61.5	38.5	53.8	15.4	15.4	0.0	15.4	0.0	7.7

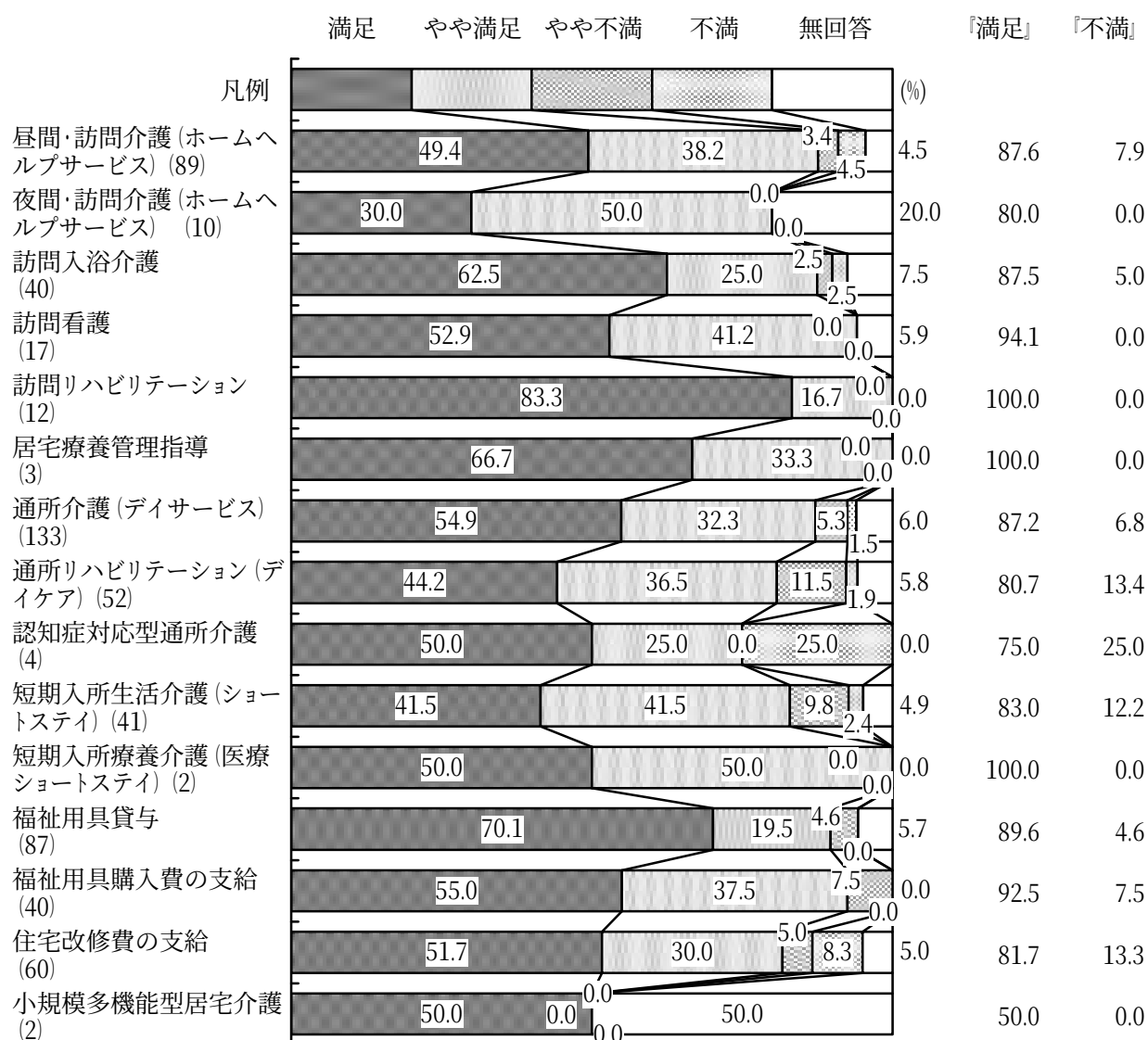
※要介護度が「わからない」は、表示を省略する。

問38（続き） あなたは、ご自分が利用したサービスについて満足していますか。
また、それぞれの満足度について、該当するもの1つに○を付けてください。

利用した介護保険サービスの満足度についてたずねたところ、全体でみると、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』はほとんどのサービスで8割を超えています。

一方、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』が高いサービスとしては、回答者数が10人未満であるサービスを除くと、通所リハビリテーション（デイケア）、短期入所生活介護（ショートステイ）、住宅改修費の支給が10%強となっています。

図表 2-42 利用した介護保険サービスの満足度



()内は回答者数(人)

※『満足』＝「満足」＋「やや満足」、『不満』＝「やや不満」＋「不満」

問38（続き） あなたは、ご自分が利用したサービスについて満足していますか。
「やや不満」「不満」に○をつけた方は、不満の理由もご記入ください。

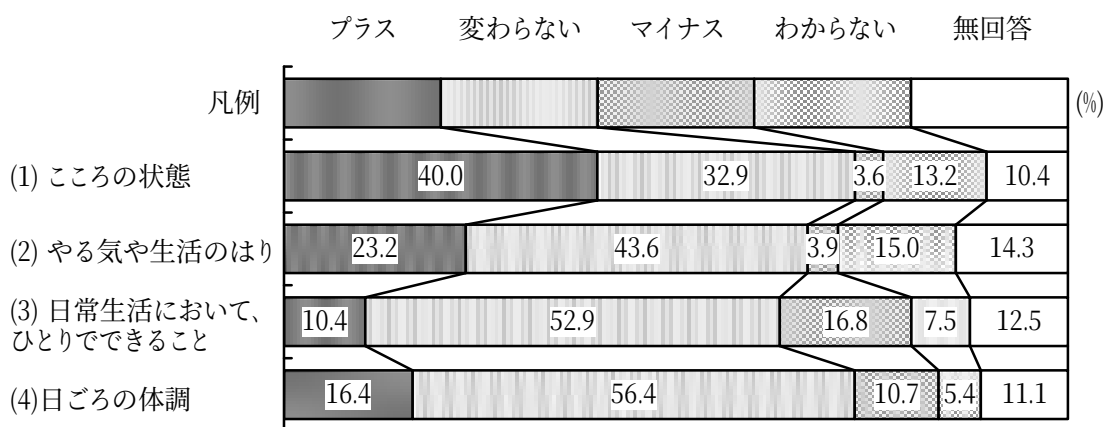
サービス名	不満の理由（主なもの）
昼間・訪問介護 （ホームヘルプサービス）	・利用したい時間に来てもらえない。 ・介護認定による限度額の上昇を希望する。 ・調理の味付け。 ・自分の言うようにやってくれない。やってないのにやったと言う。
通所介護（デイサービス）	・声が大きすぎてテンポが早い。同姓の介護者がいたらよいと思う。 ・その人に合わせた介護がされておらず、直ぐ出てきてしまった。 ・指導があまりない。 ・つまらない。 ・やっと通所しているのに、頑張るように言われる事。 ・楽しみの昼食が美味しくない。心を込めた食事を作って欲しい。 ・食事の味付けが薄い。
通所リハビリテーション （デイケア）	・9：00～16：30（約7時間半）、実際は30分程度ロスが多い。 ・もう少し、リハビリの時間が欲しい。 ・病気、その後の身体の不自由なところや痛み、体調を十分に理解した上での対応ではない。動けると思われ無理があり、辛いようだ。 ・利用者が増えたので、リハビリの時間を短縮された。
短期入所生活介護 （ショートステイ）	・本人がやって欲しい事が、「手がない」としてもらえなかった。 ・「お風呂はシャワーだけ」と言ったのに入れてしまったり、あまり面倒は見てもらえなかった。 ・デイサービスと違い、やる事がない。 ・相部屋で、他の人が夜騒がしかった。
福祉用具貸与	・ベッドのキャスターが滑る。ベッドの作りに不満がある。 ・使用するのに重量があり介助者も高齢のため使う事が少なくなってしまうが、一度返してしまうと直ぐ借りたいと思ってもできないため、結局ずっと借りてお金を支払っているだけになってしまう。
福祉用具購入費の支給	・何でもできるように書いてあるが、介護保険を利用するようになったら、もっと福祉の方の助成が欲しい。 ・手続きから届くまでが長い。
住宅改修費の支給	・最初の施工業者が初めての仕事のため、手すりの位置が反対だったり、必要な部分に付けなかったり、後に使用不能の箇所が多く、結局、後日、別の業者が再工事。実費で20万円位支払った（ケアマネの紹介）。 ・階段等の手すりが支給ではなく、改修であまりにも高すぎる。 ・18万円1回きりなので、3年に1回とか利用が何回かあるとよい。 ・ケアマネの認識不足で何度も写真を撮ったり書類を揃えたりで、本当に大変だった。 ・改修費の限度額について、要介護度により上げて欲しい。 ・1回目完成の前に要介護度が上がり、改修場所がまだたくさんあるが、2回目の支給が受けられない。

問39 介護保険サービスを利用するようになって、あなた自身には、次のような変化がありましたか。(1)～(4)について、それぞれもっとも近いものひとつだけ○)

介護保険サービスの利用による変化についてたずねたところ、全体でみると、プラスの評価では、こころの状態が「安定した」が40.0%、やる気や生活のほりが「出てきた」が23.2%、日常生活においてひとりでできることが「多くなった」が10.4%、日ごろの体調が「良くなった」が16.4%となっています。一方、マイナスの評価では、日常生活においてひとりでできることが「少なくなった」が16.8%、日ごろの体調が「悪くなった」が10.7%などとなっています。

プラスの評価に関して、要介護度別にみると、こころの状態が「安定した」は要介護5、やる気や生活のほりが「出てきた」は要支援2、日常生活においてひとりでできることが「多くなった」は要介護2、日ごろの体調が「良くなった」は要支援1でそれぞれ最も高くなっています。

図表 2-43 介護保険サービスの利用による変化（全体）（上図）、
介護保険サービスの利用によるプラスの変化（全体、要介護度別）（下図）



(回答者数 280人)

選択肢は…	プラス	変わらない	マイナス	わからない
こころの状態	安定した	変わらない	不安定になった	わからない
やる気や生活のほり	出てきた	変わらない	なくなった	わからない
ひとりでできること	多くなった	変わらない	少なくなった	わからない
日ごろの体調	良くなった	変わらない	悪くなった	わからない

	回答者数 (人)	こころの状態が 「安定した」	やる気や生活の ほりが「出てきた」	日常生活において 「多くなった」	日ごろの体調が 「良くなった」
全 体	280	40.0	23.2	10.4	16.4
要介護度	要支援1	39	43.6	23.1	10.3
	要支援2	56	35.7	33.9	14.3
	要介護1	40	47.5	22.5	-
	要介護2	48	35.4	25.0	16.7
	要介護3	41	34.1	17.1	7.3
	要介護4	21	42.9	14.3	14.3
	要介護5	13	69.2	23.1	15.4

※要介護度が「わからない」は、表示を省略する。

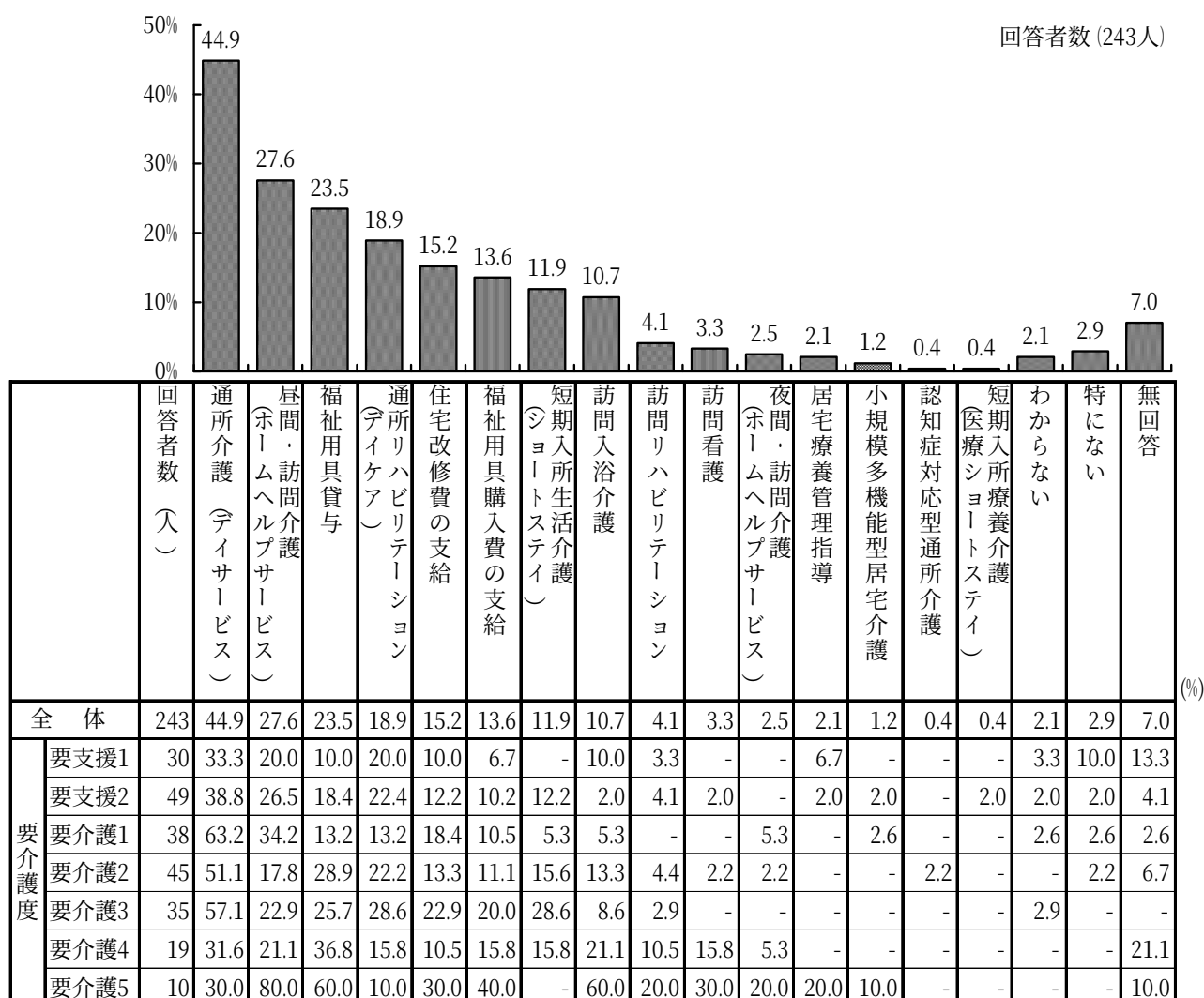
問39(1)～(4)で、1つでも「1、2」に○を付けた方に伺います。

問39-1 あなたにとって、(1) 役立ったサービス、(2) ご自身が努力したことはありますか。
(1)と(2)のどちらにもお答えください。

介護保険サービスの利用による変化でプラスまたは変わらないの評価を回答した人に、役立ったサービスについてたずねたところ、全体でみると、「通所介護（デイサービス）」が44.9%と最も高くなっています。次いで、「昼間・訪問介護（ホームヘルプサービス）」が27.6%、「福祉用具貸与」が23.5%、「通所リハビリテーション（デイケア）」が18.9%などの順となっています。

要介護度別にみると、「通所介護（デイサービス）」は要介護1から要介護3、「昼間・訪問介護（ホームヘルプサービス）」は要介護1と要介護5、「福祉用具貸与」は要介護度が高い人ほど、「通所リハビリテーション（デイケア）」は要支援1と要支援2、要介護2と要介護3で、役立ったサービスとしての割合が高くなっています。

図表 2-44 改善の要因（役立ったサービス）

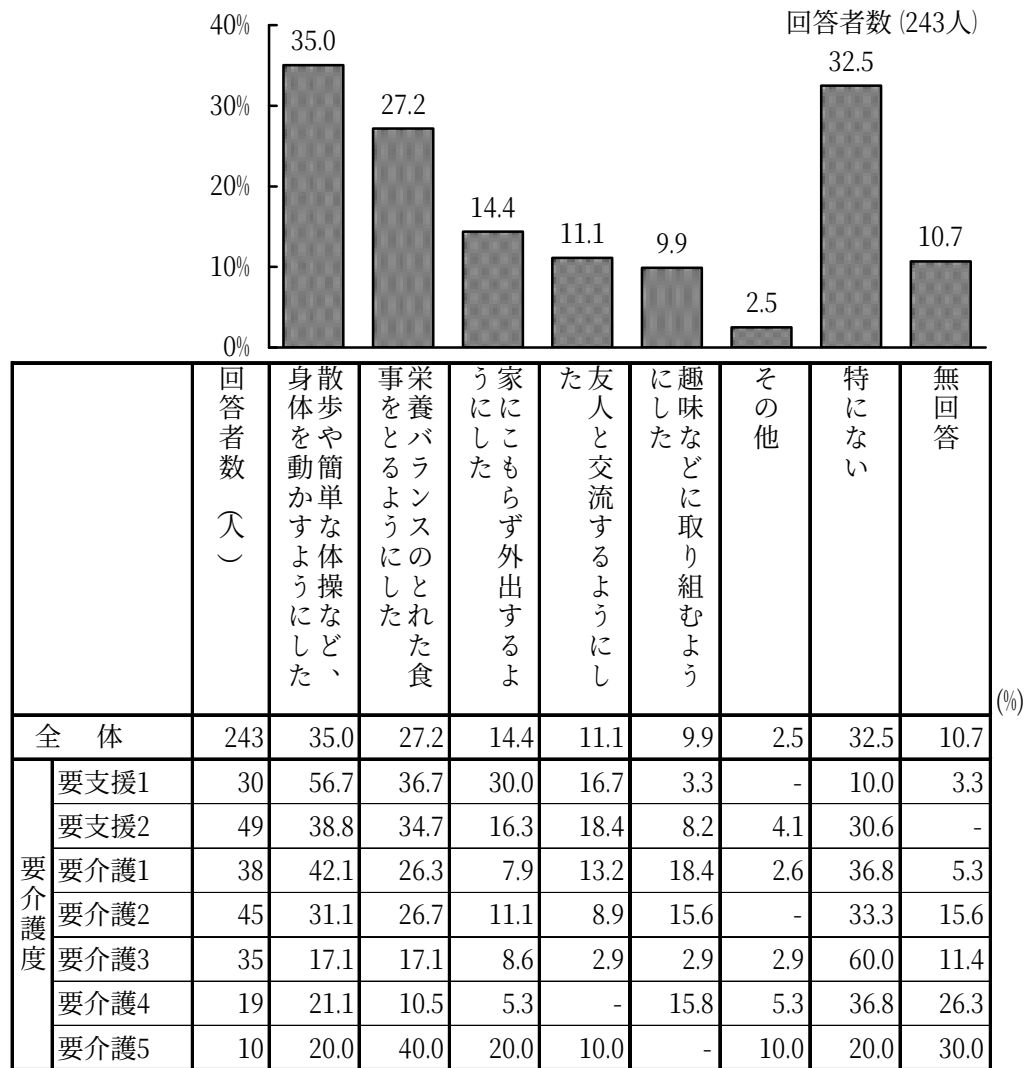


※要介護度が「わからない」は、表示を省略する。

同様に介護保険サービスの利用による変化でプラスまたは変わらないの評価を回答した人に、本人の努力についてたずねたところ、全体でみると、「散歩や簡単な体操など、身体を動かすようにした」が35.0%と最も高くなっています。次いで、「特にない」(32.5%)、「無回答」(10.7%)を除くと、「栄養バランスのとれた食事をするようにした」が27.2%、「家にこもらず外出するようにした」が14.4%、「友人と交流するようにした」が11.1%、「趣味などに取り組むようにした」が9.9%の順となっています。

要介護度別にみると、「趣味などに取り組むようにした」を除き、おおむね要介護度が低い人ほど、特に要支援1、要支援2で高くなっています。

図表 2-45 改善の要因（本人の努力）



※要介護度が「わからない」は、表示を省略する。

問40 介護保険サービスの利用額（利用者負担分）について、制度上利用できる上限（区分支給限度額）いっぱいまで利用しましたか。（ひとつだけ○）

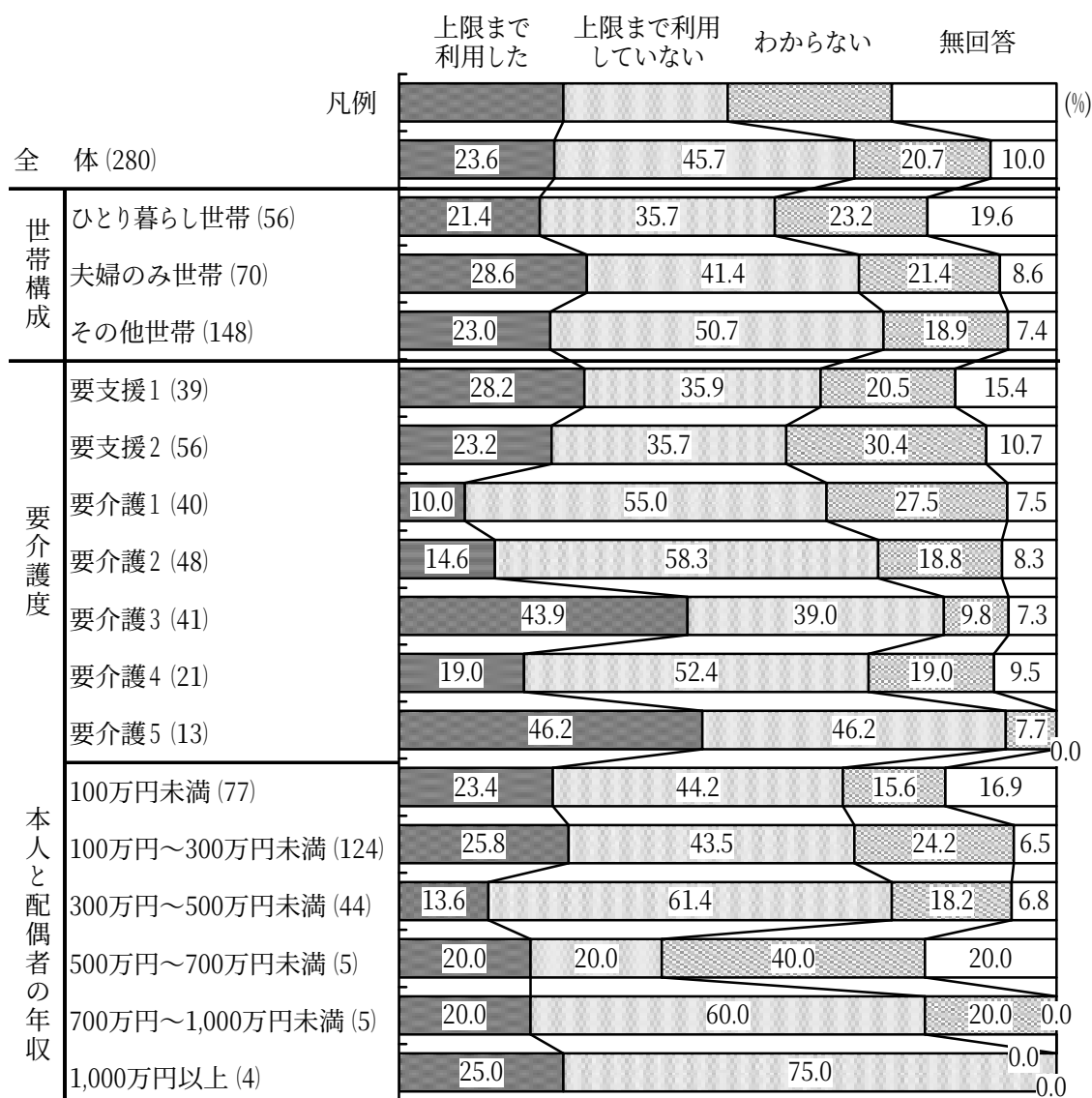
区分支給限度額に対する利用度合いについてたずねたところ、全体でみると、「上限まで利用した」が23.6%、「上限まで利用していない」が45.7%、「わからない」が20.7%となっています。

世帯構成別にみると、「上限まで利用した」は夫婦のみ世帯で高く、「上限まで利用していない」はその他世帯で高くなっています。

要介護度別にみると、「上限まで利用した」は要介護3、要介護5で高く、「上限まで利用していない」は要介護1、要介護2、要介護4で高くなっていますが、区分支給限度額と要介護度との明らかな関係は見られません。

本人と配偶者の年収別にみると、「上限まで利用した」は100万円～300万円未満でやや高く、「上限まで利用していない」は300万円～500万円未満（回答者数が少ないものは除外）で高くなっていますが、区分支給限度額と本人と配偶者の年収との明らかな関係は見られません。

図表 2-46 区分支給限度額に対する利用度合い



()内は回答者数(人)

※要介護度が「わからない」は、表示を省略する。

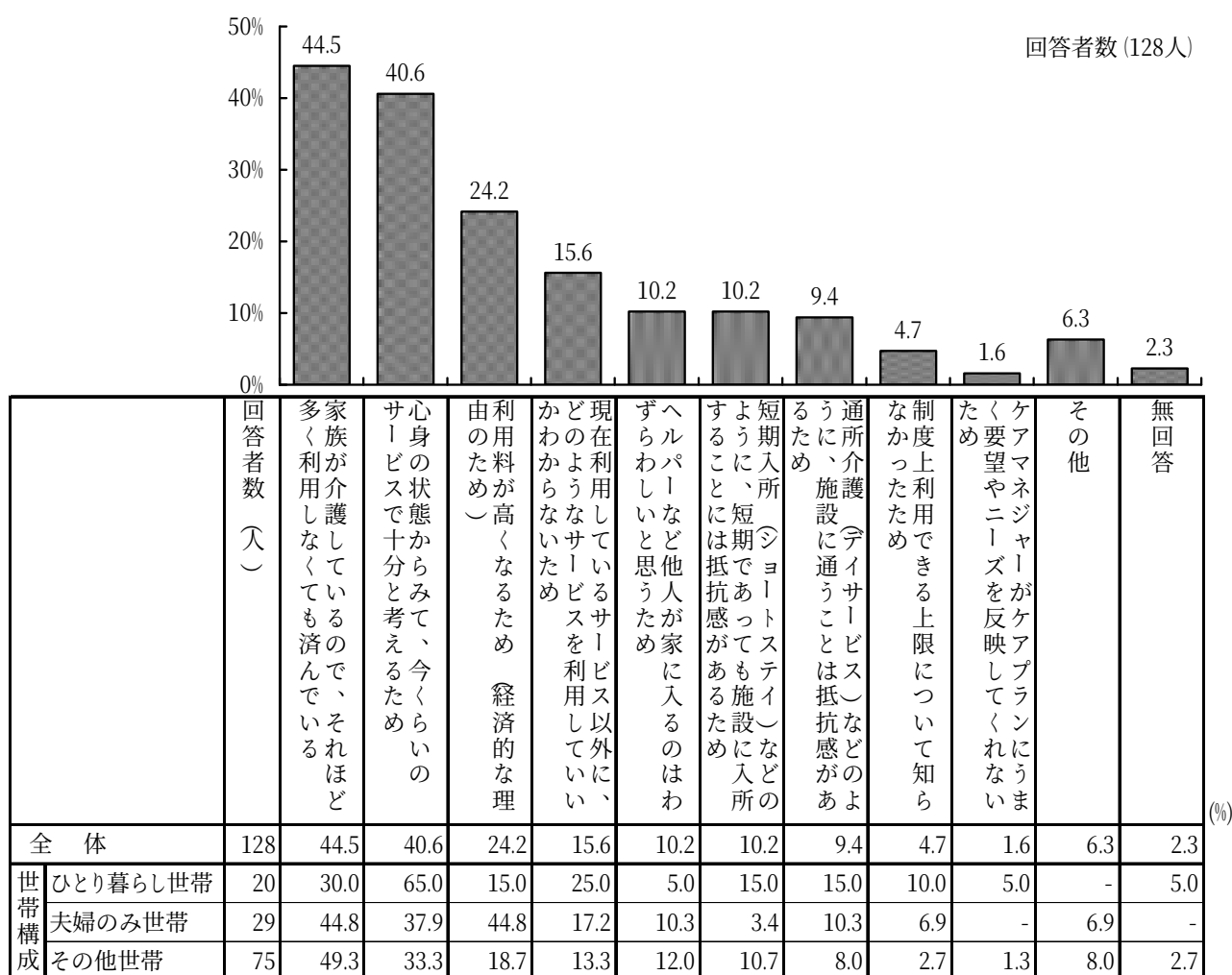
問40で「2」と回答した方に伺います。

問40-1 上限まで利用していない理由は何ですか。(主なもの3つまでに○)

区分支給限度額に対して「上限まで利用していない」と回答した人に、その理由についてたずねたところ、全体でみると、「家族が介護しているので、それほど多く利用しなくても済んでいる」が44.5%と最も高くなっています。次いで、「心身の状態からみて、今くらいのサービスで十分と考えるため」が40.6%、「利用料が高くなるため（経済的な理由のため）」が24.2%、「現在利用しているサービス以外に、どのようなサービスを利用していいかわからないため」が15.6%などの順となっています。

世帯構成別にみると、「家族が介護しているので、それほど多く利用しなくても済んでいる」は夫婦のみ世帯とその他世帯、「心身の状態からみて、今くらいのサービスで十分と考えるため」はひとり暮らし世帯、「利用料が高くなるため（経済的な理由のため）」は夫婦のみ世帯で高くなっています。

図表 2-47 区分支給限度額の上限まで利用していない理由

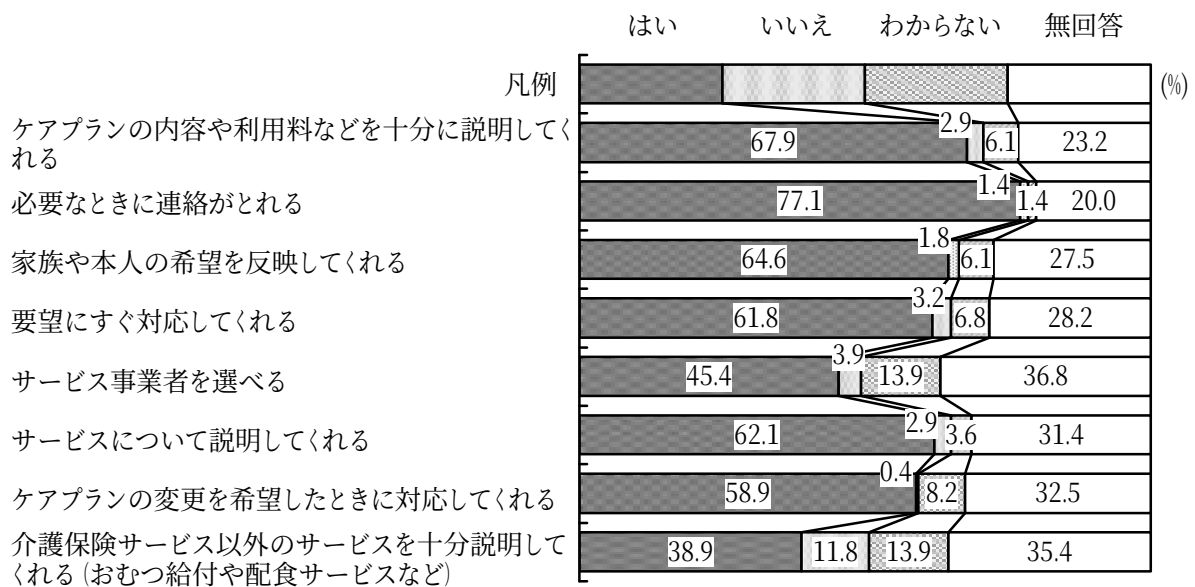


問4 1 あなたは、ケアマネジャーの対応について、どのように感じていますか。それぞれの項目についてお答えください。((1)～(8)それぞれひとつだけ○)

ケアマネジャーの対応への感想についてたずねたところ、全体でみると、「はい」の割合が高いものから順に、「必要なときに連絡がとれる」が77.1%、「ケアプランの内容や利用料などを十分に説明してくれる」が67.9%、「家族や本人の希望を反映してくれる」が64.6%、「サービスについて説明してくれる」が62.1%などの順となっています。なお、「介護保険サービス以外のサービスを十分に説明してくれる（おむつ給付や配食サービスなど）」は、「いいえ」が11.8%とやや高くなっています。

要介護度別に「はい」の回答のみ抽出してみると、ほぼすべての項目ともおおむね要介護度が高くなるにつれて、「はい」の割合も高くなっています。

図表 2-48 ケアマネジャーの対応への感想（全体）（上図）
ケアマネジャーの対応への感想のうち肯定的なもの（全体、要介護度別）（下図）



(回答者数 280人)

	回答者数 (人)	説明利用料など	ケアプランの内容や	必要なときに連絡が	家族や本人の希望を	要望にすぐ対応して	サービス事業者を選	サービスについて説	希望したときに変	ケアプランの対応を	おむつ給付や配食サービスなど	説明しにくい	介護保険サービス以外の
全 体	280	67.9	77.1	64.6	61.8	45.4	62.1	58.9			38.9		
要介護度	要支援1	39	53.8	59.0	51.3	48.7	35.9	48.7	35.9		20.5		
	要支援2	56	66.1	69.6	51.8	55.4	39.3	57.1	53.6		32.1		
	要介護1	40	72.5	90.0	72.5	72.5	50.0	67.5	67.5		37.5		
	要介護2	48	66.7	81.3	77.1	68.8	52.1	72.9	72.9		50.0		
	要介護3	41	75.6	80.5	65.9	58.5	53.7	65.9	65.9		51.2		
	要介護4	21	81.0	100.0	76.2	81.0	52.4	57.1	71.4		47.6		
	要介護5	13	100.0	92.3	92.3	84.6	53.8	76.9	69.2		69.2		

※要介護度が「わからない」は、表示を省略する。

※数字はすべて「はい」

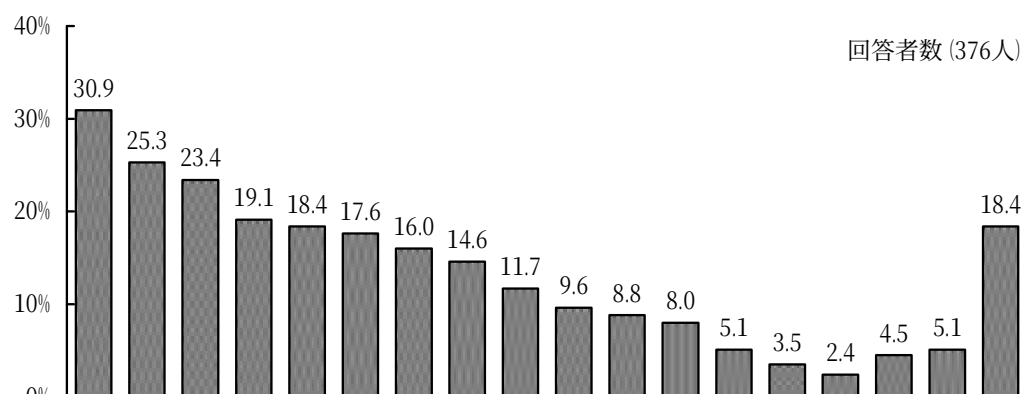
問42 あなたやあなたのご家族が、利用したいまたは利用し続けたい居宅サービスはどれですか。（あてはまるものすべてに○）

本人や家族が利用したい又は利用し続けたい居宅サービスについてたずねたところ、全体でみると、「通所介護（デイサービス）」が30.9%と最も高くなっています。次いで、「昼間・訪問介護（ホームヘルプサービス）」が25.3%、「福祉用具貸与」が23.4%、「短期入所生活介護（ショートステイ）」が19.1%、「訪問入浴介護」が18.4%、「福祉用具購入費の支給」が17.6%などの順となっています。

世帯構成別にみると、ひとり暮らし世帯では「昼間・訪問介護（ホームヘルプサービス）」、夫婦のみ世帯、その他世帯では「通所介護（デイサービス）」、「福祉用具貸与」が高く、その他世帯では「短期入所生活介護（ショートステイ）」も高くなっています。

要介護度別にみると、「通所介護（デイサービス）」は要支援2～要介護3、「昼間・訪問介護（ホームヘルプサービス）」は要介護1、要介護5、「福祉用具貸与」は要介護2～要介護5、「短期入所生活介護（ショートステイ）」は要介護1、要介護3で高くなっています。

図表 2-49 本人や家族が利用したい又は利用し続けたい居宅サービス



	回答者数（人）	通所介護（デイサービス）	昼間・訪問介護（ホームヘルプサービス）	福祉用具貸与	短期入所生活介護（ショートステイ）	訪問入浴介護	福祉用具購入費の支給	通所リハビリテーション（デイケア）	住宅改修費の支給	訪問看護	短期入所療養介護（医療ショートステイ）	夜間・訪問介護（ホームヘルプサービス）	訪問リハビリテーション	認知症対応型通所介護	居宅療養管理指導	小規模多機能型居宅介護	わからない	特にない	無回答
全 体	376	30.9	25.3	23.4	19.1	18.4	17.6	16.0	14.6	11.7	9.6	8.8	8.0	5.1	3.5	2.4	4.5	5.1	18.4
世帯構成																			
ひとり暮らし世帯	65	12.3	43.1	10.8	10.8	12.3	10.8	7.7	10.8	3.1	4.6	10.8	4.6	1.5	3.1	3.1	7.7	6.2	21.5
夫婦のみ世帯	92	29.3	28.3	25.0	14.1	20.7	15.2	27.2	18.5	17.4	10.9	10.9	10.9	8.7	5.4	3.3	4.3	6.5	16.3
その他世帯	206	37.9	19.4	26.2	24.8	19.4	21.4	14.6	14.6	12.1	11.2	7.8	7.8	4.9	2.9	1.5	3.9	4.4	17.0
要介護度																			
要支援1	56	30.4	26.8	10.7	5.4	16.1	14.3	17.9	14.3	8.9	8.9	12.5	3.6	3.6	3.6	1.8	7.1	14.3	17.9
要支援2	68	38.2	23.5	22.1	23.5	10.3	25.0	17.6	14.7	10.3	11.8	5.9	4.4	4.4	2.9	5.9	2.9	2.9	13.2
要介護1	49	42.9	36.7	18.4	30.6	24.5	20.4	24.5	20.4	12.2	12.2	14.3	12.2	10.2	2.0	2.0	6.1	4.1	4.1
要介護2	50	36.0	24.0	38.0	26.0	20.0	14.0	16.0	10.0	4.0	8.0	2.0	10.0	4.0	4.0	-	4.0	2.0	10.0
要介護3	43	39.5	23.3	25.6	34.9	18.6	20.9	27.9	9.3	7.0	16.3	7.0	2.3	9.3	2.3	2.3	2.3	2.3	7.0
要介護4	27	22.2	22.2	48.1	22.2	37.0	22.2	11.1	22.2	29.6	11.1	14.8	22.2	7.4	-	-	-	-	14.8
要介護5	21	23.8	42.9	38.1	14.3	38.1	23.8	4.8	23.8	38.1	9.5	19.0	19.0	-	19.0	9.5	9.5	4.8	23.8

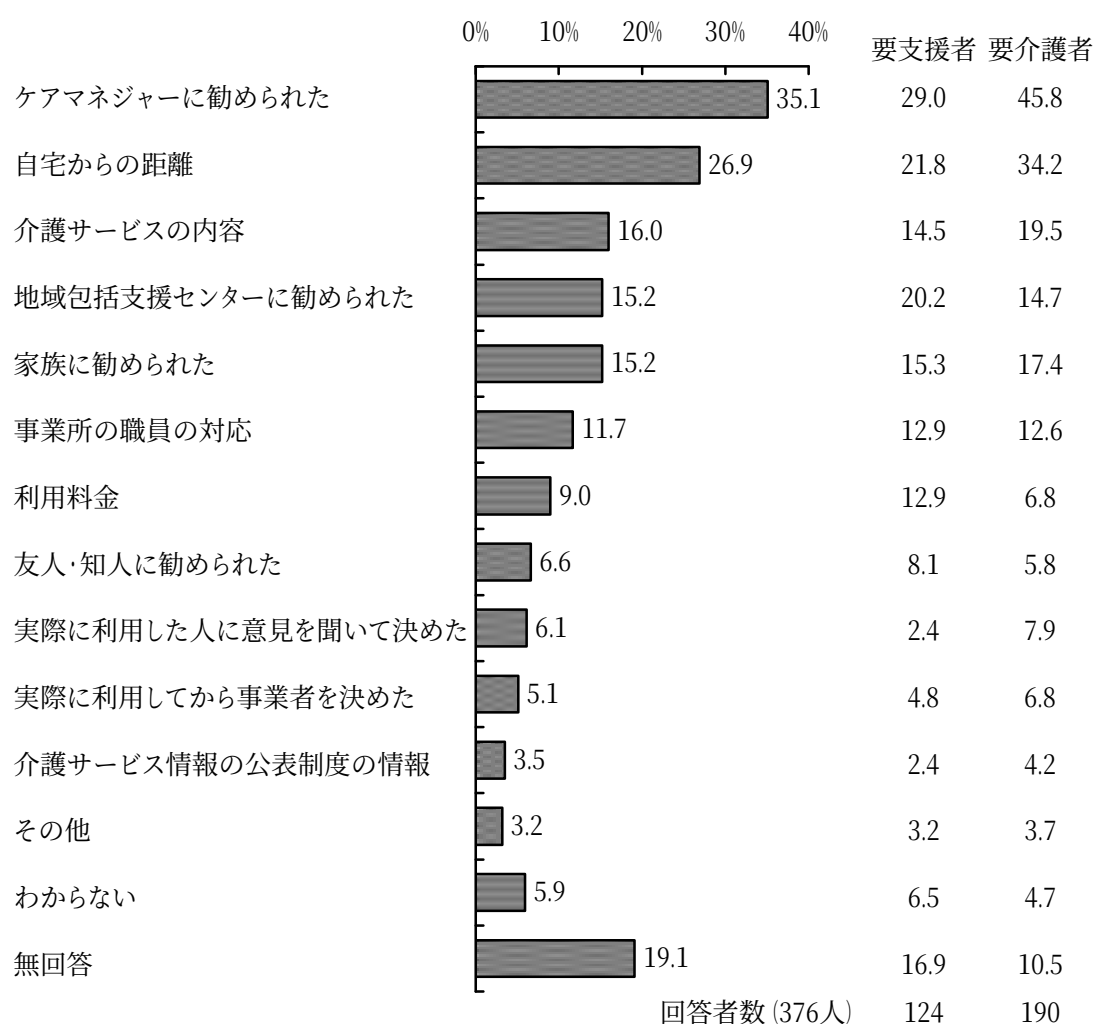
※要介護度が「わからない」は、表示を省略する。

問43 あなたは、サービス事業者をどのようにして選んでいますか。介護サービスを利用していない方は、利用する場合には、どのようにして選ぶと思いますか。（主なもの3つまで○）

サービス事業者をどのようにして選ぶかについてたずねたところ、全体でみると、「ケアマネジャーに勧められた」が35.1%と最も高くなっています。次いで、「自宅からの距離」が26.9%、「介護サービスの内容」が16.0%、「地域包括支援センターに勧められた」、「家族に勧められた」がそれぞれ15.2%などの順となっています。

要支援者と要介護者についてみると、要支援者、要介護者とも「ケアマネジャー」、「自宅からの距離」の順となっていますが、両者には差があります。それ以外では、要支援者は「地域包括支援センターに勧められた」、「利用料金」、一方、要介護者は「介護サービスの内容」、「実際に利用した人に意見を聞いて決めた」もやや高くなっています。

図表 2-50 サービス事業者をどのようにして選ぶか



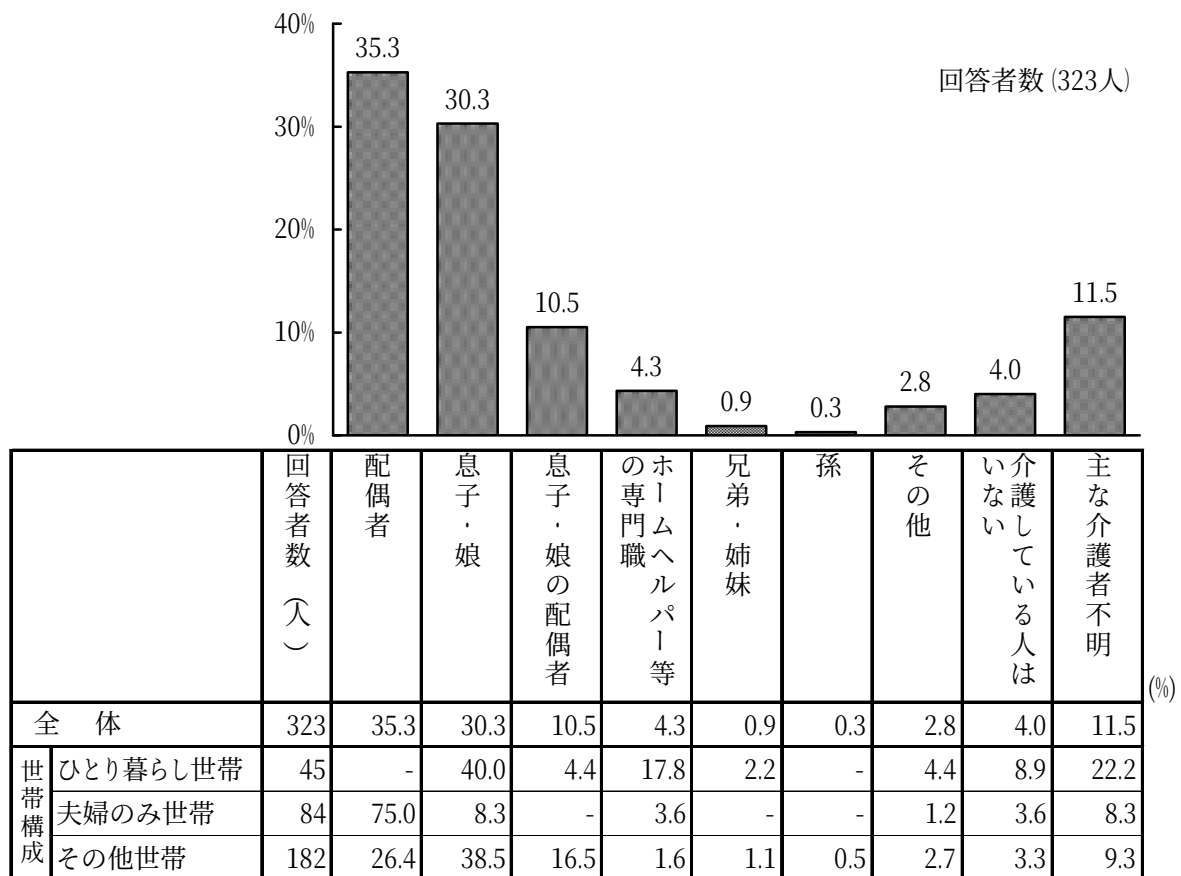
7 主な介護者について

問44 主に介護をしている方はご本人から見てどのような関係にありますか。
(ひとつだけ○)

これ以降は、主に介護している人に対する設問となっています。まず主な介護者と本人との関係についてたずねたところ、全体でみると、「配偶者」が35.3%と最も高くなっています。次いで、「息子・娘」が30.3%、「主な介護者不明」が11.5%、「息子・娘の配偶者」が10.5%の順となっています。

世帯構成別にみると、ひとり暮らし世帯、その他世帯では「息子・娘」、夫婦のみ世帯では「配偶者」がそれぞれ最も高くなっています。それ以外では、ひとり暮らし世帯は「ホームヘルパー等の専門職」もやや高くなっています。

図表 2-51 主な介護者と本人との関係



※「主な介護者不明」とは、本設問に回答がなかったにも関わらず、次の設問以降に回答があった人を表している。

問44で「1～5」と回答した方に伺います。

問44-1 主に介護している方の性別と、現在の満年齢をお答えください。

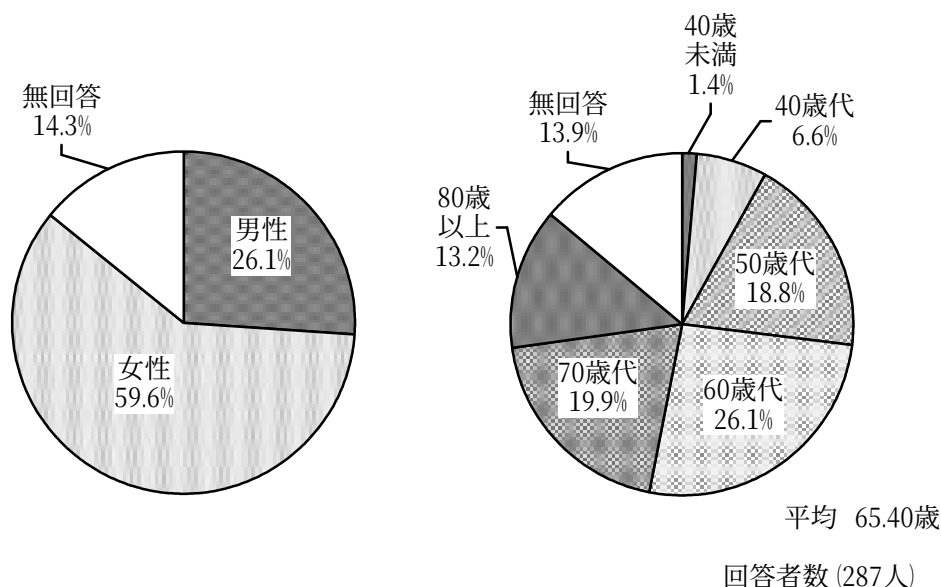
主な介護者の性別は、全体でみると、「女性」が59.6%、「男性」が26.1%となっています。

主な介護者の年齢は、「60歳代」が26.1%と最も高くなっています。次いで、「70歳代」が19.9%、「50歳代」が18.8%、「80歳以上」が13.2%などの順となっています。なお、「70歳以上」は、合わせて33.0%となっています。

主な介護者の年齢について、性別にみると、男性は「70歳代」、女性は「50歳代」が高くなっています。また、「70歳以上」は、男性が4割強、女性が3割強であり、特に男性については主な介護者が高齢化していることがうかがえます。

世帯構成別にみると、ひとり暮らし世帯は「50歳代」が最も高く、また、その他世帯は「60歳代」、次いで、「50歳代」が高くなっており、両者とも「70歳未満」が6割超となっています。それに対して、夫婦のみ世帯では「70歳代」が最も高く、次いで、「80歳以上」が高くなっており、「70歳以上」が合わせて3分の2近く、また、平均年齢も72.97歳となっており、老々介護の様子がうかがえます。

図表 2-52 主な介護者の性別（左図）及び年齢（右図）



		回答者数 (人)	40歳未満	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答	70歳未満	70歳以上	平均年齢 (歳)
全体		287	1.4	6.6	18.8	26.1	19.9	13.2	13.9	52.9	33.1	65.40
性別	男性	109	-	7.3	9.2	27.5	27.5	15.6	12.8	44.0	43.1	68.45
	女性	172	2.3	6.4	25.0	26.2	14.5	12.2	13.4	59.9	26.7	63.33
世帯構成	ひとり暮らし世帯	31	-	16.1	32.3	12.9	6.5	9.7	22.6	61.3	16.2	58.42
	夫婦のみ世帯	77	-	2.6	2.6	22.1	41.6	23.4	7.8	27.3	65.0	72.97
	その他世帯	168	2.4	7.1	23.8	29.8	12.5	10.1	14.3	63.1	22.6	62.78

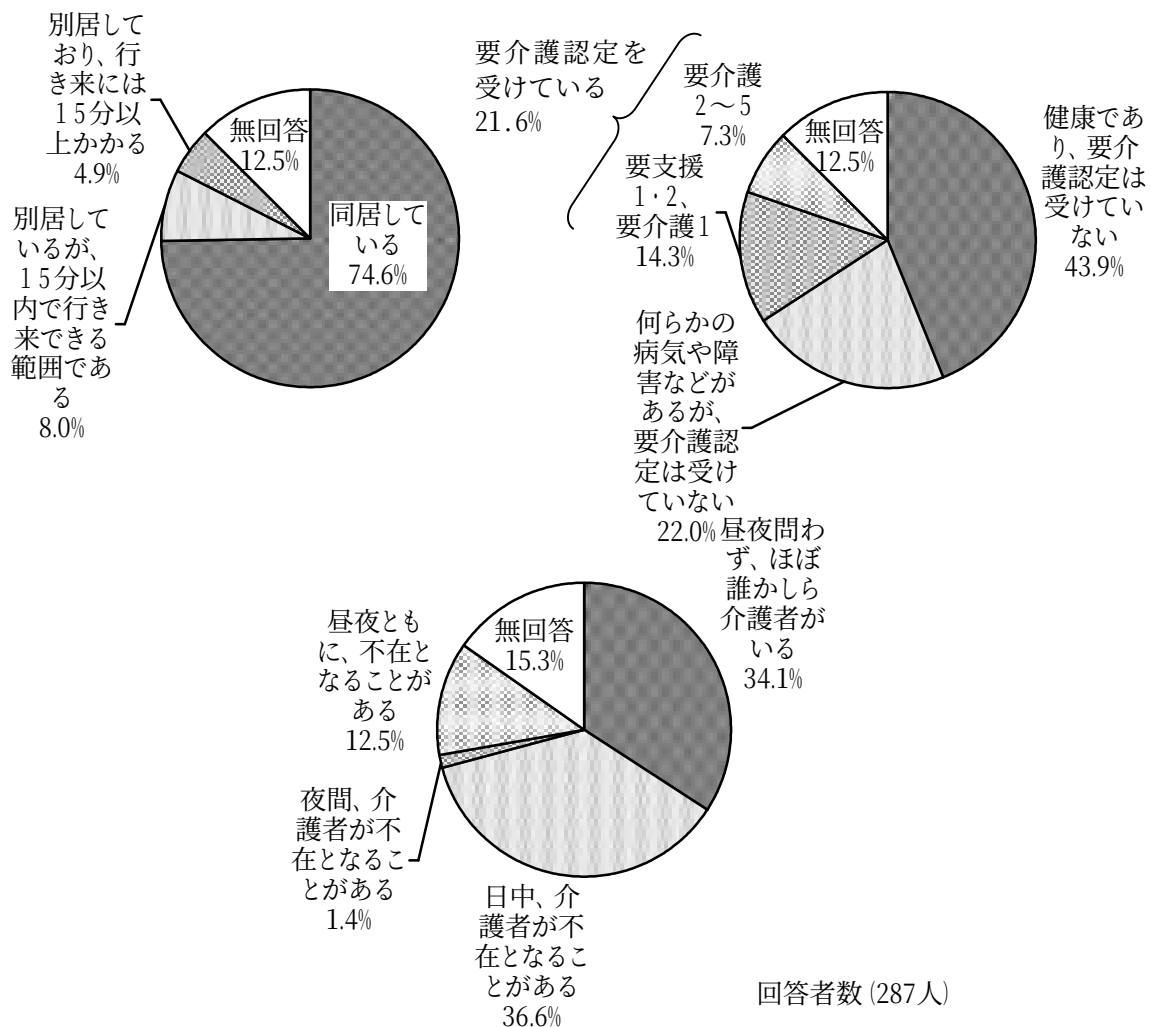
問45 あて名のご本人と主に介護をしている方は、同居されていますか。(ひとつだけ○)
問46 主に介護をしている方は、要介護認定を受けていますか。(ひとつだけ○)
問47 主に介護をしている方だけでなく、あて名のご本人を介護している方全体のことについて伺います。介護をしている方が不在となることはありますか。(ひとつだけ○)

主な介護者に対して、同居の状況についてたずねたところ、全体でみると、「同居している」が74.6%、「別居しているが、15分以内で行き来できる範囲である」が8.0%、「別居しており、行き来には15分以上かかる」が4.9%となっています。

介護者自身が要介護認定を受けているかどうかについてたずねたところ、「健康であり、要介護認定は受けていない」が43.9%、「何らかの病気や障害などがあるが、要介護認定は受けていない」が22.0%となっています。また、「要支援1・2、要介護1」が14.3%、「要介護2～5」が7.3%であり、「要介護認定を受けている」が合わせて21.6%となっています。このことから、5人に1人は要介護認定者が要介護認定者を介護しているという状況がうかがえます。

本人を介護している人全体が不在になることがあるかどうかについてたずねたところ、全体でみると、「日中、介護者が不在となることがある」が36.6%と最も高く、「昼夜問わず、ほぼ誰かしら介護者がいる」が34.1%、「昼夜ともに、不在となることがある」が12.5%、「夜間、介護者が不在となることがある」が1.4%の順となっています。

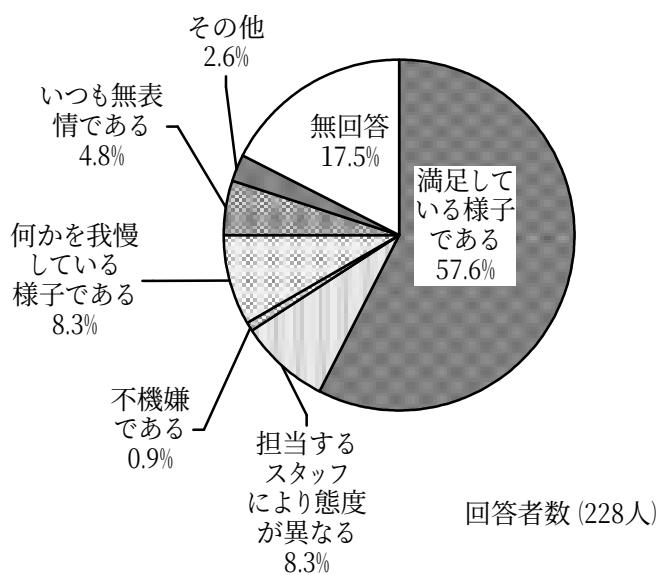
図表 2-53 主な介護者の同居の状況（左上図）、主な介護者の要介護認定の状況（右上図）、主な介護者が不在になることはあるか（下図）



問48 (ご本人が介護サービスを利用されている方へ、) 介護サービスを利用しているときのご本人の様子はいかがですか。(ひとつだけ○)

主な介護者に対して、介護サービス利用中の本人の様子についてたずねたところ、全体でみると、「満足している様子である」が57.6%と最も高くなっています。次いで、「担当するスタッフにより態度が異なる」、「何かを我慢している様子である」がそれぞれ8.3%、「いつも無表情である」が4.8%の順となっています。

図表 2-54 介護サービス利用中の本人の様子

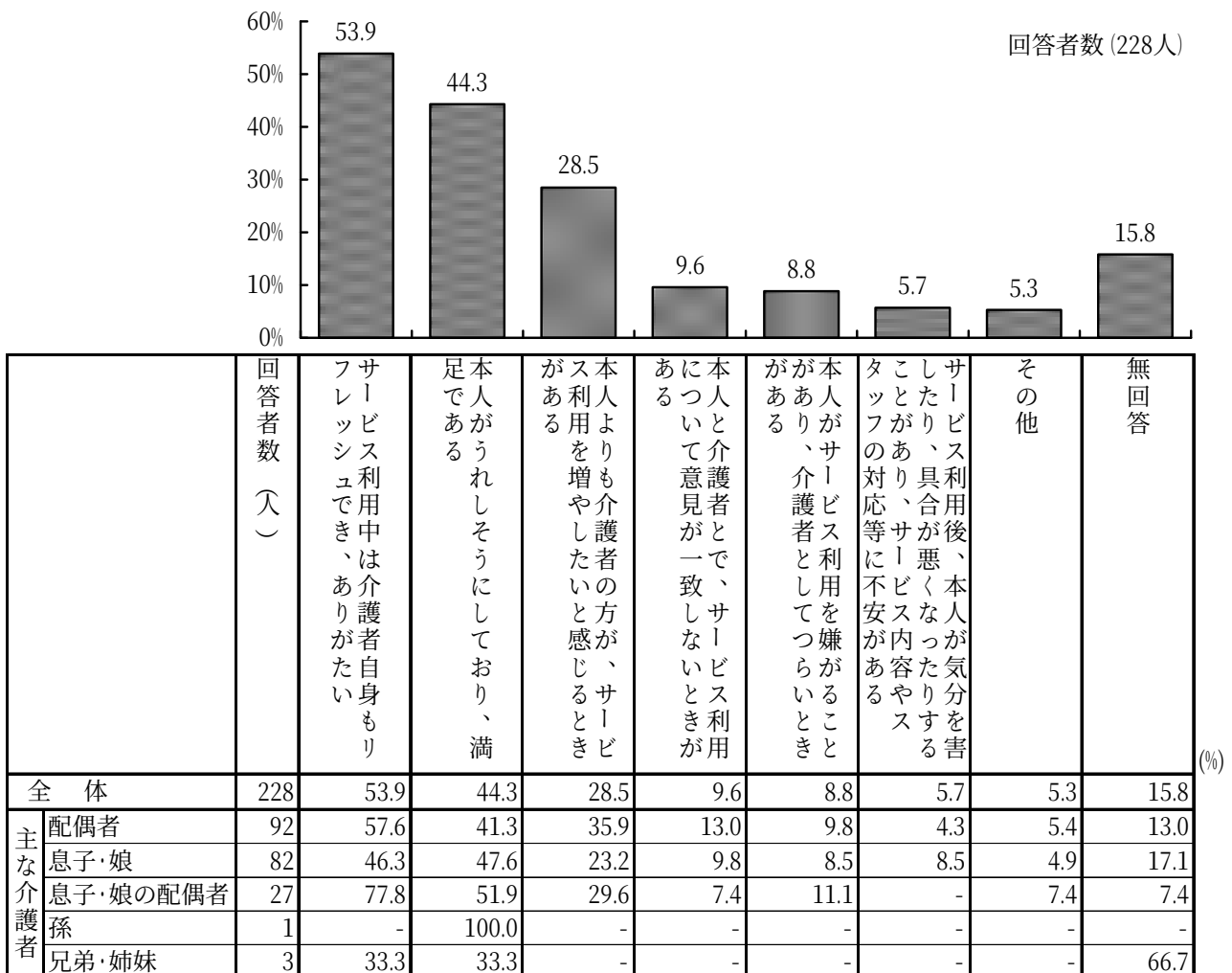


問４９ （ご本人が介護サービスを利用されている方へ、）そのとき、あなた（主に介護している方）ご自身はどのように感じですか。（主なもの３つまで○）

主な介護者に対して、本人が介護サービス利用しているときの主な介護者自身の感想についてたずねたところ、全体でみると、「サービス利用中は介護者自身もリフレッシュでき、ありがたい」が53.9%と最も高くなっています。次いで、「本人がうれしそうにしており、満足である」が44.3%、「本人よりも介護者の方が、サービス利用を増やしたいと感じるときがある」が28.5%などの順となっています。

主な介護者別にみると、配偶者、息子・娘の配偶者は「サービス利用中は介護者自身もリフレッシュでき、ありがたい」、息子・娘は「本人がうれしそうにしており、満足である」がそれぞれ最も高くなっています。特に、息子・娘の配偶者では、8割弱が「サービス利用中は介護者自身もリフレッシュでき、ありがたい」と回答しています。

図表 2-55 本人が介護サービス利用しているときの主な介護者自身の感想

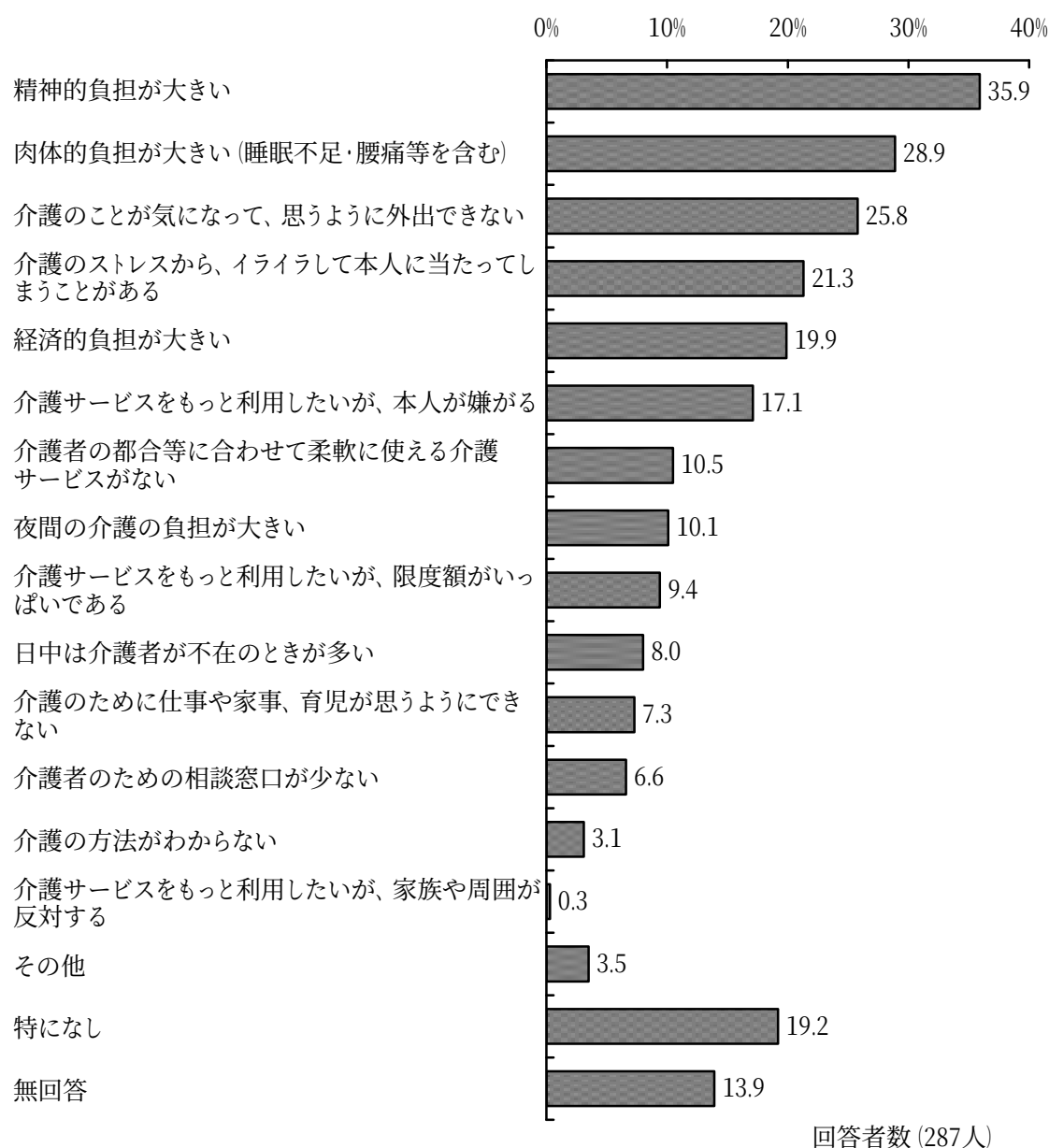


問50 介護をするうえで、困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

主な介護者に対して、介護をするうえで困っていることについてたずねたところ、全体でみると、「精神的負担が大きい」が35.9%と最も高くなっています。次いで、「肉体的負担が大きい(睡眠不足・腰痛等を含む)」が28.9%、「介護のことが気になって、思うように外出できない」が25.8%、「介護のストレスから、イライラして本人に当たってしまうことがある」が21.3%、「経済的負担が大きい」が19.9%などの順となっています。

主な介護者別にみると、配偶者は「肉体的負担が大きい(睡眠不足・腰痛等を含む)」が最も高く、次いで、「精神的負担が大きい」、また、息子・娘、息子・娘の配偶者は「精神的負担が大きい」が最も高く、次いで、「介護のことが気になって、思うように外出できない」となっています。

図表 2-56 主な介護者が介護をするうえで困っていること



図表 2-57 主な介護者が介護をするうえで困っていること（全体、主な介護者別）

	回答者数 (人)	精神的負担が大きい	肉体的負担が大きい (睡眠不足・腰痛等を含む)	介護のことが気になつて、思うように外出できない	介護のストレスから、イライラして本人に当たったりしてしまうことがある	経済的負担が大きい	介護サービスをもっと利用したいが、本人が嫌がる	介護者の都合等に合わせることができない	夜間の介護の負担が大きい	介護サービスをもっと利用したいが、限度額がある	(%)
全 体	287	35.9	28.9	25.8	21.3	19.9	17.1	10.5	10.1	9.4	
主な介護者											
配偶者	114	39.5	40.4	28.1	26.3	21.1	12.3	13.2	13.2	10.5	
息子・娘	98	34.7	23.5	24.5	18.4	18.4	23.5	6.1	7.1	6.1	
息子・娘の配偶者	34	47.1	29.4	44.1	23.5	20.6	32.4	20.6	11.8	8.8	
孫	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
兄弟・姉妹	3	66.7	33.3	-	33.3	33.3	-	33.3	66.7	33.3	

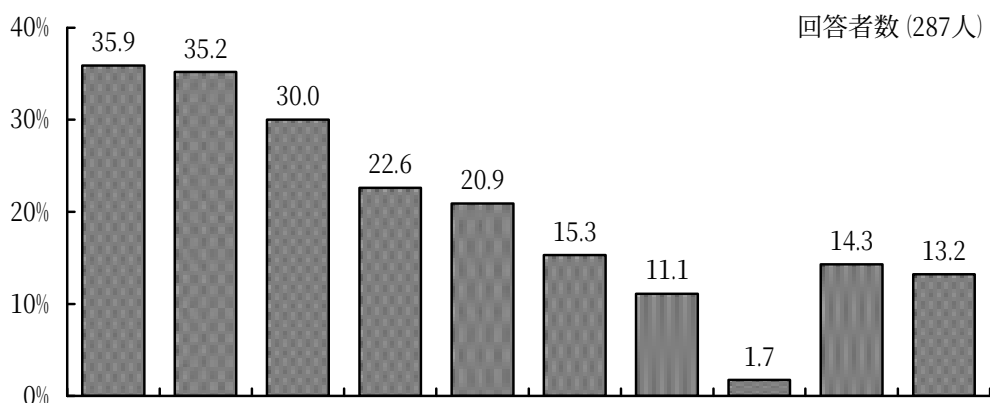
	回答者数 (人)	日中は介護者が不在のときが多い	介護のために仕事や家事、育児が思うようにできない	介護者のための相談窓口が少ない	介護の方法がわからない	介護サービスをもっと利用したいが、家族や周囲が反対する	その他	特になし	無回答	(%)
全 体	389	8.0	7.3	6.6	3.1	0.3	3.5	19.2	13.9	
主な介護者										
配偶者	167	4.4	5.3	7.0	4.4	-	2.6	15.8	14.0	
息子・娘	168	14.3	12.2	6.1	3.1	-	4.1	23.5	10.2	
息子・娘の配偶者	48	5.9	5.9	2.9	-	2.9	5.9	5.9	5.9	
孫	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	
兄弟・姉妹	5	-	-	-	-	-	-	-	33.3	

問5 1 介護をしているご家族に対する市の支援として、どのようなサービスが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

主な介護者に対して、介護家族に対して必要な市の支援サービスについてたずねたところ、全体で見ると、「冠婚葬祭・急病時に預けられるような緊急ショートステイの充実」が35.9%と最も高くなっています。次いで、「家族が休みたいときに利用できるショートステイの充実」が35.2%、「経済的支援の充実」が30.0%、「冠婚葬祭・急病時に在宅で面倒を見てくれるサービス」が22.6%、「介護に関する相談事業の充実」が20.9%などの順となっています。

主な介護者別にみると、配偶者、息子・娘、息子・娘の配偶者とも上位3つは順位が異なるものの同様であり、配偶者は「家族が休みたいときに利用できるショートステイの充実」、息子・娘は「冠婚葬祭・急病時に預けられるような緊急ショートステイの充実」、息子・娘の配偶者は「冠婚葬祭・急病時に預けられるような緊急ショートステイの充実」、「家族が休みたいときに利用できるショートステイの充実」がそれぞれ最も高くなっています。

図表 2-58 介護家族に対して必要な市の支援サービス



回答者数 (287人)

	回答者数 (人)	冠婚葬祭・急病時に預けられるような緊急ショートステイの充実	家族が休みたいときに利用できるショートステイの充実	経済的支援の充実	在宅で面倒を見てくれるサービス	介護に関する相談事業の充実	介護の教室などの開催	介護者同士の交流の場の提供	その他	特になし	無回答
全 体	287	35.9	35.2	30.0	22.6	20.9	15.3	11.1	1.7	14.3	13.2
主な介護者	配偶者	114	30.7	33.3	29.8	28.1	24.6	19.3	15.8	1.8	11.4
	息子・娘	98	40.8	34.7	32.7	26.5	21.4	17.3	10.2	1.0	8.2
	息子・娘の配偶者	34	61.8	61.8	32.4	11.8	-	-	5.9	5.9	5.9
	孫	1	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	-
	兄弟・姉妹	3	66.7	66.7	-	-	-	-	-	-	33.3

(%)

Ⅲ 日常生活圏域ニーズ調査の分析

1 総括

(1) 分析の目的と使用データ

日常生活圏域ニーズ調査は、日常生活圏域における高齢者の地域生活の課題を探り、それらの課題を踏まえた介護保険事業計画の策定に資するため、高齢者一般調査、介護予防意識調査、要介護認定者調査（居宅）の中で、必要な設問を組み込んだうえで実施しました。

質問項目は、「健康状態」、「運動や閉じこもりの状況」、「転倒予防」、「口腔・栄養の状況」、「物忘れの状況」、「日常生活の状況」、「社会参加の状況」に関して、地域支援事業の介護予防事業の基本チェックリストのほか、これまで学術的に有効性が認められてきた項目であり、それぞれの調査票のうち、「健康状態について」の中に配しています。

本節では、日常生活圏域ニーズ調査の個々の設問の回答がどうであったかということより、高齢者のさまざまなニーズを今後検討していくために必要となる高齢者の状態像や介護予防等の割合を多角的に分析することにします。

また、分析の対象とする事柄に対して関連性のある設問をいくつかに分類して判定するとともに、全体での介護予防対象者の調査結果としての整合性を保ちながら分析することにします。このため、さまざまに判定項目において必要となる設問それぞれすべてに回答したものを、各判定項目の分析での有効データとしています。

したがって、日常生活圏域ニーズ調査の分析で使用可能な回答者数については、以下のものとしています。

＜日常生活圏域ニーズ調査の分析で使用可能な回答者数について＞

(人)

調査種類	通常の集計における回答者数		性別・年齢・要介護度が無回答であるものを除外し、分析で使用可能な回答者数(最大での値)		
合 計	951	→	合 計	861	
高齢者一般	257	→	高齢者一般	248	
介護予防	318	→	介護予防	306	
要介護認定者 (居宅)	376		要支援1～2	121	要介護認定者(居宅) 計 307
		→	要介護1～2	97	
			要介護3～5	89	

※性別・年齢・要介護度が無回答であるものを除外し、分析で使用可能な回答者数(最大での値)であり、図表での回答者数として表示している。個々の判定条件で実際に使用できる回答者数は、当該判定条件を構成する設問すべてに回答の合ったもののみとなる。例えば、運動器の判定は5項目すべて、虚弱の判定は20項目すべてに回答があったもののみが使用可能なものとなる。

※要介護3～5については、日常生活圏域ニーズ調査の対象者としては求められていないが、本調査では、要介護認定者調査(居宅)の対象者の一環として実施している。そして、参考までに要支援1～2、要介護1～2と同様に回答された内容を分析し、報告書の図表に掲載しているが、本文では言及していない。

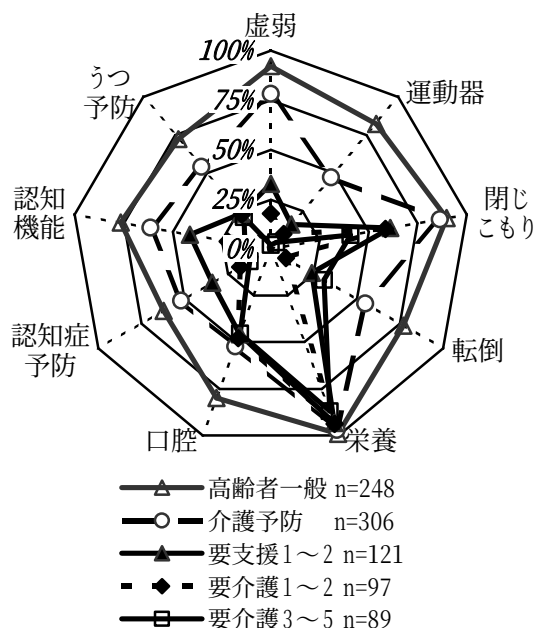
(2) 機能

① 項目別評価結果

生活機能の各評価項目ごとの非該当者（リスクなし）の割合をみると、要介護・要支援認定を受けておらず、また、介護予防事業の対象にもならない高齢者一般でその割合が最も高く、次いで、介護予防、要支援1～2、要介護1～2の順となっており、それぞれの生活機能のレベルを反映した結果となっています。

なお、高齢者一般の中にも、運動器、転倒、口腔、認知症予防、認知機能、うつ予防については、介護予防に比べて率は低いものの、該当者（リスク者）が相当数いることがうかがえます。

図表 3-1 生活機能項目非該当者の割合

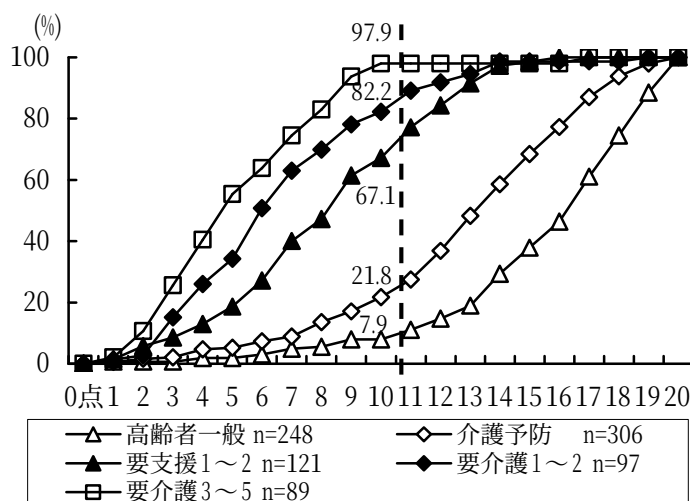


	虚弱	運動器	閉じこもり	転倒	栄養	口腔	認知症予防	認知機能	うつ予防	(%)
高齢者一般 n=248	92.1	82.3	89.9	77.0	99.0	79.8	62.3	76.5	72.3	
介護予防 n=306	78.2	47.1	86.3	54.9	97.0	52.3	52.1	61.5	54.0	
要支援1～2 n=121	32.9	16.2	61.2	24.0	93.3	45.8	33.9	41.3	23.3	
要介護1～2 n=97	17.8	9.9	58.5	9.0	93.8	47.8	17.8	22.0	22.6	
要介護3～5 n=89	2.1	4.4	40.7	30.9	87.0	45.2	12.2	13.2	21.0	

② 総合指標

基本チェックリストのうつ予防に関する設問を除く20問について、各設問で非該当となる回答をした場合を各1点として、その合計得点の分布を累積相対度数に表してみると、10点以下の者の割合は、高齢者一般が7.9%、介護予防が21.8%、要支援1～2が67.1%、要介護1～2が82.2%となっています。

図表 3-2 基本チェックリスト非該当累積相対度数分布



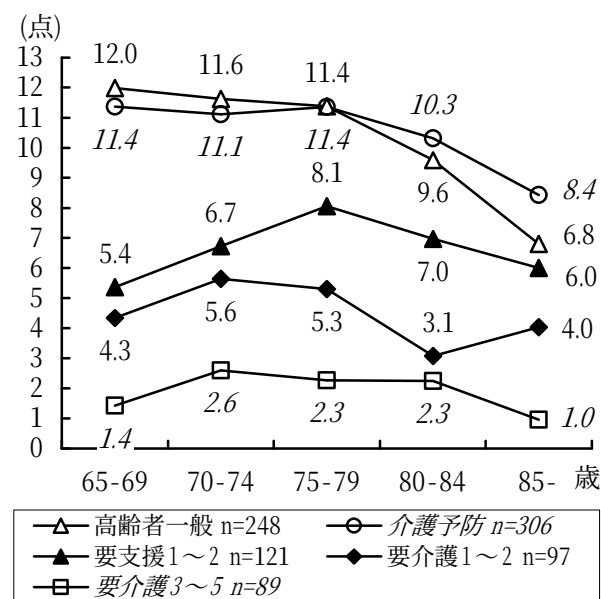
(3) 日常生活

① 老研式活動能力指標 (IADL)

手段的日常生活動作 (IADL: Instrumental Activity of Daily Living) 自立度を中心とした高齢者の比較的高次の生活機能の指標として定着している老研式活動能力指標 (13項目) について、その生活機能得点 (平均) をみると、74歳以下までは高齢者一般、75～79歳では高齢者一般と介護予防、80歳以上では介護予防が高くなっています。そして、要支援1～2、要介護1～2の順となっています。

高齢者一般と介護予防は、おおむね年齢が上がるにつれて、その得点が低下しています。要支援1～2、要介護1～2では、年齢とのあきらかに関係は見られません。

図表 3-3 IADL生活機能得点 (平均)

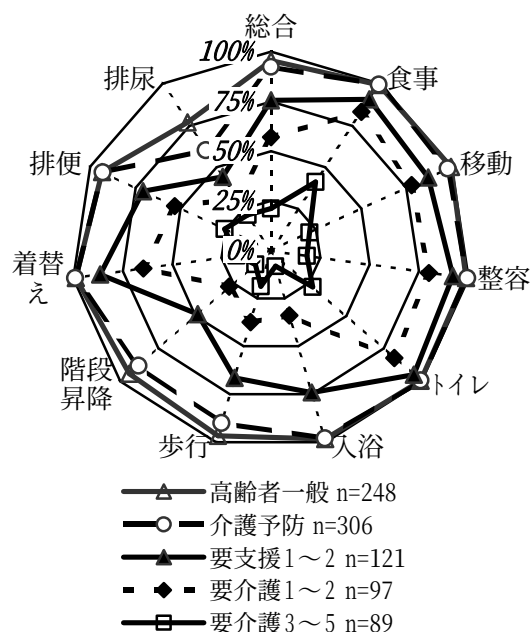


② 日常生活動作 (ADL)

高齢者の日常生活動作 (ADL: Activities of Daily Living) の状況を見ると、「自立」と評価される者の割合は、ほとどの項目でも高齢者一般が最も高く、次いで介護予防、要支援1～2、要介護1～2の順となっています。

要介護1～2と介護予防の間に位置する要支援1～2について詳しくみると、食事、移動、整容、トイレ動作、着替えについては、いずれも自立の割合が9割前後になっている一方で、入浴、歩行、階段昇降、排便、排尿については、自立の割合が低下しています。このことから、日常生活動作の中でも、比較的早い時期に低下するものとそうでないものがあることがうかがえます。

図表 3-4 項目別ADL自立度



	総合	食事	移動	整容	トイレ	入浴	歩行	階段昇降	着替え	排便	排尿	(%)
高齢者一般 n=248	95.5	99.2	99.6	98.8	99.6	98.4	96.7	94.1	98.8	93.4	76.9	
介護予防 n=306	92.4	99.3	97.7	99.3	99.3	98.0	90.0	88.0	99.0	93.0	60.0	
要支援1～2 n=121	75.5	90.6	87.1	92.2	94.9	74.1	66.4	48.7	86.3	70.8	44.2	
要介護1～2 n=97	57.0	83.2	77.9	80.0	82.1	33.7	37.2	27.7	64.6	53.2	30.9	
要介護3～5 n=89	21.1	41.2	21.4	18.3	27.9	8.2	18.6	10.5	17.4	25.6	21.5	

※整容: 洗面や歯磨きなど、身だしなみを整えること

(4) 健康・疾病

① 現在治療中、または後遺症のある病気

現在治療中、または後遺症のある病気をみると、要介護の原因となる脳卒中、心臓病、筋骨格系の病気、外傷、認知症では要支援1～2、要介護1～2が高くなっています。なお、高血圧、糖尿病に関しては、介護予防対象者でも高く、高齢者一般でもかなりの割合で見られます。

脳卒中、心臓病、筋骨格系の病気は、介護・介助が必要になった主な原因疾病の中でも高くなっています。

図表 3-5 現在治療中、または後遺症のある病気

	回答者数 (人)	高血圧	目の病気	糖尿病	筋骨格の病気 (骨粗しょう症、 関節症等)	心臓病	胃腸・肝臓・胆のうの 病気	腎臓・前立腺の病気	脳卒中 (脳出血・脳梗塞等)	高脂血症 (脂質異常)	耳の病気	呼吸器の病気 (肺炎や 気管支炎等)	外傷 (転倒・骨折等)	認知症 (アルツハイ マー病等)	がん (悪性新生物)	うつ病	パーキンソン病	血液・免疫の病気	その他	ない
全 体	861	47.5	24.0	20.0	19.9	14.3	12.8	12.4	11.6	10.8	8.5	7.4	6.9	5.3	5.2	3.1	1.2	1.0	11.7	4.8
高齢者一般	248	40.3	19.8	15.7	13.7	10.1	10.5	11.7	2.4	10.5	6.0	6.5	3.2	1.2	4.4	1.2	0.4	-	8.1	9.3
介護予防	306	52.0	26.8	20.3	19.6	13.1	13.7	12.1	4.9	12.7	9.5	4.6	4.6	0.3	5.2	1.6	-	1.3	12.1	4.2
要支援1～2	121	50.4	31.4	22.3	30.6	16.5	17.4	9.9	17.4	9.1	14.0	7.4	9.1	5.0	5.8	6.6	2.5	1.7	16.5	2.5
要介護1～2	97	51.5	22.7	22.7	27.8	21.6	10.3	15.5	23.7	13.4	5.2	13.4	10.3	11.3	8.2	6.2	2.1	2.1	15.5	2.1
要介護3～5	89	43.8	18.0	24.7	14.6	19.1	12.4	15.7	39.3	4.5	7.9	13.5	18.0	28.1	3.4	5.6	4.5	1.1	10.1	-

※()内は回答者数(人)、表頭の無回答は省略。

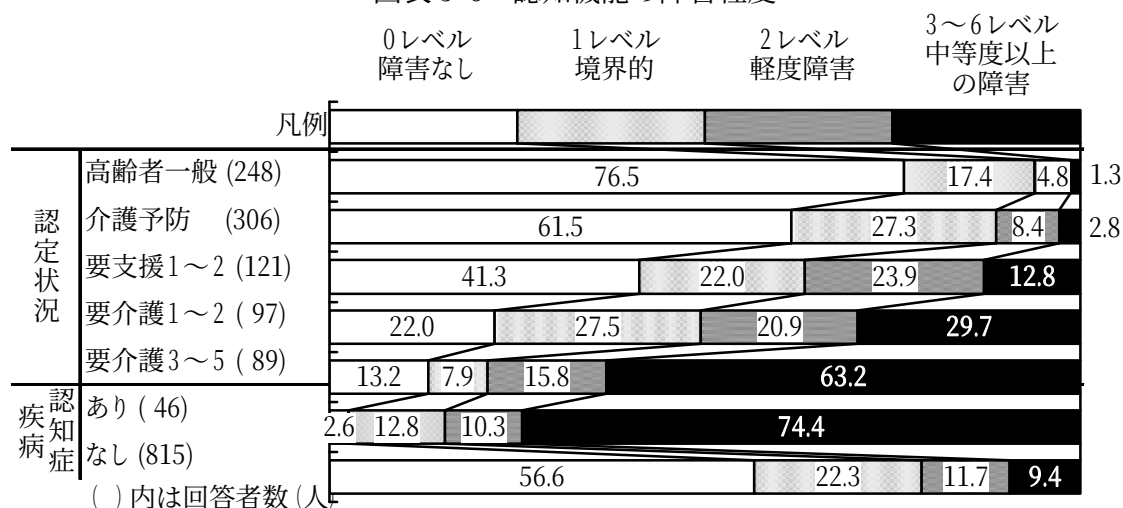
② 認知機能の障害程度

回答結果からC P S (Cognitive Performance Scale、認知機能の障害程度の指標として有用とされる)に準じて評価される認知機能の障害程度区分の分布をみると、認知機能の障害ありと評価される1レベル以上の者の割合は、要介護1～2が78.1%と最も高くなっています。次いで、要支援1～2が58.7%、介護予防が38.5%、高齢者一般が23.5%の順となっています。

C P Sで認知症の行動・心理症状がみられるのは3レベル以上と言われており、その割合は、要介護1～2が29.7%、要支援1～2が12.8%、介護予防が2.8%となっています。

認知症疾病の有無別に1レベル以上の者の割合をみると、認知症疾病ありでは97.5%、認知症疾病なしでは43.4%となっています。

図表 3-6 認知機能の障害程度



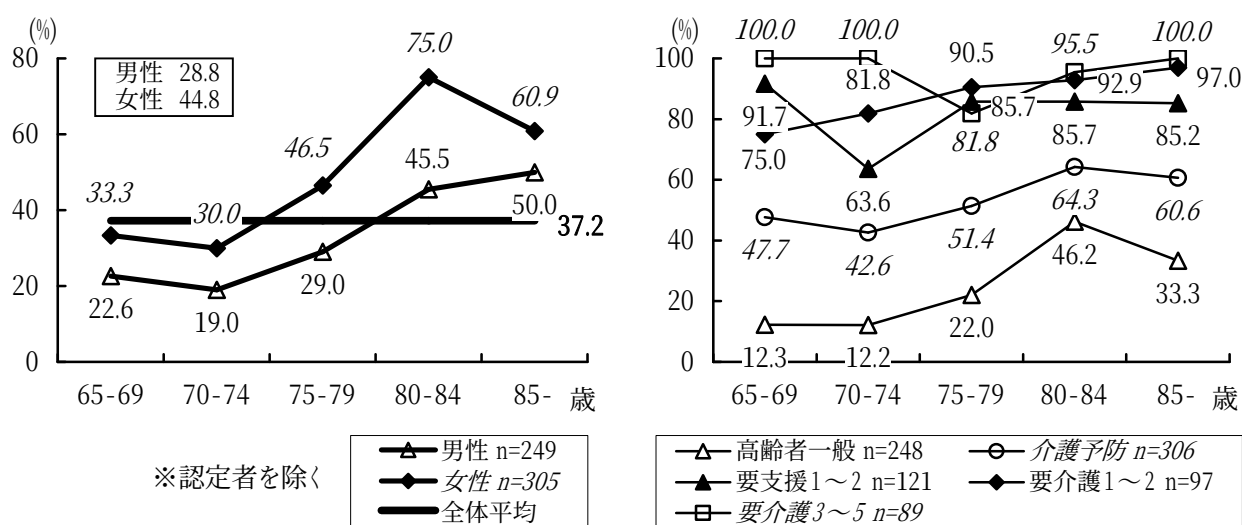
2 機能に関する分析結果

(1) 運動器

基本チェックリストに基づく運動器の評価結果を分析したところ、認定者を除く全体が37.2%、男性が28.8%、女性が44.8%で該当者となっています。男性より女性のほうが、また、おおむね年齢が上がるとつれて、該当者割合が高くなっています。

認定状況別にみると、どの年齢でも介護予防より、要支援1～2、要介護1～2のほうが、該当者割合が高くなっています。介護予防と要支援1～2の間では大きな差が見られる一方で、要支援1～2と要介護1～2の間では大きな差は見られません。

図表 3-7 運動器 該当者割合（性・年齢階級別（左図）、認定状況・年齢階級別（右図））



図表 3-8 運動器 判定で使用した設問及び関連設問

		判定 (%)				
	認定状況	高齢者一般	介護予防	要支援1～2	要介護1～2	要介護3～5
	回答者数 (人)	248	306	121	97	89
判定	問12-1 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。 (「いいえ」)	33.2	68.3	85.6	90.4	98.8
	問12-2 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。 (「いいえ」)	20.6	47.8	77.7	88.0	95.2
	問12-3 15分位続けて歩いていますか。 (「いいえ」)	20.3	36.5	58.2	75.8	88.2
	問13-1 この1年間に転んだことがありますか。 (「はい」)	24.2	35.7	54.2	61.1	55.7
	問13-2 転倒に対する不安は大きいですか。 (「はい」)	41.1	71.4	91.8	90.4	85.9

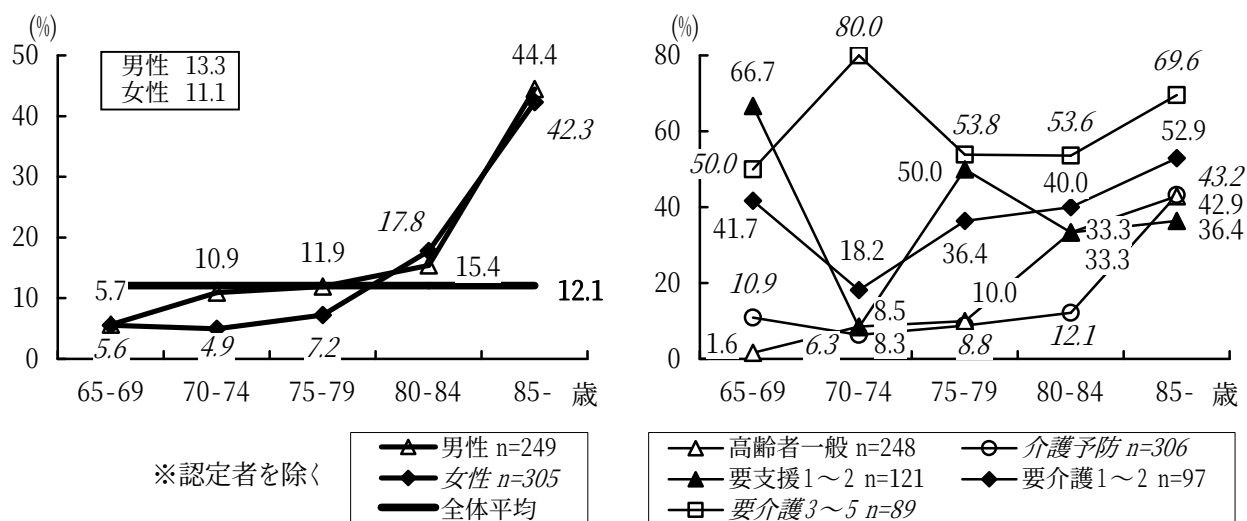
※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。
運動器の判定：5項目中、3項目が該当するもの。

(2) 閉じこもり予防

基本チェックリストに基づく閉じこもり予防の評価結果を分析したところ、認定者を除く全体が12.1%、男性が13.3%、女性が11.1%で該当者となっています。70～79歳では女性より男性のほうが、また、おおむね年齢が上がるにつれて、該当者割合が高くなっています。

認定状況別にみると、どの年齢でも介護予防より、要支援1～2、要介護1～2のほうが、該当者割合が高くなっています。

図表 3-9 閉じこもり予防 該当者割合（性・年齢階級別（左図）、認定状況・年齢階級別（右図））



図表 3-10 閉じこもり予防 判定で使用した設問及び関連設問

		(%)				
	認定状況	高齢者一般	介護予防	要支援1～2	要介護1～2	要介護3～5
	回答者数 (人)	248	306	121	97	89
判定	問12-5 週に1回以上は外出していますか。 (「いいえ」)	10.1	13.7	38.8	41.5	59.3
関連	問12-4 5m以上歩けますか。 (「いいえ」)	1.7	4.4	19.5	33.3	71.1
	問12-6 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。 (「はい」)	28.5	51.0	72.8	66.3	58.4
	問12-8 外出する頻度はどのくらいですか。 ①買物 (「週1日未満」)	13.1	17.1	44.9	68.8	80.6
	問12-8 外出する頻度はどのくらいですか。 ②散歩 (「週1日未満」)	20.7	31.1	50.6	63.6	74.3
	問12-7 外出を控えていますか。 (「はい」)	21.8	41.8	72.4	79.2	70.2

※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。
閉じこもり予防の判定: 1項目中、1項目が該当するもの。

図表 3-11 外出を控えている理由

(%)

	認定状況	高齢者一般	介護予防	要支援1～2	要介護1～2	要介護3～5
	回答者数(人)	52	122	84	76	59
参 考	病気	11.5	11.5	25.0	35.5	39.0
	障害(脳卒中の後遺症など)	1.9	4.1	13.1	13.2	40.7
	足腰などの痛み	40.4	61.5	61.9	60.5	42.4
	トイレの心配(失禁など)	13.5	24.6	28.6	31.6	20.3
	耳の障害(聞こえの問題など)	13.5	13.1	10.7	9.2	5.1
	目の障害	5.8	12.3	17.9	10.5	11.9
	外での楽しみがない	38.5	18.0	21.4	19.7	10.2
	経済的に出られない	21.2	17.2	8.3	7.9	3.4
	その他	9.6	10.7	10.7	23.7	23.7

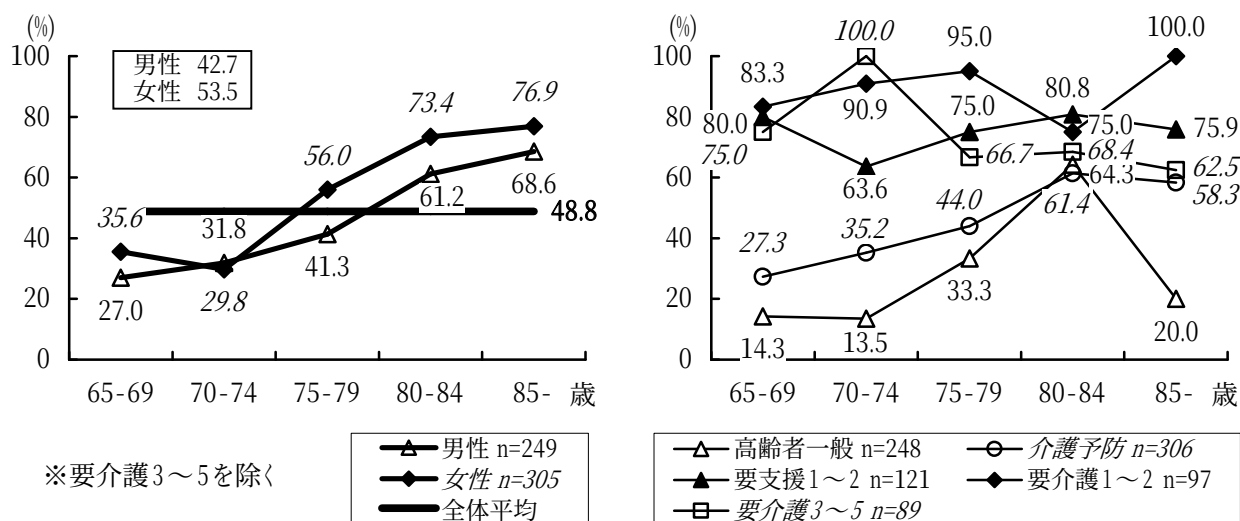
※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

(3) 転倒

基本チェックリストに基づく転倒の評価結果を分析したところ、全体(要介護3～5を除く)が48.8%、男性が42.7%、女性が53.5%で該当者となっています。男性より女性のほうが、また、年齢が上がるにつれて、該当者割合が高くなっています。

認定状況別にみると、どの年齢でも介護予防より、要支援1～2、要介護1～2のほうが、該当者割合が高くなっています。介護予防、高齢者一般では、84歳以下まで年齢が上がるにつれて、該当者割合が高くなっています。

図表 3-12 転倒 該当者割合 (性・年齢階級別 (左図)、認定状況・年齢階級別 (右図))



図表 3-13 転倒 判定で使用了設問及び関連設問

		(%)				
	認定状況	高齢者一般	介護予防	要支援1～2	要介護1～2	要介護3～5
	回答者数 (人)	248	306	121	97	89
判定	問13-1 この1年間に転んだことがありますか。 (「はい」 5点)	24.2	35.7	54.2	61.1	55.7
	問13-3 背中が丸くなってきましたか。 (「はい」 2点)	30.6	48.1	64.2	71.7	52.1
	問13-4 以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思いますか。 (「はい」 2点)	56.1	82.2	92.7	94.6	74.5
	問13-5 杖を使っていますか。 (「はい」 2点)	7.9	26.0	65.1	74.5	46.8
	問11-3 現在、何種類の薬を飲んでいますか。 (「5種類以上」 2点)	22.2	27.9	62.6	64.6	58.5

※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

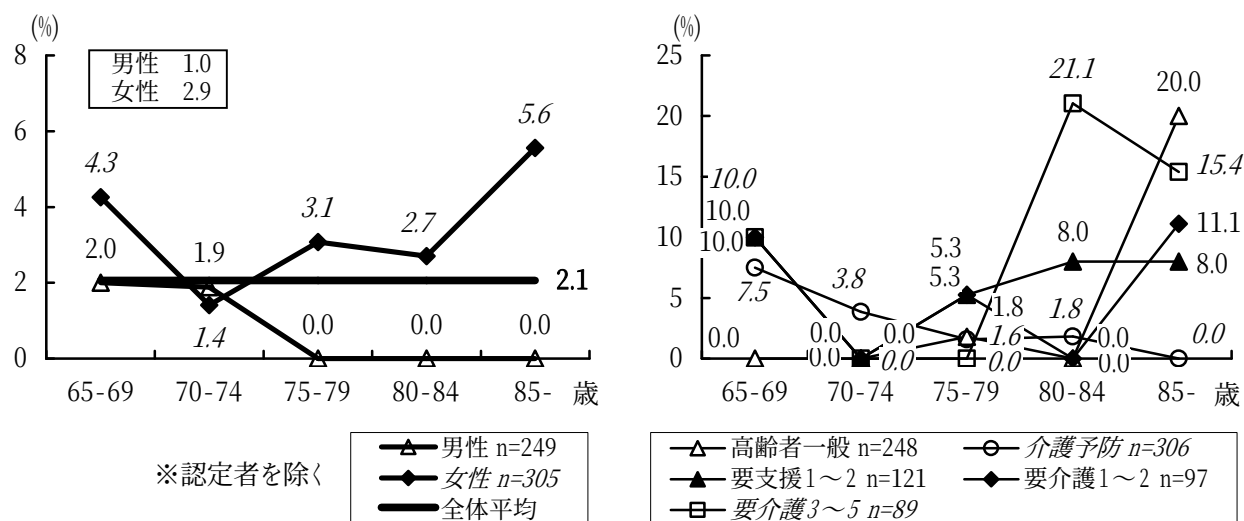
転倒の判定: 5項目の配点で、6点以上のもの。

(4) 栄養

基本チェックリストに基づく栄養の評価結果を分析したところ、認定者を除く全体が2.1%、男性が1.0%、女性が2.9%で該当者となっています。おおむねどの年齢でも、男性より女性のほうが該当者割合が高くなっています。

認定状況別にみると、おおむねどの年齢でも介護予防より、要支援1～2のほうが該当者割合が高くなっています。

図表 3-14 栄養 該当者割合（性・年齢階級別（左図）、認定状況・年齢階級別（右図））



図表 3-15 栄養 判定で使用了設問及び関連設問

		判定状況				
		高齢者一般	介護予防	要支援1～2	要介護1～2	要介護3～5
	回答者数(人)	248	306	121	97	89
判定	問14-1 6カ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。 （「はい」）	12.4	18.4	28.4	26.4	30.3
	問14-2 身長、体重（BMI＝体重÷（身長×身長）＜18.5）	6.2	8.5	12.5	19.8	22.7
関連	問16-6 食事は自分で食べられますか。（「一部介助があればできる」または「できない」）	0.8	0.7	9.4	16.8	58.8

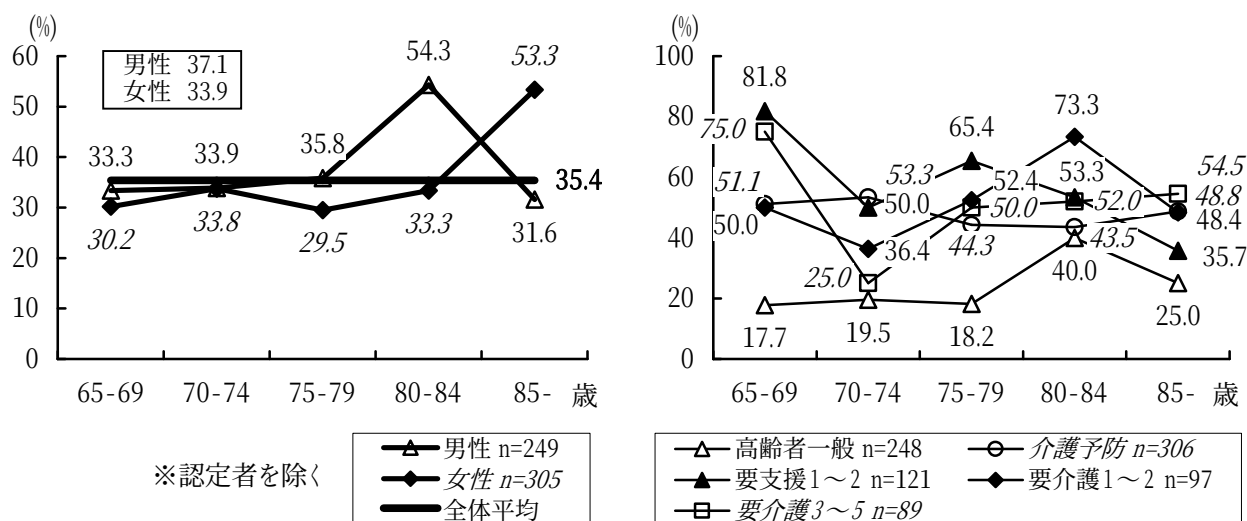
※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。
転倒の判定：2項目中、2項目が該当するもの。

(5) 口腔

基本チェックリストに基づく口腔の評価結果を分析したところ、認定者を除く全体で35.4%、男性で37.1%、女性33.9%が該当者となっています。84歳以下では女性より男性のほうが、85歳以上では男性より女性のほうが、該当者割合が高くなっています。また、79歳以下では大きな差が見られず、80歳以上で該当者割合が高くなる傾向が見られます。

認定状況別にみると、介護予防と要支援1～2の間では全体的にはあまり大きな差が見られません。高齢者一般については、80歳以上で割合が高まっています。

図表 3-16 口腔 該当者割合（性・年齢階級別（左図）、認定状況・年齢階級別（右図））



図表 3-17 口腔 判定で使用した設問及び関連設問

		判定状況 (%)				
認定状況		高齢者一般	介護予防	要支援1～2	要介護1～2	要介護3～5
回答者数 (人)		248	306	121	97	89
判定	問14-3 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。 (「はい」)	34.5	57.5	66.7	66.0	61.0
	問14-4 お茶や汁物等でむせることがありますか。 (「はい」)	20.7	41.6	43.0	48.4	67.9
	問14-5 口の渇きが気になりますか。 (「はい」)	26.6	45.7	49.1	46.7	48.0
関連	問14-6 歯磨き (人にやってもらう場合も含む) を毎日していますか。 (「いいえ」)	12.1	10.5	24.0	20.6	33.7
	問14-7 定期的に歯科受診 (健診を含む) を受けていますか。 (「いいえ」)	71.0	64.1	68.6	77.3	69.7
	問14-8 入れ歯を使用していますか。 (「はい」)	52.8	70.9	71.1	72.2	57.3
	回答者数 (人)	131	217	86	70	51
	問14-8-1 (入れ歯のある人) 噛み合わせは良いですか。 (「いいえ」)	16.8	31.3	33.7	31.4	29.4
	問14-8-2 (入れ歯のある人) 毎日入れ歯の正しい手入れをしていますか。 (「いいえ」)	13.0	14.3	19.8	20.0	29.4

※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

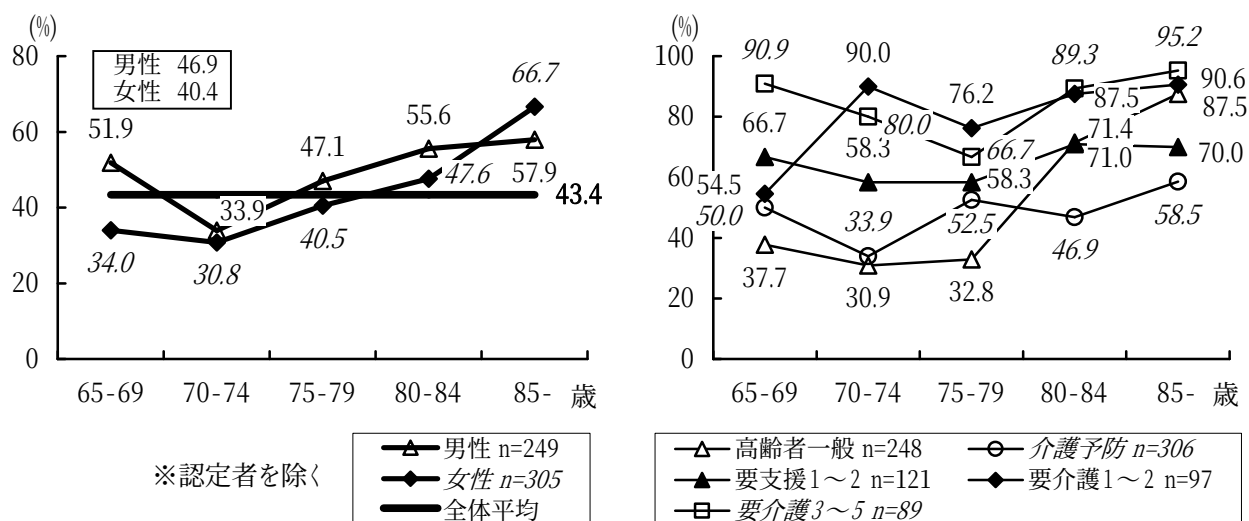
口腔の判定: 3項目中、2項目が該当するもの。

(6) 認知

基本チェックリストに基づく認知の評価結果を分析したところ、認定者を除く全体で43.4%、男性で46.9%、女性40.4%が該当者となっています。84歳以下では女性より男性のほうが、85歳以上では男性より女性のほうが、また、おおむね年齢が上がるにつれて、該当者割合が高くなっています。

認定状況別にみると、65～69歳を除いて、どの年齢でも要介護1～2は、介護予防と要支援1～2より該当者割合が高くなっています。65～69歳を除いて、介護予防と要支援1～2の間で、また、要支援1～2と要介護1～2の間で大きな差が見られます。

図表 3-18 認知 該当者割合（性・年齢階級別（左図）、認定状況・年齢階級別（右図））



図表 3-19 認知 判定で使用了設問及び関連設問

		判定 (%)				
	認定状況	高齢者一般	介護予防	要支援1～2	要介護1～2	要介護3～5
	回答者数 (人)	248	306	121	97	89
判定	問15-1 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると言われますか。（「はい」）	17.5	27.4	38.1	54.8	65.3
	問15-2 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。（「いいえ」）	12.0	13.3	30.5	54.8	84.4
	問15-3 今日が何月何日かわからない時がありますか。（「はい」）	21.3	30.3	46.6	60.0	68.4
関連	問11-2_14 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。（認知症）	1.2	0.3	5.0	11.3	28.1

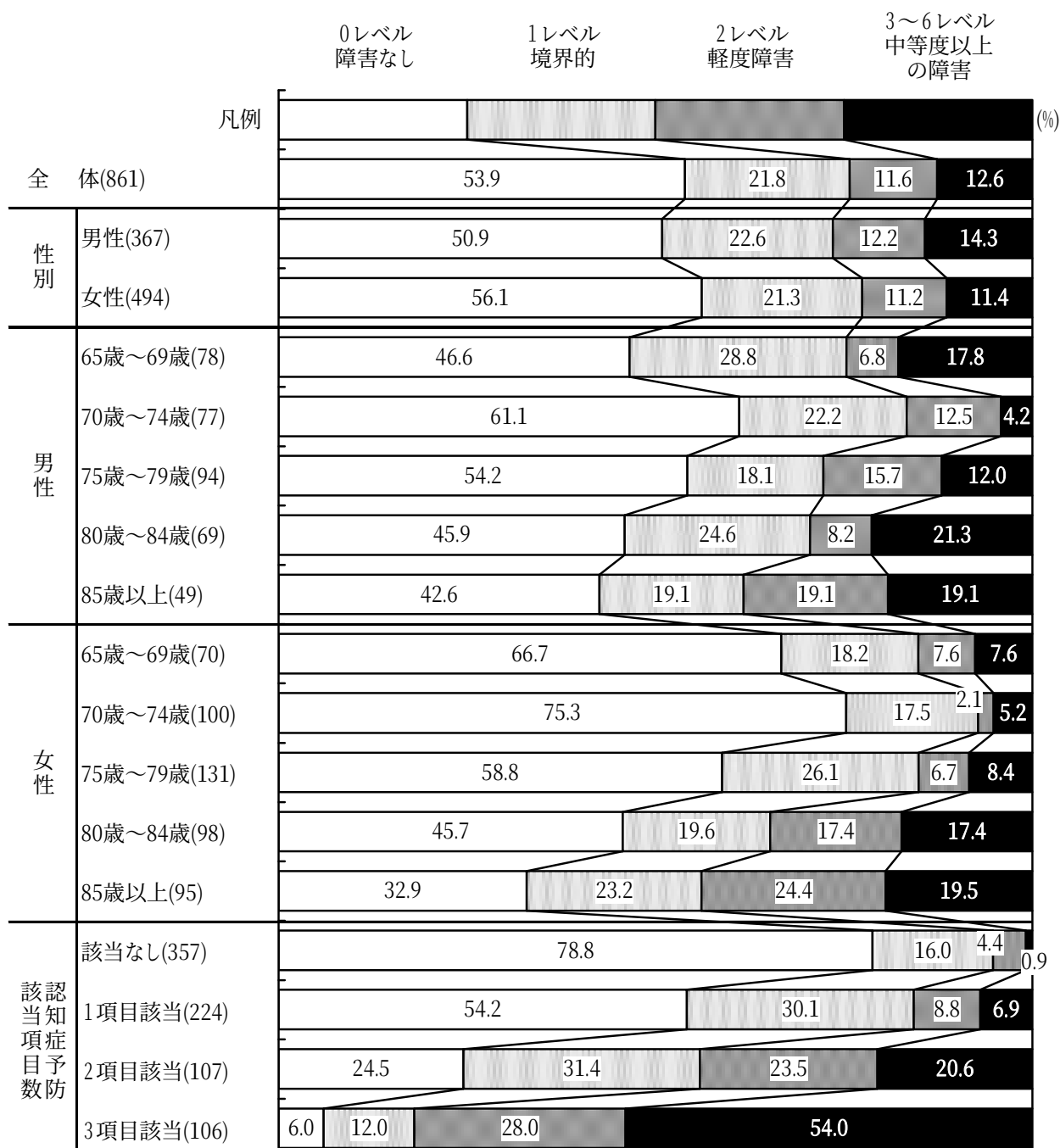
※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

認知の判定: 3項目中、1項目が該当するもの。

今回の調査には、認知機能の障害程度の指標として有用とされるC P S（Cognitive Performance Scale）に準じた設問を組み込んであります。設問に対する回答内容により、0レベル（障害なし）から6レベル（最重度の障害がある）までの評価が可能となっています。

性別にみると、男性と女性で大きな差は見られません。年齢別にみると、70歳以降ではおおむね年齢が上がるにつれて、障害程度の重い人が増えています。また、上で判定した認知症予防該当項目数別にみると、項目数が多いほど障害程度の重い人が増えており、3項目すべてに該当する場合は、ほとんどがレベル1以上であり、特に半数強が3～6レベルとなっています。

図表 3-20 認知機能障害程度（C P S）区分別割合（性・年齢階級別、認知症予防該当項目別）

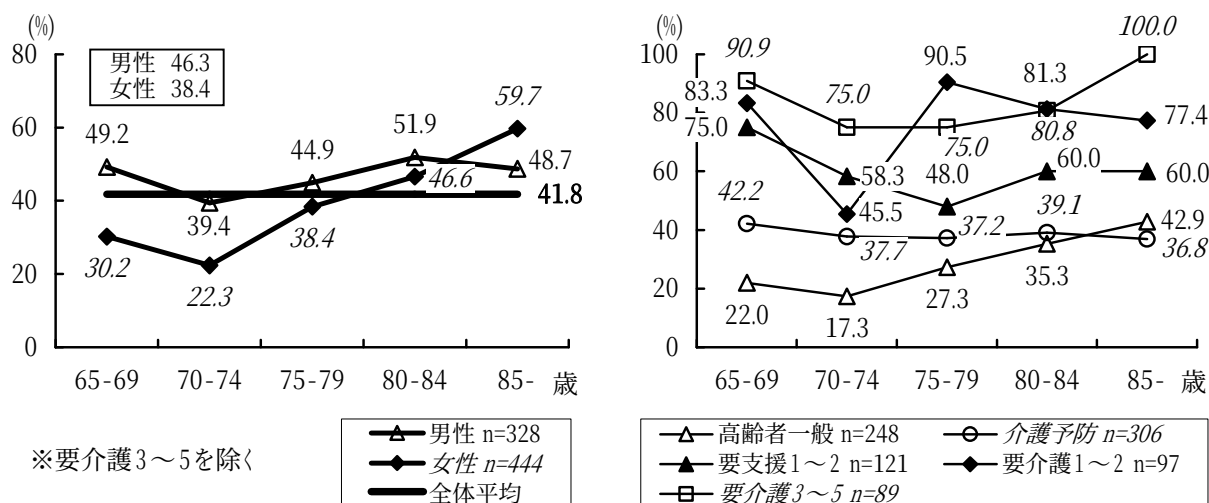


() 内は回答者数 (人)

認知機能リスク者割合（C P S 1項目以上該当）を分析したところ、1レベル以上の障害程度と評価されるリスク者の割合は、全体が41.8%、男性が46.3%、女性が38.4%であり、84歳以下では女性より男性が、85歳以上では男性より女性のほうが、該当者割合が高くなっています。また、年齢別にみると、おおむね年齢が上がるにつれて、リスク者割合が高くなっています。

認定状況別にみると、おおむねどの年齢でも介護予防より要支援1～2のほうが、70～74歳を除いて、要支援1～2より要介護1～2のほうが、該当者割合が高くなっています。

図表 3-21 認知機能リスク者割合（C P S 1項目以上該当）
（性・年齢階級別（左図）、認定状況・年齢階級別（右図））



図表 3-22 認知機能リスク者割合 評価で使った設問及び関連設問

		(%)				
	認定状況	高齢者一般	介護予防	要支援1～2	要介護1～2	要介護3～5
	回答者数 (人)	248	306	121	97	89
評価	問15-4 5分前のことが思い出せますか。 (「いいえ」)	14.5	16.7	21.4	29.3	50.7
	問15-5 その日の活動 (食事を する、衣服を選ぶなど) を自分で 判断できますか。*参照	7.6	14.0	41.7	67.4	83.8
	問15-6 人に自分の考えをうまく 伝えられますか。**参照	10.8	23.7	44.9	52.1	78.6
	問16-6 食事は自分で食べられ ますか。 (「一部介助があれば できる」、「できない」)	0.8	0.7	9.4	16.8	58.8

※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

認知機能の障害程度の評価方法: 4項目の内容により、0～6レベルの7段階で評価 (詳細は省略)。

* 問15-5 (「いくらか困難であるが、できる」、「判断するときに、他人からの合図や見守りが必要」、「ほとんど判断できない」)

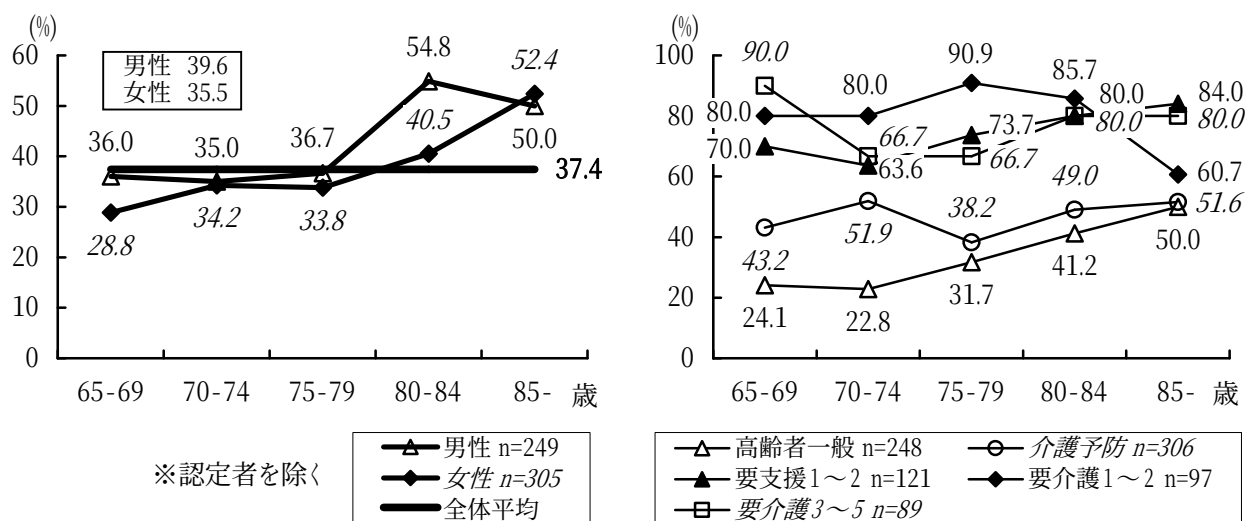
** 問15-6 (「いくらか困難であるが、伝えられる」、「あまり伝えられない」、「ほとんど伝えられない」)

(7) うつ予防

基本チェックリストに基づくうつ予防の評価結果を分析したところ、認定者を除く全体が37.4%、男性が39.6%、女性が35.5%で該当者となっています。おおむねどの年齢でも女性より男性のほうが、該当者割合が高くなっています。また、おおむね年齢が上がるにつれて、該当者割合が高くなっています。

認定状況別にみると、85歳以上を除いて、どの年齢でも介護予防より要支援1～2のほうが、要支援1～2より要介護1～2のほうが、該当者割合が高くなっています。

図表 3-23 うつ予防 該当者割合（性・年齢階級別（左図）、認定状況・年齢階級別（右図））



図表 3-24 うつ予防 判定で使用した設問及び関連設問

		判定 (%)				
	認定状況	高齢者一般	介護予防	要支援1～2	要介護1～2	要介護3～5
	回答者数 (人)	248	306	121	97	89
判定	問11-7 (ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない。 (「はい」)	21.5	29.3	48.5	55.6	64.3
	問11-8 (ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった。 (「はい」)	16.9	25.4	54.9	50.0	62.9
	問11-9 (ここ2週間) 以前は楽しんでできていたことが、今ではおっくうに感じられる。 (「はい」)	35.3	50.7	74.5	80.6	80.9
	問11-10 (ここ2週間) 自分が役に立つ人間だと思えない。 (「はい」)	16.4	30.1	56.0	64.4	62.1
	問11-11 (ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする。 (「はい」)	24.1	41.7	62.7	62.6	59.1

※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

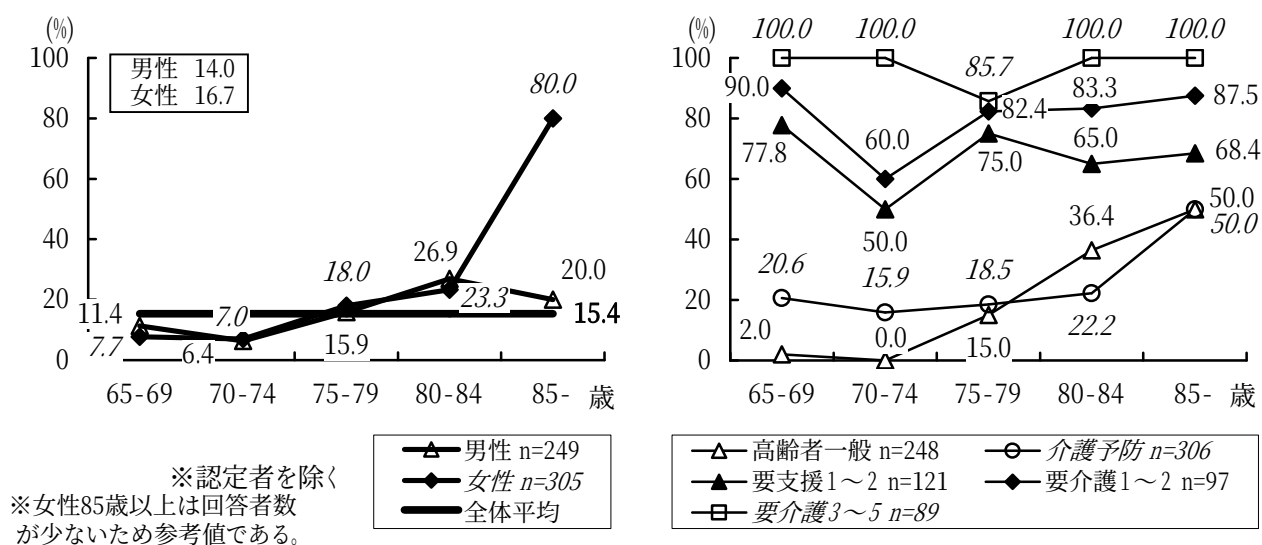
うつ予防の判定：5項目中、2項目が該当するもの。

(8) 虚弱

基本チェックリストに基づく虚弱の評価結果を分析したところ、認定者を除く全体が15.4%、男性が14.0%、女性が16.7%で該当者となっています。どの年齢でも、男性と女性の差はほとんど見られません。また、おおむね年齢が上がるにつれて、該当者割合が高くなっています。

認定状況別にみると、高齢者一般と介護予防では、75歳以上では年齢が上がるにつれて、該当者割合が高くなっています。要支援1～2と要介護1～2では、65～69歳でも高く、その後70～74歳で一旦下がった後、おおむね年齢が上がるにつれて、再び該当者割合が高くなっています。また、どの年齢でも要支援1～2、要介護1～2は、介護予防より該当者割合が高くなっています。介護予防と要支援1～2の間で大きな差が見られ、要支援1～2と要介護1～2の間でもやや差が見られます。

図表 3-25 虚弱 該当者割合（性・年齢階級別（左図）、認定状況・年齢階級別（右図））



図表 3-26 虚弱 判定で使用した設問及び関連設問

		判定 (%)				
	認定状況	高齢者一般	介護予防	要支援1～2	要介護1～2	要介護3～5
	回答者数 (人)	248	306	121	97	89
判定	問16-1 バスや電車で一人で外出していますか。（「できるだけしていない」または「できない」）	16.8	33.8	74.1	91.6	96.5
	問16-2 日用品の買物をしていますか。（「できるだけしていない」または「できない」）	12.1	20.6	67.3	90.3	95.3
	問16-5 預貯金の出し入れをしていますか。（「できるだけしていない」または「できない」）	19.4	26.5	47.0	82.1	95.3
	問17-5 友人の家を訪ねていますか。（「いいえ」）	38.7	44.7	72.8	90.5	97.6
	問17-6 家族や友人の相談に乗っていますか。（「いいえ」）	20.5	26.3	61.1	78.9	87.1

※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

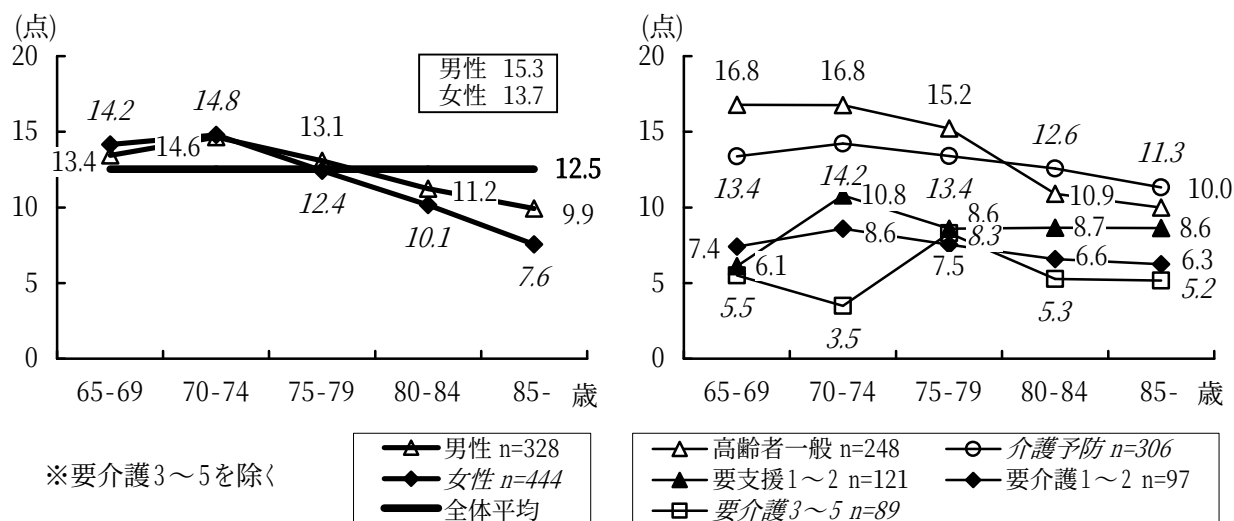
虚弱の判定: 基本チェックリストの25項目のうち、うつ予防・支援に関する5項目を除いた20項目において、10項目以上に該当する者。未出の5項目のみ表示。

基本チェックリスト20項目について、それぞれ該当しない回答をした場合を1点として、その合計得点の平均を求めたのが下の図表です。男性、女性とも70歳以上では年齢が上がるにつれて、平均得点が下がっているとともに、男性より女性のほうが80歳を過ぎると、その低下幅が大きくなっています。

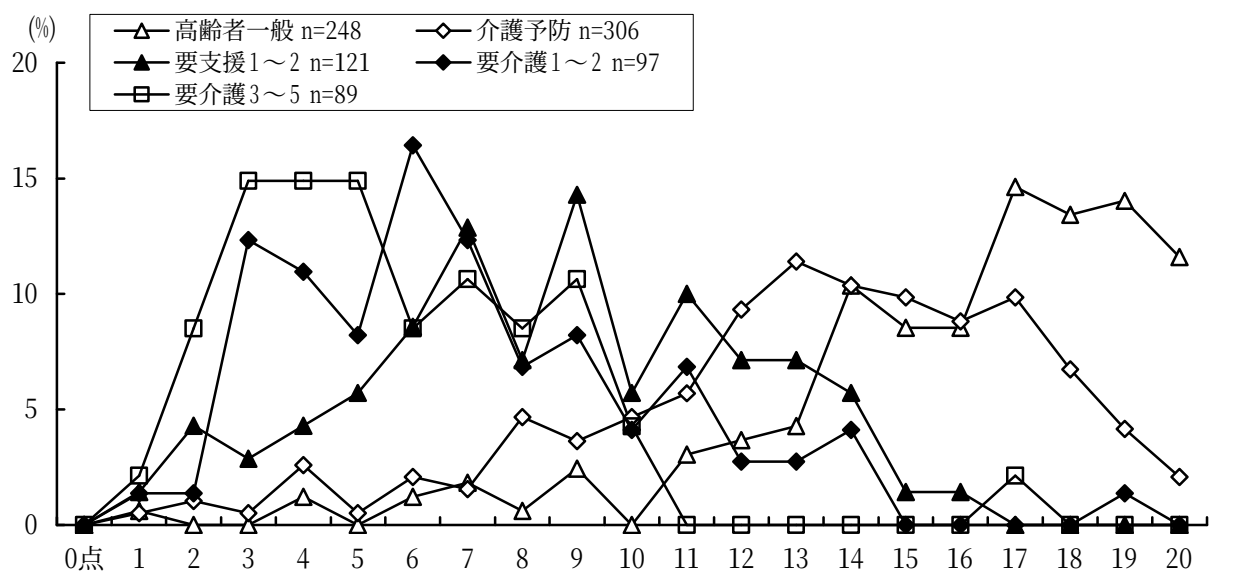
認定状況別にみると、おおむね79歳以下では、最も高いのが高齢者一般で、次いで介護予防、要支援1～2、要介護1～2の順となっており、それぞれの生活機能のレベルを反映した結果となっています。

20項目すべてに回答のあった人について、この得点の相対度数分布をみると、高齢者一般が17点、介護予防が13点、要支援1～2が9点、要介護1～2が6点で、それぞれ最も高い値になっています。

図表 3-27 基本チェックリスト得点（性・年齢階級別（左図）、認定状況・年齢階級別（右図））



図表 3-28 基本チェックリスト得点の相対度数分布（認定状況別）



相対度数分布

	0点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
高齢者一般 n=248	0.0	0.6	0.0	0.0	1.2	0.0	1.2	1.8	0.6	2.4	0.0	3.0	3.7	4.3	10.4	8.5	8.5	14.6	13.4	14.0	11.6
介護予防 n=306	0.0	0.5	1.0	0.5	2.6	0.5	2.1	1.6	4.7	3.6	4.7	5.7	9.3	11.4	10.4	9.8	8.8	9.8	6.7	4.1	2.1
要支援1～2 n=121	0.0	1.4	4.3	2.9	4.3	5.7	8.6	12.9	7.1	14.3	5.7	10.0	7.1	7.1	5.7	1.4	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0
要介護1～2 n=97	0.0	1.4	1.4	12.3	11.0	8.2	16.4	12.3	6.8	8.2	4.1	6.8	2.7	2.7	4.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	0.0
要介護3～5 n=89	0.0	2.1	8.5	14.9	14.9	14.9	8.5	10.6	8.5	10.6	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	0.0	0.0	0.0

※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

(9) 二次予防対象者

二次予防対象者については、運動器、口腔など、複数の評価項目で重複して該当する人がいるため、重複を除いて該当者割合を求めました。

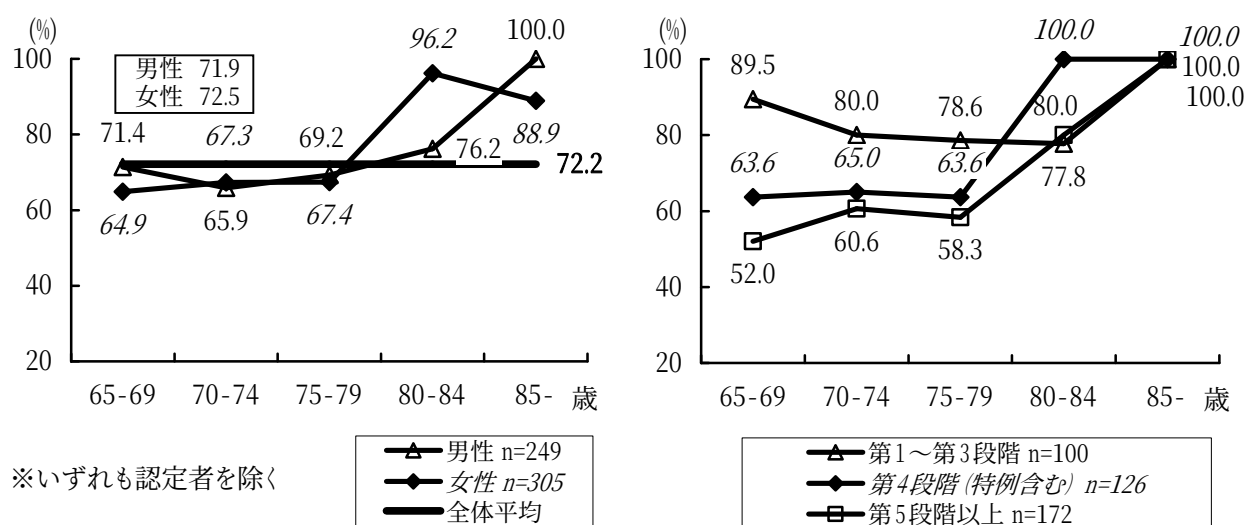
該当者割合は、認定者を除く全体が72.2%、男性が71.9%、女性が72.5%となっています。男性と女性の差はほとんど見られません。また、おおむね年齢が上がるにつれて、該当者割合が高くなっています。

介護保険料段階別にみると、79歳以下では第1～第3段階で、該当者割合が高くなっています。

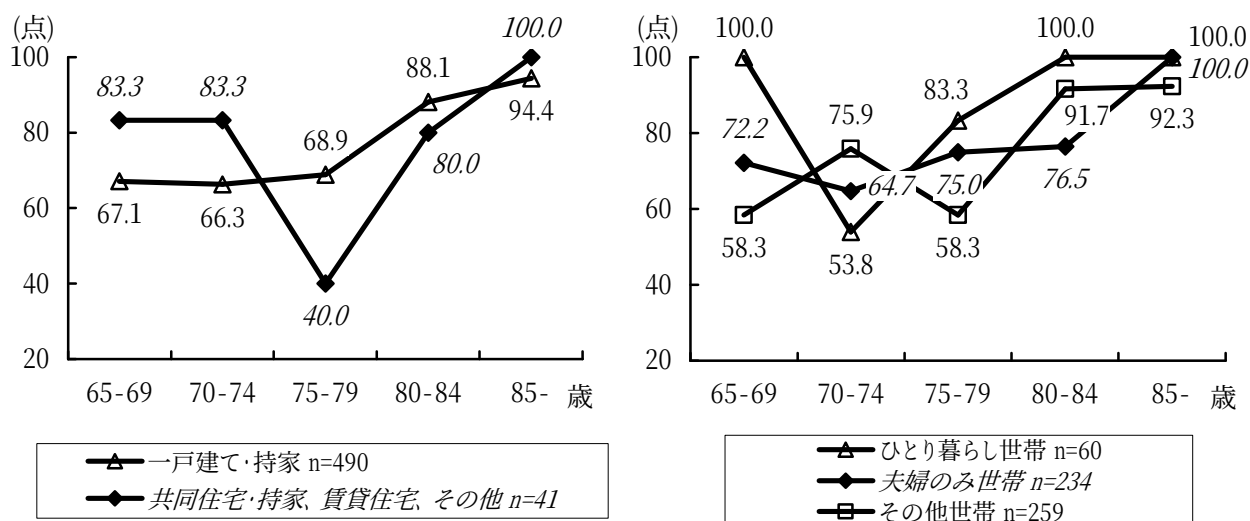
住宅の種類と所有関係別にみると、74歳以下では共同住宅・持家、賃貸住宅、その他で、該当者割合が高くなっています。

世帯構成別にみると、75～84歳ではひとり暮らし世帯で、該当者割合が高くなっています。

図表 3-29 二次予防対象者 該当者割合
(性・年齢階級別 (左図)、介護保険料段階・年齢階級別 (右図))



図表 3-30 二次予防対象者 該当者割合
(住宅の種類と所有関係・年齢階級別 (左図)、世帯構成・年齢階級別 (右図))



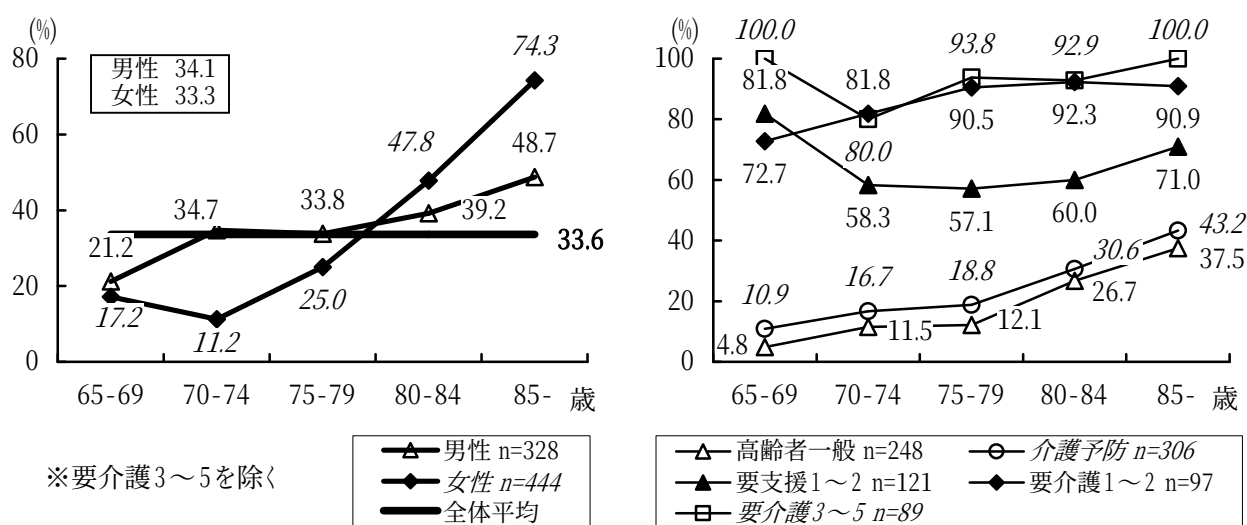
3 日常生活に関する分析結果

(1) 手段的日常生活動作（IADL）自立度

今回の調査では、高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標に準じた設問を組み込んでいます。このうち、手段的日常生活動作（IADL）自立度について、4点以下を低下者とした評価結果をみると、79歳以下では女性より男性のほうが低下者割合は高くなっていますが、80歳以上では逆に男性より女性のほうが、低下者割合は急激に高くなっています。

認定状況別にみると、最も低下者割合が最も高いのは、65～69歳を除き要介護1～2であり、次いで、要支援1～2、となっています。介護予防と高齢者一般では、あまり大きな差は見られませんが、介護予防のほうが、低下者割合は高くなっています。一方、介護予防と要支援1～2の間で、また、65～69歳を除き要支援1～2と要介護1～2の間で大きな差が見られます。

図表 3-31 手段的日常生活動作自立度 低下者割合
(性・年齢階級別（左図）、認定状況・年齢階級別（右図）)



図表 3-32 手段的日常生活動作自立度 判定で使用した設問及び関連設問

		(%)				
	認定状況	高齢者一般	介護予防	要支援1～2	要介護1～2	要介護3～5
	回答者数(人)	248	306	121	97	89
判定	問16-1 バスや電車で一人で外出していますか。(「できるし、している」、「できるけどしていない」)	93.3	84.6	41.1	21.1	5.9
	問16-2 日用品の買物をしていますか。(「できるし、している」、「できるけどしていない」)	96.7	92.6	59.3	29.0	7.1
	問16-3 自分で食事の用意をしていますか。(「できるし、している」、「できるけどしていない」)	93.4	88.9	61.2	33.7	7.1
	問16-4 請求書の支払いをしていますか。(「できるし、している」、「できるけどしていない」)	95.8	93.9	67.0	44.7	14.1
	問16-5 預貯金のお出し入れをしていますか。(「できるし、している」、「できるけどしていない」)	94.2	90.3	67.8	42.1	9.4

※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

生活機能低下者割合の判定: 上の5項目を各1点として5点満点で、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」として評価するが、本調査では、4点以下を低下者とする。

手段的日常生活動作自立度に関する設問において、「できるけどしていない」により、能力と実行状況の差をみると、要介護1～2では本来はできるのにしていないことが多くなっています。また、高齢者一般、介護予防では、食事の用意ができるのにしていない人が4分の1弱いることがわかります。

図表 3-33 手段的日常生活動作自立度 能力と実行状況の差

		(%)				
参 考	認定状況	高齢者一般	介護予防	要支援1～2	要介護1～2	要介護3～5
	回答者数(人)	248	306	121	97	89
	問16-1 バスや電車で一人で外出していますか。(「できるけどしていない」)	10.1	18.4	15.2	12.6	2.4
	問16-2 日用品の買物をしていますか。(「できるけどしていない」)	8.8	13.2	26.5	19.4	2.4
	問16-3 自分で食事の用意をしていますか。(「できるけどしていない」)	23.2	24.6	13.8	18.5	3.5
	問16-4 請求書の支払いをしていますか。(「できるけどしていない」)	12.2	16.7	14.3	22.3	7.1
	問16-5 預貯金のおし入れをしていますか。(「できるけどしていない」)	13.6	16.8	14.8	24.2	4.7

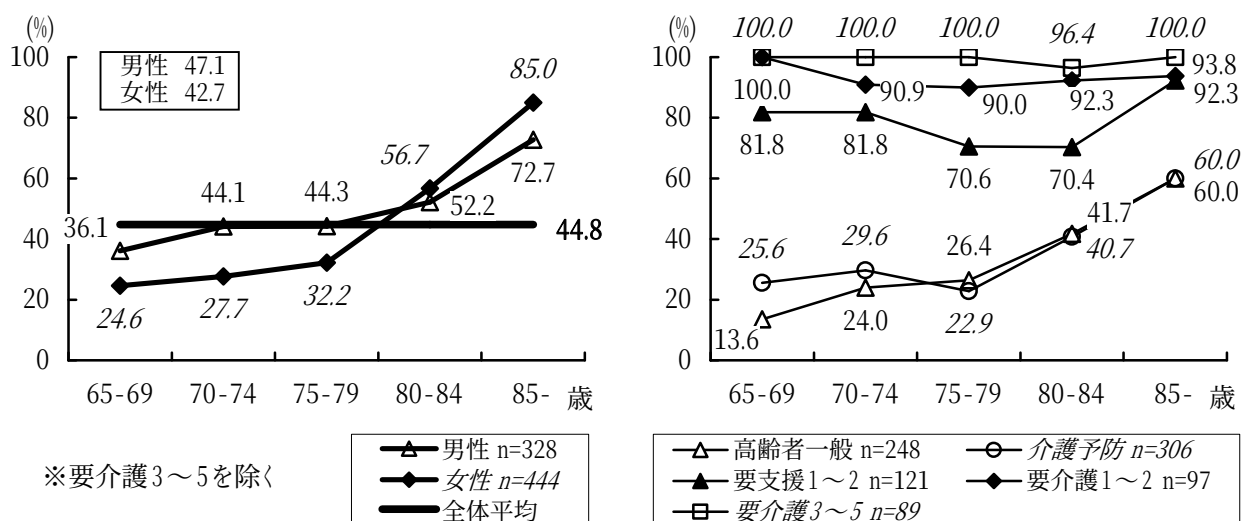
※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

(2) 生活機能総合評価

手段的日常生活動作自立度に、知的能動性、社会的役割を加えた老研指標13項目は13点満点で評価し、11点以上を「高い」、9～10点を「やや低い」、8点以下を「低い」として評価しますが、本調査では10点以下を「低下者」とした評価結果をみると、79歳以下までは女性より男性のほうが、おおむね低下者割合が高くなっています。一方、80歳以上では男性より女性のほうが、低下者割合は急激に高くなっています。

認定状況別にみると、最も低下者割合が最も高いのは、要介護1～2であり、次いで、要支援1～2となっています。介護予防と高齢者一般では、両者とも要支援1～2より低いものの、74歳以下では介護予防の低下者割合がやや高く、その他では両者の間であまり大きな差は見られません。

図表 3-34 生活機能総合評価 低下者割合（性・年齢階級別（左図）、認定状況・年齢階級別（右図））



(3) 日常生活動作 (ADL)

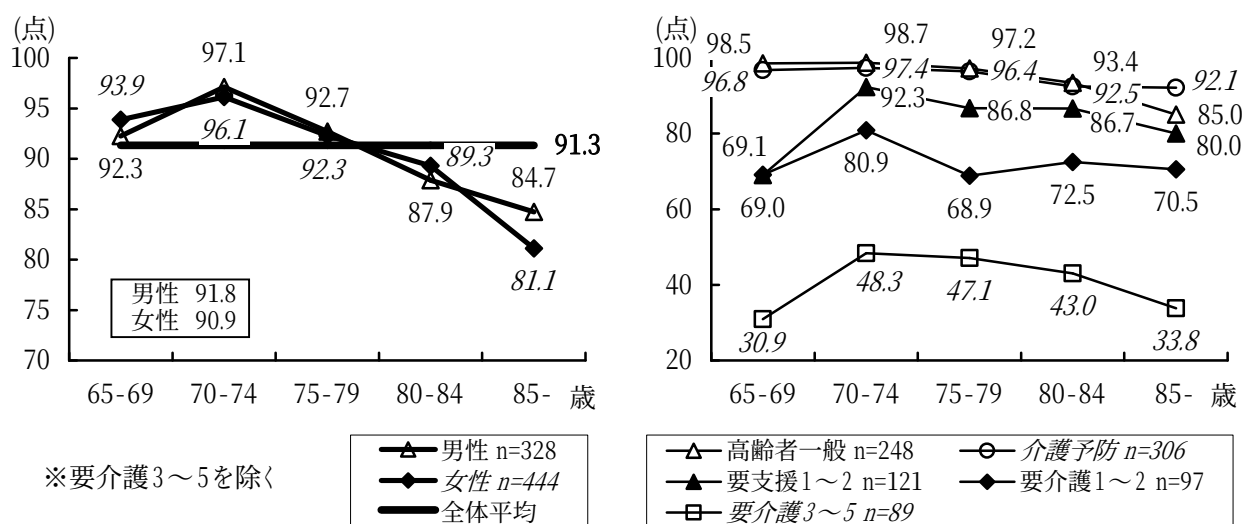
今回の調査には、日常生活動作 (ADL) に関する設問を組み込んでいます。内容は、食事、移動、整容、トイレ動作、入浴、歩行、階段昇降、着替え、排便、排尿の10項目で、ADL評価指標として広く用いられているバーセルインデックスに準じた設問内容となっています。

日常生活動作の合計得点の平均値を、性別、また、認定状況別にみると、80歳以上、特に女性の85歳以上で平均得点が低下しています。

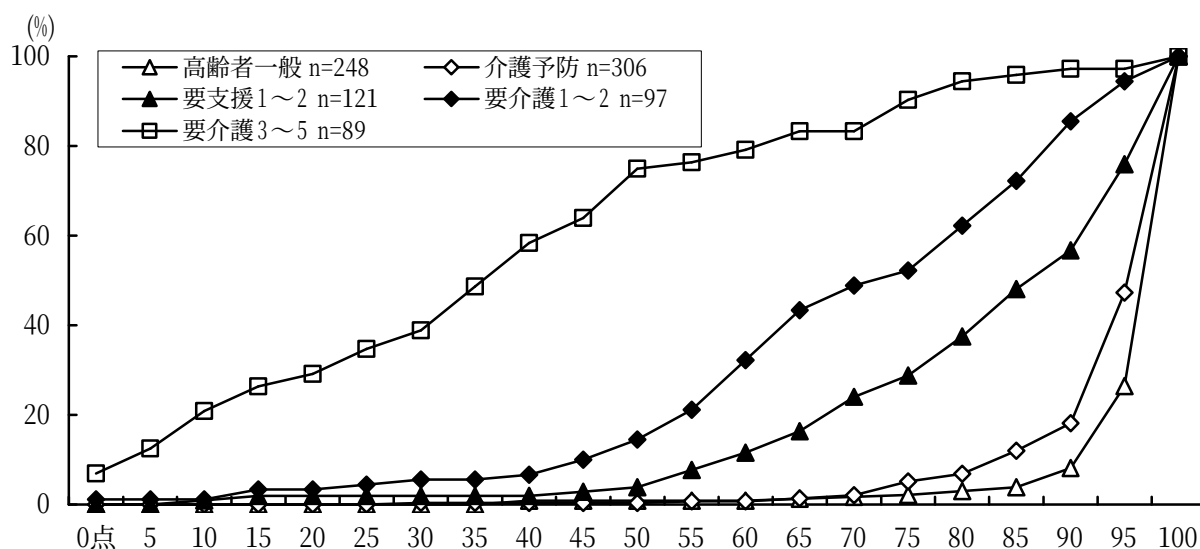
認定状況別にみると、要介護1～2の平均得点は70点前後、要支援1～2は70～90点前後であり、要介護1～2で機能低下が目立ちます。これに対して、介護予防と高齢者一般では、79歳以下では95点以上となっており、日常生活動作の平均得点に大きな差は見られませんが、80歳以上ではやや低下しています。

日常生活動作の合計得点について、認定状況別に累積相対度数をみると、要介護1～2では45点頃から高得点まで得点が分散しているため、なだらかな分布となっています。これに対して、介護予防、高齢者一般では95点以上で過半数を占めるため、逆L字型の分布となっています。なお、要支援1～2は、要介護1～2と介護予防、高齢者一般の中間に位置しています。

図表 3-35 日常生活動作 平均得点 (性・年齢階級別 (左図)、認定状況・年齢階級別 (右図))



図表 3-36 日常生活動作 得点累積相対度数分布



図表 3-37 日常生活動作 得点累積相対度数分布

	0点	5	15	10	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	100	(%)
高齢者一般 n=248	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	1.3	1.7	2.1	3.0	3.8	8.1	26.5	100.0	
介護予防 n=306	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.7	0.7	1.4	2.1	5.1	6.8	12.0	18.2	47.3	100.0	
要支援1～2 n=121	0.0	0.0	1.0	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	2.9	3.8	7.7	11.5	16.3	24.0	28.8	37.5	48.1	56.7	76.0	100.0	
要介護1～2 n=97	1.1	1.1	1.1	3.3	3.3	4.4	5.6	5.6	6.7	10.0	14.4	21.1	32.2	43.3	48.9	52.2	62.2	72.2	85.6	94.4	100.0	
要介護3～5 n=89	6.9	12.5	20.8	26.4	29.2	34.7	38.9	48.6	58.3	63.9	75.0	76.4	79.2	83.3	83.3	90.3	94.4	95.8	97.2	97.2	100.0	

次に、日常生活動作に関する各設問に対する回答を認定状況別にみると、自立の割合の差が大きいのは、入浴、歩行、階段昇降、着替え、排便、排尿などとなっています。一方、比較的差が小さいのは、食事、寝床・ベッドへの移動、洗面や歯磨き（整容）、トイレ動作となっています。

要支援1～2について、自立の割合をみると、歩行（66.4%）、階段昇降（48.7%）、排便（70.8%）、排尿（44.2%）などで低く、排尿は高齢者一般、介護予防でもその他の項目に比べると低くなっており、高齢者ではこうした動作から機能低下が始まっていることがうかがえます。

図表 3-38 日常生活動作 判定で使用した設問及び関連設問

		(%)				
	認定状況	高齢者一般	介護予防	要支援1～2	要介護1～2	要介護3～5
	回答者数(人)	248	306	121	97	89
判定	問16-6 食事は自分で食べられますか。（「できる」）	99.2	99.3	90.6	83.2	41.2
	問16-7 寝床に入るとき、何らかの介助を受けますか。（「受けない」）	99.6	97.7	87.1	77.9	21.4
	問16-8 座っていることができますか。（「できる」）	96.7	89.0	81.9	75.5	38.8
	問16-9 自分で洗面や歯磨きができますか。（「できる」）	98.8	99.3	92.2	80.0	18.3
	問16-10 自分でトイレができますか。（「できる」）	99.6	99.3	94.9	82.1	27.9
	問16-11 自分で入浴ができますか。（「できる」）	98.4	98.0	74.1	33.7	8.2
	問16-12 50m以上歩けますか。（「できる」）	96.7	90.0	66.4	37.2	18.6
	問16-13 階段を昇り降りできますか。（「できる」）	94.1	88.0	48.7	27.7	10.5
	問16-14 自分で着替えができますか。（「できる」）	98.8	99.0	86.3	64.6	17.4
	問16-15 大便の失敗がありますか。（「ない」）	93.4	93.0	70.8	53.2	25.6
	問16-16 尿もれや尿失禁がありますか。（「ない」）	76.9	60.0	44.2	30.9	21.5

※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

日常生活動作（ADL）の判定：「座っていること」を除く上の10項目について、バーセルインデックスの評価方法に従い、各設問で自立を5～15点とし10項目の合計が100点満点となるよう評価している。

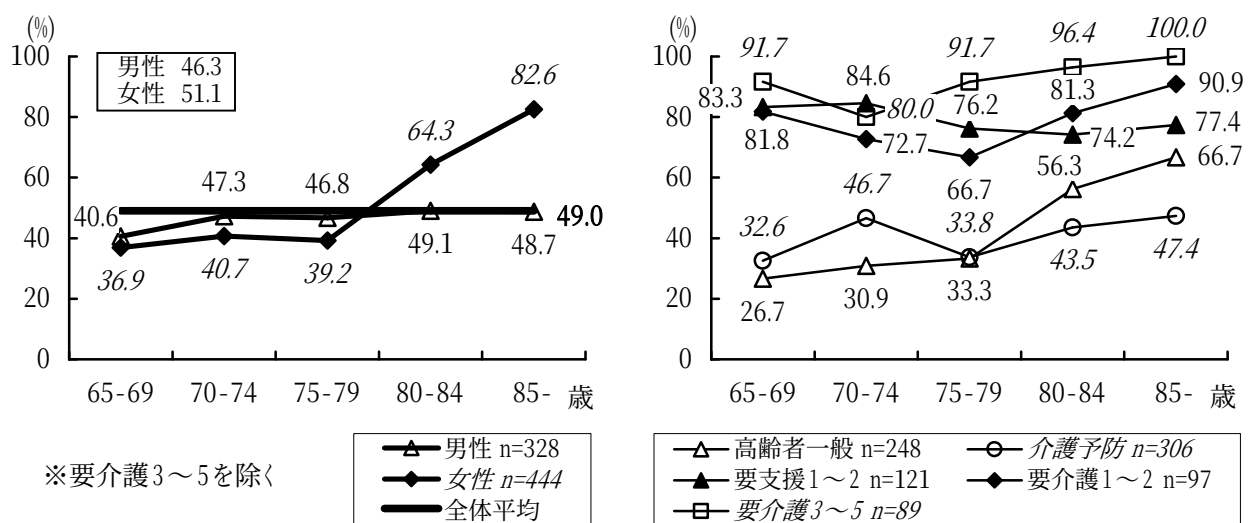
4 社会参加に関する分析結果

(1) 知的能動性

老研式活動能力指標には、高齢者の知的活動に関する設問が4問設けられ、「知的能動性」として尺度化されています。3点以下を低下者とした評価結果をみると、79歳以下では、女性より男性のほうが、低下者割合が高くなっています。一方、80歳以上では、男性より女性のほうが、低下者割合が高くなっています。また、男性は年齢が高くなっても、低下者割合はあまり高くなっていませんが、女性は80歳以上で低下者割合が急激に高まるとともに、年齢が上がるにつれて両者の差が開いています。

認定状況別にみると、最も低下者割合が最も高いのは、79歳以下では要支援1～2、80歳以上では要介護1～2で、低下者割合が高くなっています。高齢者一般、介護予防は80歳以上で、低下者割合が高くなっています。

図表 3-39 知的能動性 低下者割合（性・年齢階級別（左図）、認定状況・年齢階級別（右図））



図表 3-40 知的能動性 判定で使用した設問及び関連設問

		判定 (%)				
	認定状況	高齢者一般	介護予防	要支援1～2	要介護1～2	要介護3～5
	回答者数 (人)	248	306	121	97	89
判定	問17-1 年金などの書類が書けますか。 (「はい」)	87.4	79.9	48.7	31.5	8.2
	問17-2 新聞を読んでいますか。 (「はい」)	85.7	84.5	55.3	48.4	22.6
	問17-3 本や雑誌を読んでいますか。 (「はい」)	75.9	69.2	47.4	47.4	11.9
	問17-4 健康についての記事や番組に関心がありますか。 (「はい」)	91.3	91.3	72.2	56.8	30.5

※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

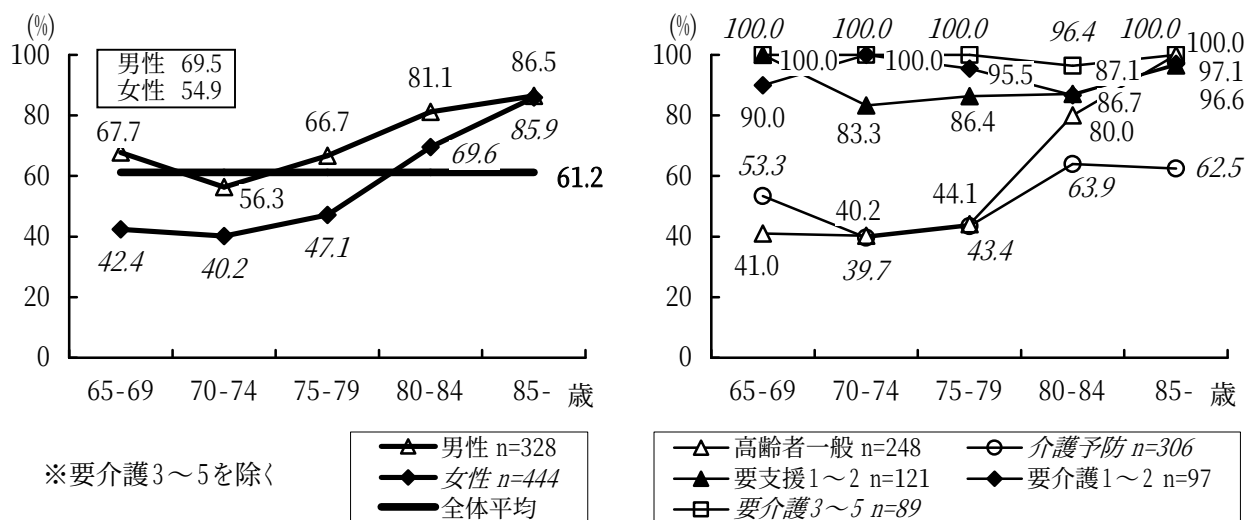
知的能動性の判定：上の老研式活動能力指標として設けられた高齢者の「知的能動性」の評価方法の4項目を各1点として4点満点で、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」として評価するが、本調査では、3点以下を低下者とする。

(2) 社会的役割

老研式活動能力指標には、高齢者の社会活動に関する設問が4問設けられ、「社会的役割」として尺度化されています。3点以下を低下者とした評価結果をみると、どの年齢でも女性よりも男性のほうが、低下者割合が高くなっています。85歳以上では、男性と女性で大きな差は見られません。また、おおむね年齢が上がるにつれて、低下者割合が高くなっています。

認定状況別にみると、最も低下者割合が最も高いのは、65～69歳を除き要介護1～2であり、次いで、おおむね要支援1～2、高齢者一般、介護予防の順となっています。高齢者一般、介護予防とも、80歳以上では低下者割合が高くなっています。

図表 3-41 社会的役割 低下者割合（性・年齢階級別（左図）、認定状況・年齢階級別（右図））



図表 3-42 社会的役割 判定で使用した設問及び関連設問

		判定 (%)				
	認定状況	高齢者一般	介護予防	要支援1～2	要介護1～2	要介護3～5
	回答者数 (人)	248	306	121	97	89
判定	問17-5 友人の家を訪ねていますか。 (「はい」)	61.3	55.3	27.2	9.5	2.4
	問17-6 家族や友人の相談に乗っていますか。 (「はい」)	79.5	73.7	38.9	21.1	12.9
	問17-8 病人を見舞うことができますか。 (「はい」)	93.9	86.2	45.5	28.7	11.9
	問17-9 若い人に自分から話しかけることがありますか。 (「はい」)	82.0	78.6	53.5	50.0	28.2
関連	問17-7 何かあったときに、家族や友人・知人などに相談をしていますか。 (「はい」)	94.1	86.2	81.9	75.0	47.1
	問17-12 ボランティア活動をしていますか。 (「はい」)	21.6	17.4	5.5	3.2	1.2
	問17-10 趣味はありますか。 (「はい」)	81.6	76.9	49.6	40.0	19.5
	問17-11 生きがいがありますか。 (「はい」)	85.0	77.6	59.3	43.6	25.6

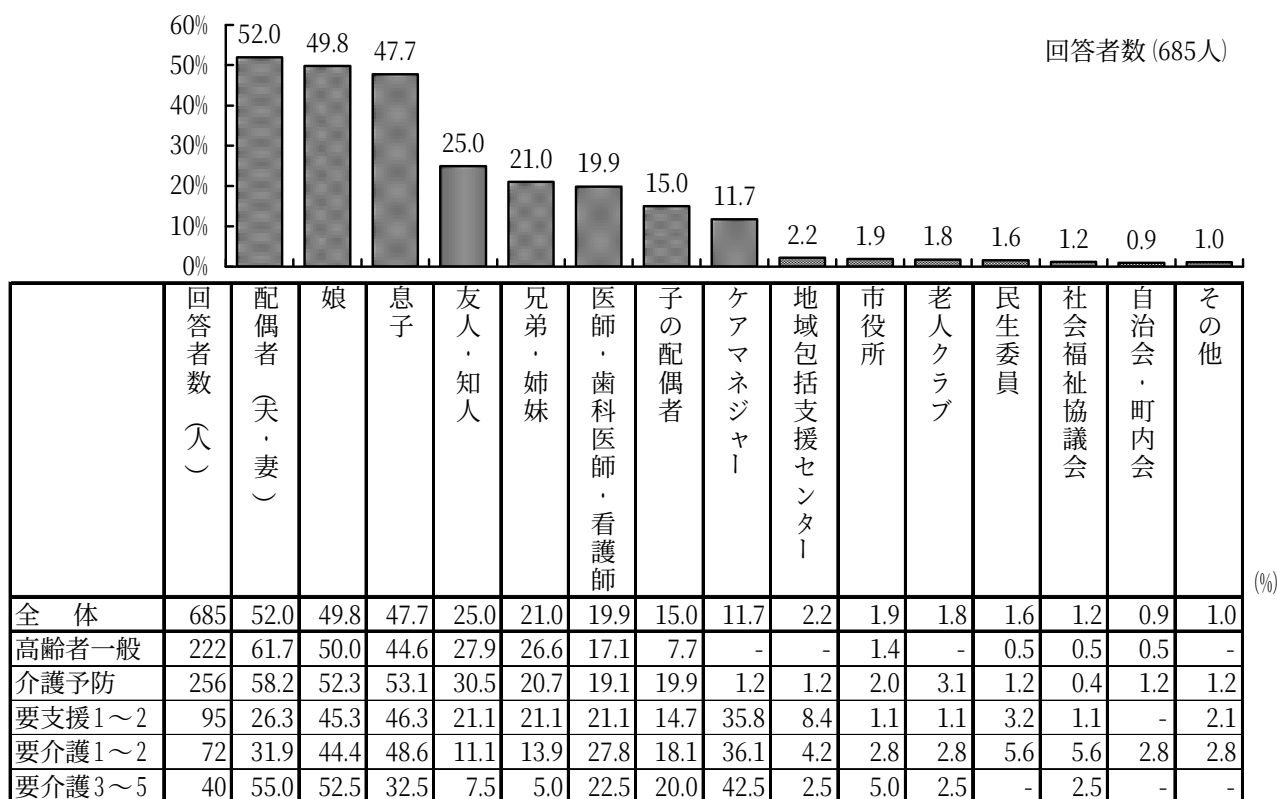
※回答者数には無回答を含めているが、割合は無回答を除いて算出。

社会的役割の判定：上の老研式活動能力指標として設けられた高齢者の「社会的役割」の評価方法の4項目を各1点として4点満点で、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」として評価するが、本調査では、3点以下を低下者とする。

相談していると回答した人に相談相手をたずねたところ、全体では、「配偶者（夫・妻）」が最も高く、次いで、「娘」、「息子」などの順となっています。

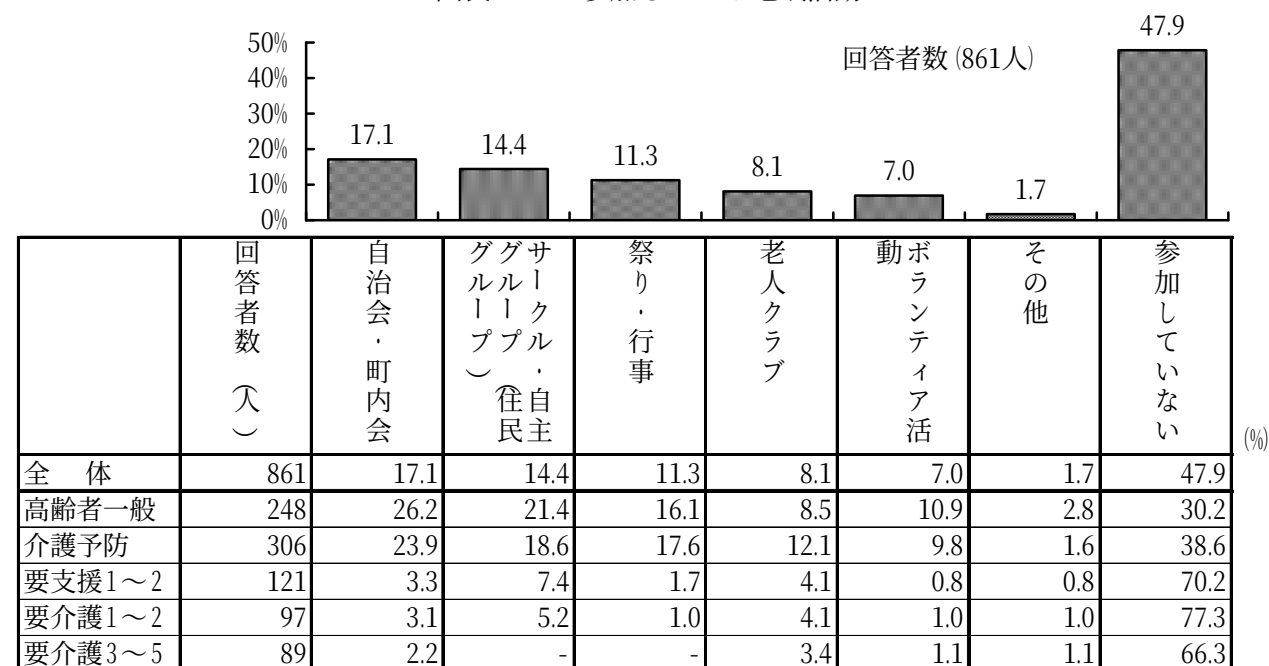
参加している地域活動は、全体では、「自治会・町内会」、「サークル・自主グループ（住民グループ）」などの順となっています。なお、高齢者一般、介護予防以外では、「参加していない」が、7割前後となっています。

図表 3-43 （相談している人）相談相手



※（ ）内は回答者数（人）、無回答は省略

図表 3-44 参加している地域活動



※（ ）内は回答者数（人）、無回答は省略

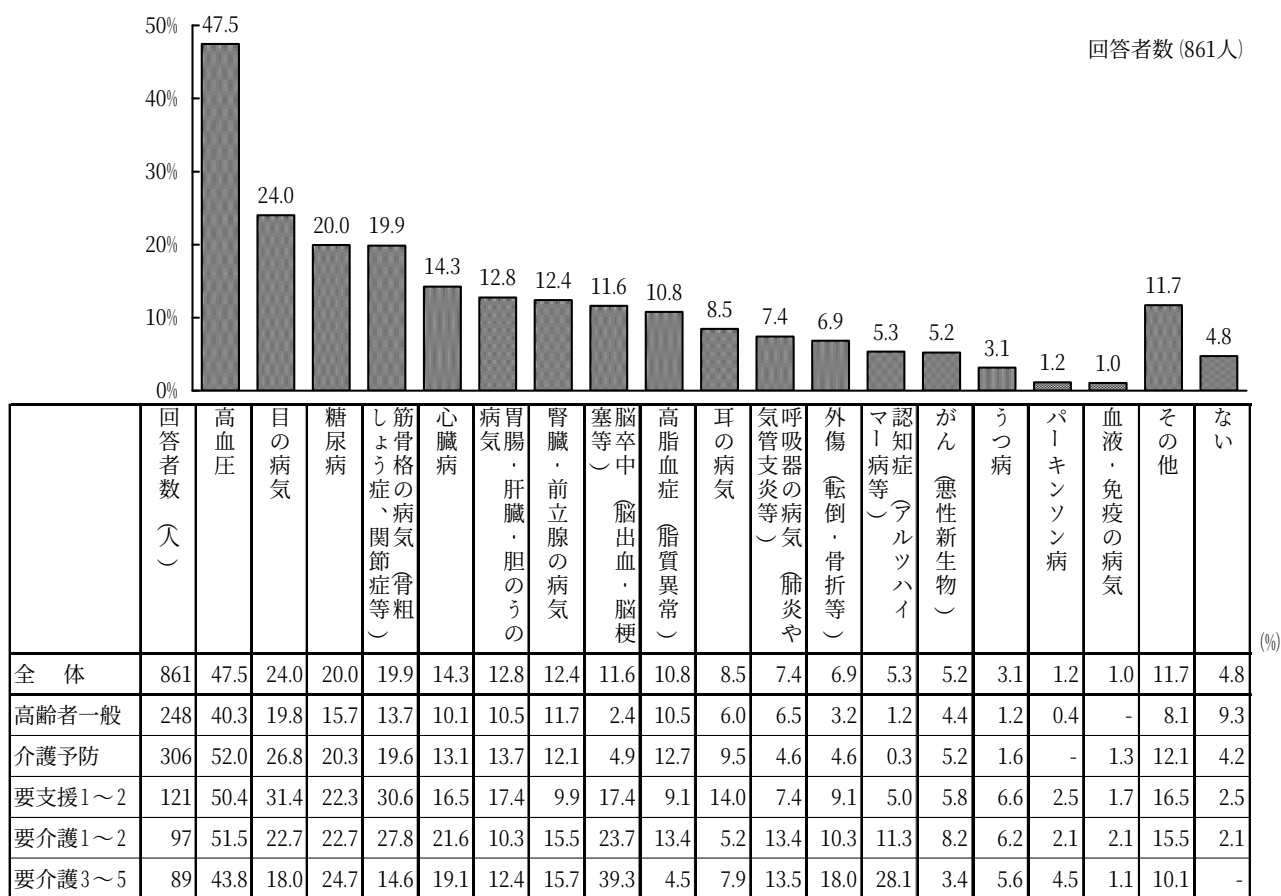
5 疾病に関する分析結果

(1) 有病率

現在治療中、または後遺症のある病気についてたずねたところ、全体でみると、「高血圧」が47.5%と最も高くなっています。次いで、「目の病気」が24.0%、「糖尿病」が20.0%、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」が19.9%などの順となっています。

現在治療中、または後遺症のある病気をみると、要介護の原因となる脳卒中、心臓病、筋骨格系の病気、外傷、認知症では要支援1～2、要介護1～2が高くなっています。なお、高血圧、糖尿病に関しては、介護予防対象者でも高く、高齢者一般でもかなりの割合で見られます。

図表 3-45 現在治療中、または後遺症のある病気（認定状況別）

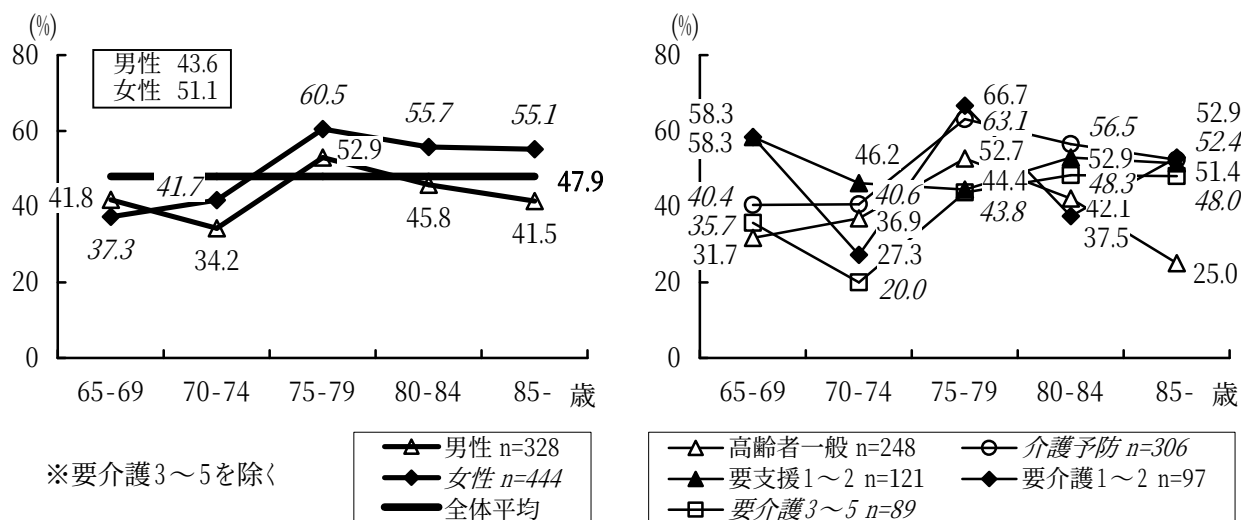


※()内は回答者数(人)、表頭の無回答は省略。

(2) 有病率（高血圧）

「高血圧」の有病率は、全体が47.9%、男性が43.6%、女性が51.1%となっています。70歳以上では男性よりも女性のほうが高くなっています。また、男性、女性とも、75～79歳が最も高くなっています。

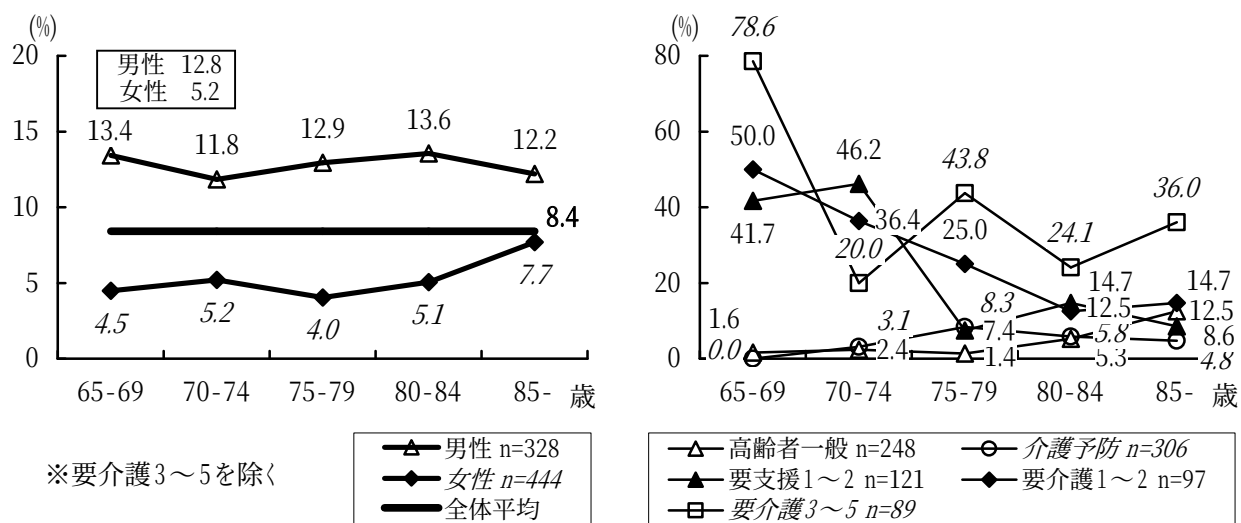
図表 3-46 有病率 高血圧
(性・年齢階級別（左図）、認定状況・年齢階級別（右図）)



(3) 有病率（脳卒中（脳出血・脳梗塞等））

「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」の有病率は、全体が8.4%、男性が12.8%、女性が5.2%となっています。どの年齢でも女性よりも男性のほうが大幅に高くなっています。

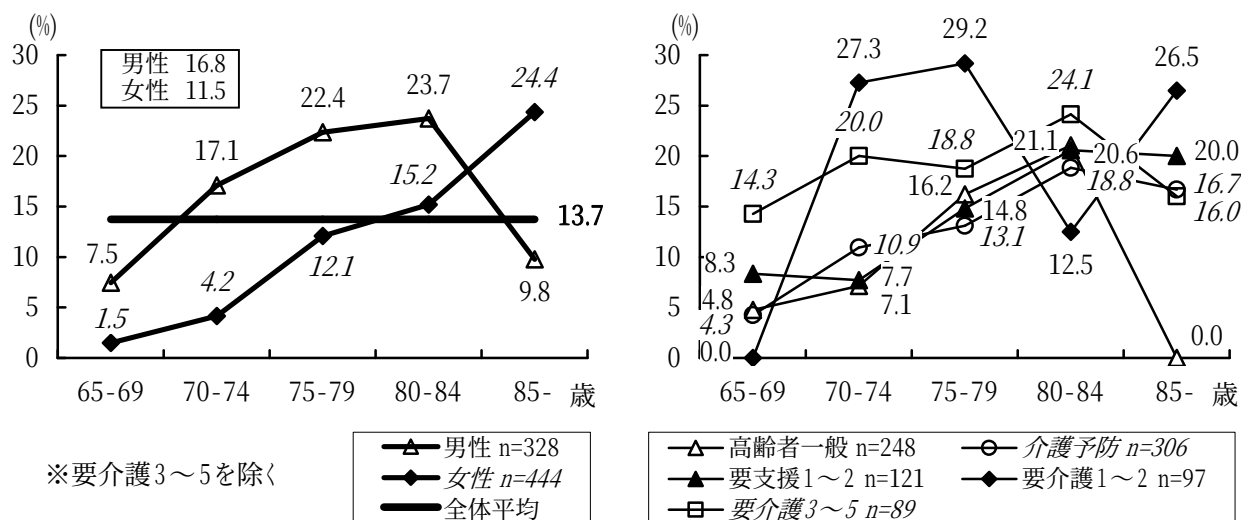
図表 3-47 有病率 脳卒中（脳出血・脳梗塞等）
(性・年齢階級別（左図）、認定状況・年齢階級別（右図）)



(4) 有病率（心臓病）

「心臓病」の有病率は、全体が13.7%、男性が16.8%、女性が11.5%となっています。84歳以下では女性よりも男性のほうが大幅に高くなっています。また、おおむね年齢が上がるにつれて高くなっています。

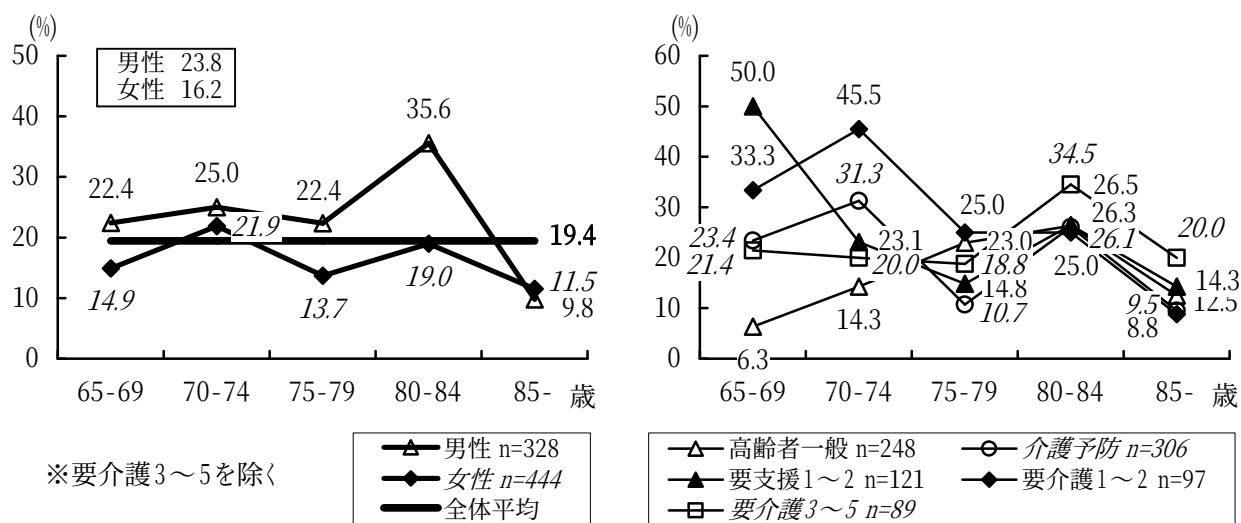
図表 3-48 有病率 心臓病
(性・年齢階級別 (左図)、認定状況・年齢階級別 (右図))



(5) 有病率（糖尿病）

「糖尿病」の有病率は、全体が19.4%、男性が23.8%、女性が16.2%となっています。84歳以下では女性よりも男性のほうが高くなっています。

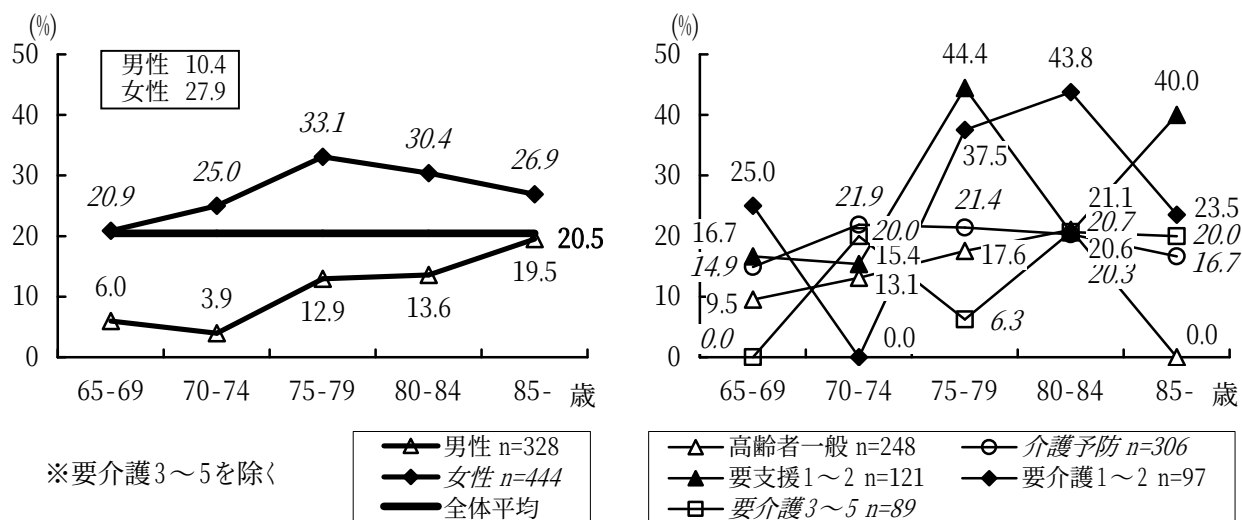
図表 3-49 有病率 糖尿病
(性・年齢階級別 (左図)、認定状況・年齢階級別 (右図))



(6) 有病率（筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等））

「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」の有病率は、全体が20.5%、男性が10.4%、女性が27.9%となっています。どの年齢でも、男性よりも女性のほうが大幅に高くなっています。

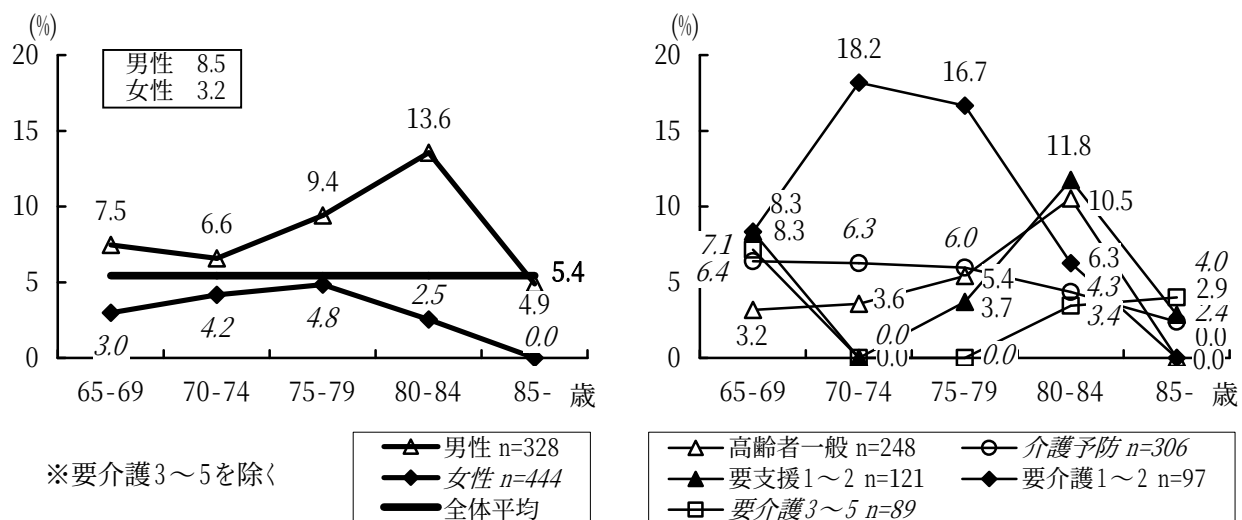
図表 3-50 有病率 筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）
（性・年齢階級別（左図）、認定状況・年齢階級別（右図））



(7) 有病率（がん（悪性新生物））

「がん（悪性新生物）」の有病率は、全体が5.4%、男性が8.5%、女性が3.2%となっています。どの年齢でも、女性より男性のほうが高くなっています。

図表 3-51 有病率 がん（悪性新生物）
（性・年齢階級別（左図）、認定状況・年齢階級別（右図））

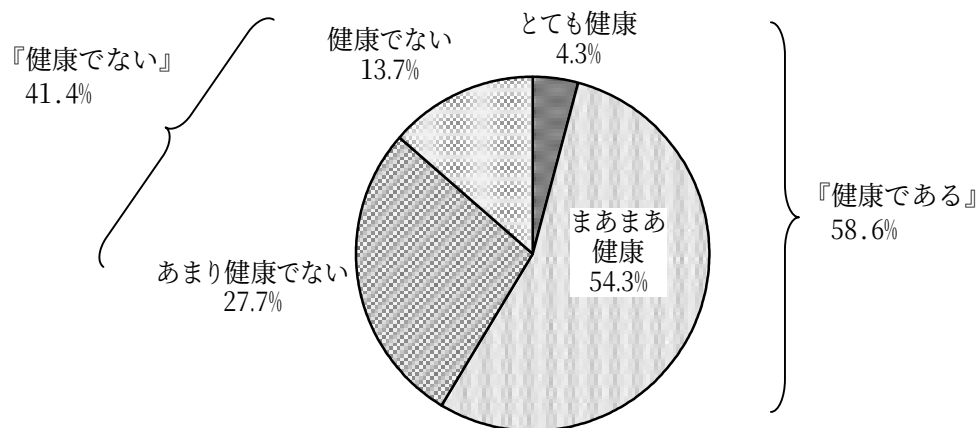


6 主観的健康感に関する分析結果

主観的健康感についてたずねたところ、全体でみると、「とても健康」が4.3%、「まあまあ健康」が54.3%であり、『健康である』は合わせて58.6%となっています。一方、「あまり健康でない」が27.7%、「健康でない」が13.7%であり、『健康でない』は合わせて41.4%となっています。

性別にみると、おおむね、男性より女性の方が、『健康である』が高くなっています。年齢別にみると、74歳以下で『健康である』が高くなっています。

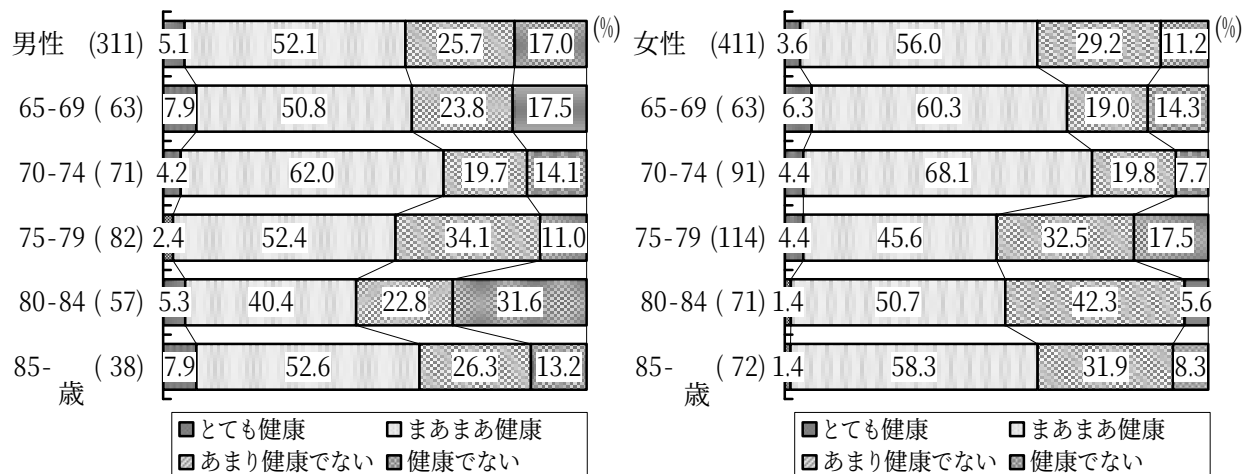
図表 3-52 主観的健康感



※要介護3～5を除く
無回答を除外して集計

回答者数 (722人)

図表 3-53 主観的健康感 (性・年齢階級別)



※ () 内は回答者数、要介護3～5を除く、無回答を除外して集計

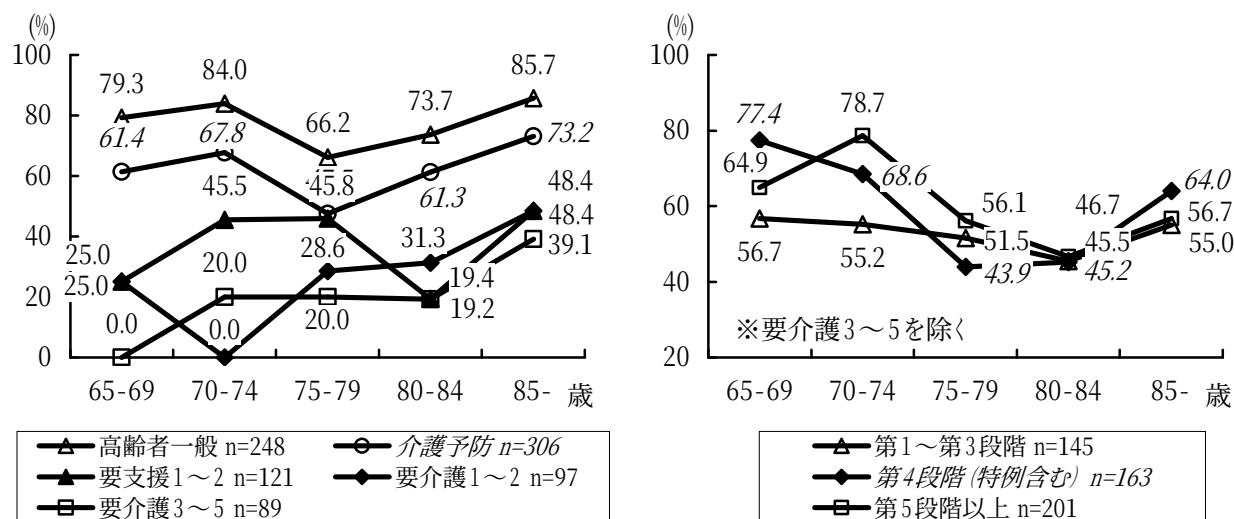
認定状況別にみると、おおむね高齢者一般が最も高く、次いで、介護予防、要支援1～2、要介護1～2の順となっています。

介護保険料段階別にみると、74歳以下では第1～第3段階で低くなっています。

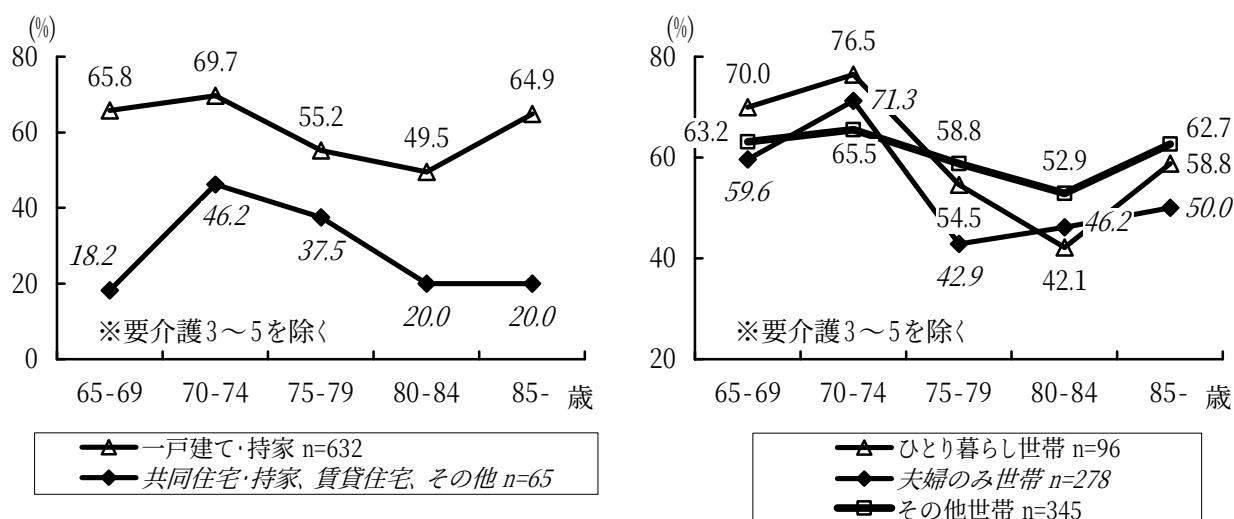
住宅の種類と所有関係別にみると、共同住宅・持家、賃貸住宅、その他より、一戸建て・持家のほうが大幅に高くなっています。

世帯構成別にみると、74歳以下ではひとり暮らし、75歳以上ではその他世帯が、それぞれやや高くなっています。

図表 3-54 主観的健康感
(認定状況・年齢階級別(左図)、介護保険料段階・年齢階級別(右図))



図表 3-55 主観的健康感
(住宅の種類と所有関係・年齢階級別(左図)、世帯構成・年齢階級別(右図))



7 介護に関する分析結果

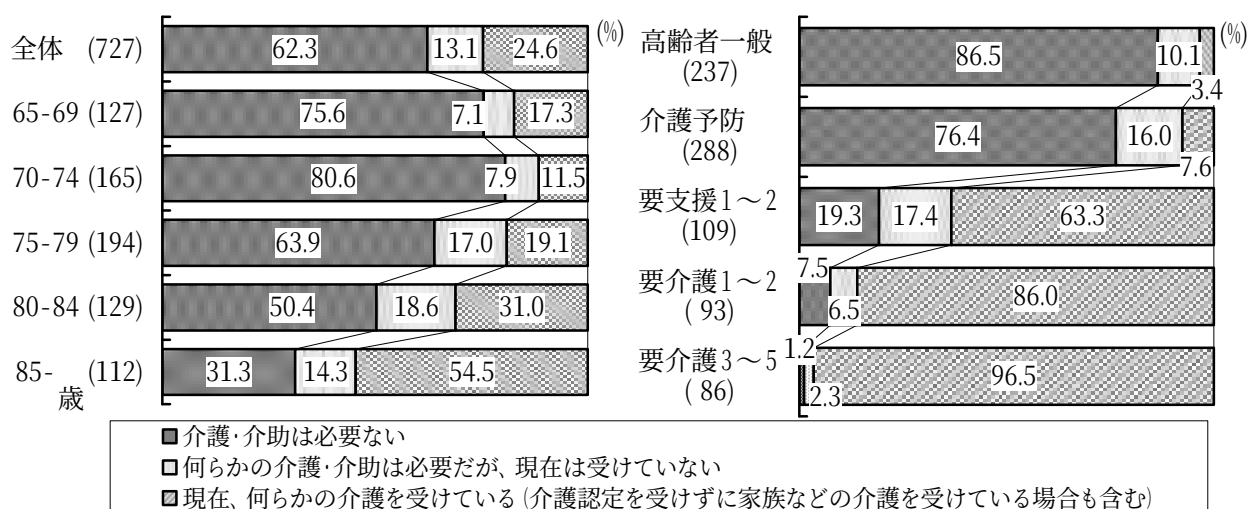
介護の必要性についてたずねたところ、全体でみると、「介護・介助は必要ない」が62.3%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が13.1%、「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」が24.6%となっています。

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて、介護の必要性が高くなっています。

認定状況別にみると、介護の必要性は、要介護1～2が最も高く、次いで、要支援1～2、介護予防、高齢者一般の順となっています。要介護認定を受けていない介護予防、高齢者一般についても、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」、「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」と回答している人が一定の割合でいることがうかがえます。

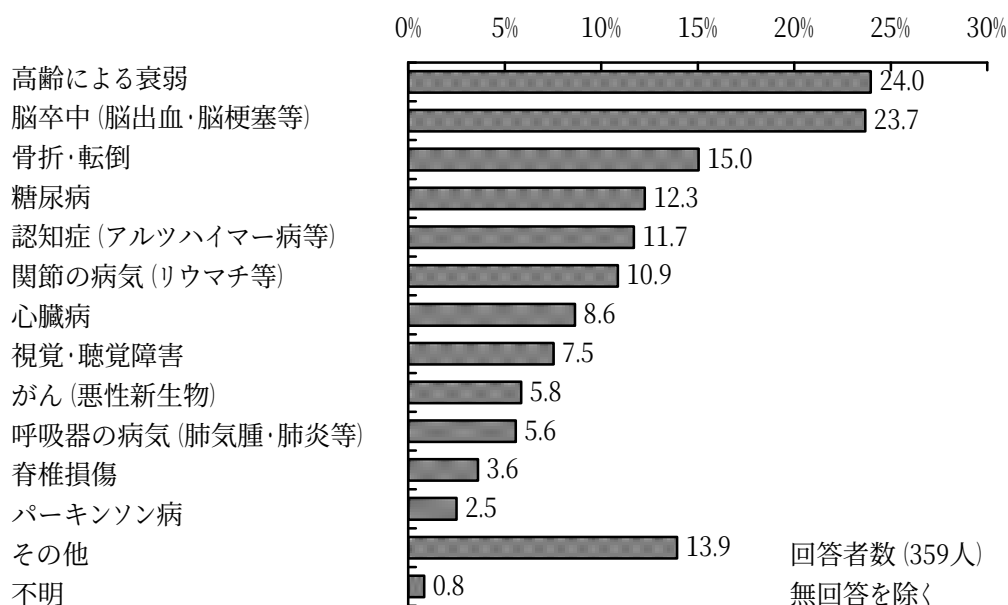
次に、介護が必要と回答した人に、介護・介助が必要になった主な原因についてたずねたところ、「高齢による衰弱」が24.0%と最も高くなっています。次いで、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」が23.7%、「骨折・転倒」が15.0%などの順となっています。

図表 3-56 介護の必要性（年齢階級別（左図）、認定状況別（右図））



※（ ）内は回答者数、年齢別は要介護3～5を除く、無回答を除外して集計

図表 3-57 （介護が必要な人）介護・介助が必要になった主な原因



(参考) 使用
した調査票

木更津市高齢者日常生活ニーズ調査

まだまだ寒い日が続いていますが、皆様にはお変わりなくお過ごしでしょうか。また、日頃より市政全般にわたり、ご理解、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、木更津市では、高齢者保健福祉施策の方向性を示す「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」に基づいて施策を進めていますが、この計画を平成23年度に改定する予定です。そこで、市民の皆様の保健福祉に関わる生活状況やご意向を踏まえて計画づくりを進めるために、アンケート調査を行うことになりました。

この調査の対象は、65歳以上または要介護認定を受けている方です。平成23年1月現在の住民基本台帳や要介護認定等の情報に基づいて約1,500人を無作為に抽出した結果、今回あなたにお願いしています。お忙しいところ質問数が多く誠に恐縮ですが、この調査が高齢者等の自立支援及び介護保険事業を行っていくための政策立案の重要な基礎資料となりますので、調査の趣旨をご理解いただきご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、ご回答はすべて無記名です。また、調査結果は統計として集計し、計画の策定にのみ使用いたします。個人名が公表されたり、誰がどのような回答をしたかが明らかになったりするなど、ご協力いただいたことによりご迷惑をおかけすることは決してございません。

平成23年1月

木更津市長 水越勇雄

<ご記入にあたってのお願い>

1. この調査票では、あて名のご本人を「あなた」とします。できるだけご本人がお答えください。ただし、ご本人が答えられないときは、ご家族の方などがご本人の意見を聞いて、またはご本人の立場に立ってお答えください。なお、「7. 主な介護者について」のそれぞれの質問は、ご本人ではなく、主な介護者がお答えください。
2. 次ページから順にご記入ください。途中回答により、次に答える問を案内していますので、それに沿ってください。
3. ご記入に際して：
 - (1) 回答は、あてはまる項目を選び、その番号を○で囲むものと、文字または数字などを記入するものがあります。
 - (2) 質問により回答が「ひとつだけ」「3つまで」「あてはまるものすべて」など、○の数は質問ごとに指定されています。
 - (3) ご記入は、黒または青のボールペンかサインペンをお使いください。
4. ご記入いただきました調査票は、1月31日(月曜日)までに、同封の返信用封筒に入れて投函してください。切手を貼る必要はありません。個人情報保護の観点から、調査票や封筒にあなたのお名前やご住所等をお書きにならないでください。
5. ご記入方法などについて、わからないことがございましたら、下記までお問い合わせください。

木更津市福祉部高齢者福祉課

電 話：0438-23-7111（内線）288

☆この調査票では、あて名のご本人のことを「あなた」とします。

問1 はじめに、この調査票を回答される方はどなたですか。(ひとつだけ○)

1 あなたがひとりで回答	3 ご家族が回答
2 代筆・代読してもらってあなたが回答	4 その他の方が回答 ()

【1. あなたご自身のことについて】

問2 あなたの性別と、現在の満年齢をお答えください。

(1) 性別	1 男性 2 女性	(2) 年齢	満 歳
--------	--------------	--------	-----

問3 あなたのお住まいの地域はどちらになりますか。(ひとつだけ○)

1 木更津	4 岩根	7 中郷
2 波岡	5 鎌足	8 富来田
3 清川	6 金田	9 市外

問4 あなたの現在の世帯構成を、以下の中からお答えください。(ひとつだけ○)

1 ひとり暮らし	4 子どもと孫と同居	7 その他
2 夫婦ふたり暮らし	5 親と同居	()
3 子どもと同居	6 親と子どもと同居	

問5 あなたのお近くに、ご親族がお住まいですか。(ひとつだけ○)

1 徒歩で5分以内	3 車で15分以内	5 特にない
2 徒歩で30分以内	4 車で30分以内	

問6 ご親族の方と気軽にお会いする頻度はどのくらいですか。(ひとつだけ○)

1 毎日	3 週1回	5 その他
2 週2～3日	4 月1回	()

問7 あなたと配偶者（ひとり暮らしの方は、あなたのみ）の税込みの年収（年金を含む）の合計は、次のうちどれですか。(ひとつだけ○)

1 100万円未満	3 300万円～500万円未満	5 700万円～1,000万円未満
2 100万円～300万円未満	4 500万円～700万円未満	6 1,000万円以上

問8 あなたと配偶者（ひとり暮らしの方は、あなたのみ）の収入は、次のうちどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

1 国民年金	3 給与・事業収入	5 家族からの援助
2 厚生年金・共済年金	4 生活保護受給	6 その他 ()

【2. 住環境について】

問9 あなたのお住まいについて伺います。(それぞれひとつだけ○)

(1) 一戸建て、または共同住宅のどちらですか。

1 一戸建て	2 共同住宅
--------	--------

(2) お住まいは、次のうちどれですか。

1 持家	4 借間
2 公営・UR都市機構・公社の借家	5 その他 ()
3 民間賃貸住宅	

(3) 何階で生活していますか。2～5階で生活している場合、エレベーターはありますか。

1 6階以上	エレベーターの有無 1 ある 2 ない
2 3～5階	
3 2階	
4 1階	

【3. 健康状態について】

問10 あなたには、かかりつけの医師※がいますか。(あてはまるものすべてに○)

1 内科医	3 歯科医	5 かかりつけの医師はいない
2 整形外科医	4 その他の診療科の医師	

※日頃から自分または家族の健康状態をよく知っていて、日常的な健康管理をまかせられる医師

問11 健康状態について伺います。

(1) 普段、ご自分で健康だと思いますか。(ひとつだけ○)												
1	とても健康	2	まあまあ健康	3	あまり健康でない	4	健康でない					
(2) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(あてはまるものすべてに○)												
1	高血圧	11	がん(悪性新生物)									
2	脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	12	血液・免疫の病気									
3	心臓病	13	うつ病									
4	糖尿病	14	認知症(アルツハイマー病等)									
5	高脂血症(脂質異常)	15	パーキンソン病									
6	呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等)	16	目の病気									
7	胃腸・肝臓・胆のうの病気	17	耳の病気									
8	腎臓・前立腺の病気	18	その他()									
9	筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)	19	ない									
10	外傷(転倒・骨折等)											
(3) 現在、医師の処方した薬を何種類飲んでいきますか。(ひとつだけ○)												
1	1種類	2	2種類	3	3種類	4	4種類	5	5種類以上	6	飲んでいない	
(4) 現在、病院・医院(診療所、クリニック)に通院して いますか。								1		はい	2	いいえ
(4-1) (通院している方のみ) その頻度は次のどれですか。												
1	週1回以上	3	月1回程度	5	3ヶ月に1回程度							
2	月2～3回	4	2ヶ月に1回程度									
(4-2) (通院している方のみ) 通院に介助が必要ですか。								1		はい	2	いいえ

(5) お酒は飲みますか。		
1 ほぼ毎日飲む	3 ほとんど飲まない	
2 時々飲む	4 もともと飲まない	
(6) タバコは吸っていますか		
1 ほぼ毎日吸っている	3 吸っていたがやめた	
2 時々吸っている	4 もともと吸っていない	
(7) (ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない。	1 はい	2 いいえ
(8) (ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった。	1 はい	2 いいえ
(9) (ここ2週間) 以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる。	1 はい	2 いいえ
(10) (ここ2週間) 自分が役に立つ人間だと思えない。	1 はい	2 いいえ
(11) (ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする。	1 はい	2 いいえ
(12) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。(ひとつだけ○)		
1 介護・介助は必要ない		
2 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない		
3 現在、何らかの介護を受けている (介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)		
(12-1) (介護・介助が必要な方のみ) 介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。 (あてはまるものすべてに○)		
1 脳卒中 (脳出血・脳梗塞等)	8 糖尿病	
2 心臓病	9 視覚・聴覚障害	
3 がん (悪性新生物)	10 骨折・転倒	
4 呼吸器の病気 (肺気腫・肺炎等)	11 脊椎損傷	
5 関節の病気 (リウマチ等)	12 高齢による衰弱	
6 認知症 (アルツハイマー病等)	13 その他 ()	
7 パーキンソン病	14 不明	

問 12 運動や閉じこもりの状況について伺います。

(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	1 はい	2 いいえ
(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	1 はい	2 いいえ
(3) 15分位続けて歩いていますか。	1 はい	2 いいえ
(4) 5m以上歩けますか。	1 はい	2 いいえ
(5) 週に1回以上は外出していますか。	1 はい	2 いいえ
(6) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。	1 はい	2 いいえ
(7) 外出を控えていますか。	1 はい	2 いいえ
(7-1) (外出を控えている方のみ) 外出を控えている理由は、次のどれですか。 (あてはまるものすべてに○)		
1 病気	6 目の障害	
2 障害 (脳卒中の後遺症など)	7 外での楽しみがない	
3 足腰などの痛み	8 経済的に出られない	
4 トイレの心配 (失禁など)	9 その他 ()	
5 耳の障害 (聞こえの問題など)		

(8) 買物、散歩で外出する頻度はどのくらいですか。(それぞれひとつだけ○)					
①買物	1	ほぼ毎日	2	週4～5日	3 週2～3日 4 週1日 5 週1日未満
②散歩	1	ほぼ毎日	2	週4～5日	3 週2～3日 4 週1日 5 週1日未満

問 13 転倒予防について伺います。(それぞれひとつだけ○)

(1) この1年間に転んだことがありますか。	1	はい	2	いいえ
(2) 転倒に対する不安は大きいですか。	1	はい	2	いいえ
(3) 背中が丸くなってきましたか。	1	はい	2	いいえ
(4) 以前に比べて歩く速度が遅くなってきましたか。	1	はい	2	いいえ
(5) 杖を使っていますか。	1	はい	2	いいえ

問 14 口腔・栄養の状況について伺います。

(1) 6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。	1	はい	2	いいえ
(2) 身長と体重を整数でお書きください。				
身長				cm
体重				kg
(3) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	1	はい	2	いいえ
(4) お茶や汁物等でむせることがありますか。	1	はい	2	いいえ
(5) 口の渇きが気になりますか。	1	はい	2	いいえ
(6) 歯磨き(人にやってもらう場合も含む)を毎日していますか。	1	はい	2	いいえ
(7) 定期的に歯科受診(健診を含む)を受けていますか。	1	はい	2	いいえ
(8) 入れ歯を使用していますか。	1	はい	2	いいえ
(8-1) (入れ歯のある方のみ) 噛み合わせは良いですか。	1	はい	2	いいえ
(8-2) (入れ歯のある方のみ) 毎日入れ歯の正しい手入れをしていますか。	1	はい	2	いいえ

問 15 物忘れの状況について伺います。

(1) 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか。	1	はい	2	いいえ
(2) 自分で電話番号調べて、電話をかけることをしていますか。	1	はい	2	いいえ
(3) 今日が何月何日かわからない時がありますか。	1	はい	2	いいえ
(4) 5分前のことが思い出せますか。	1	はい	2	いいえ
(5) その日の活動（食事をする、衣服を選ぶなど）を自分で判断できますか。（ひとつだけ○）				
1 困難なくできる	3	判断するときに、他人からの合図や見守りが必要		
2 いくらか困難であるが、できる	4	ほとんど判断できない		
(6) 人に自分の考えをうまく伝えられますか。（ひとつだけ○）				
1 伝えられる	3	あまり伝えられない		
2 いくらか困難であるが、伝えられる	4	ほとんど伝えられない		

問 16 日常生活の状況について伺います。(それぞれひとつだけ○)

(1) バスや電車で一人で外出していますか。(自家用車でも可)		
1 できるし、している	2 できるけどしていない	3 できない
(2) 日用品の買物をしていますか。		
1 できるし、している	2 できるけどしていない	3 できない
(3) 自分で食事の用意をしていますか。		
1 できるし、している	2 できるけどしていない	3 できない
(4) 請求書の支払いをしていますか。		
1 できるし、している	2 できるけどしていない	3 できない
(5) 預貯金の出し入れをしていますか。		
1 できるし、している	2 できるけどしていない	3 できない
(6) 食事は自分で食べられますか。		
1 できる	2 一部介助（おかずを切ってもらうなど）があればできる	3 できない
(7) 寝床に入るとき、何らかの介助を受けますか。		
1 受けない	2 一部介助があればできる	3 全面的な介助が必要
(8) 座っていることができますか。		
1 できる	2 支えが必要	3 できない
(9) 自分で洗面や歯磨きができますか。		
1 できる	2 一部介助があればできる	3 できない
(10)自分でトイレができますか。		
1 できる	2 一部介助（他人に支えてもらう）があればできる	3 できない
(11)自分で入浴ができますか。		
1 できる	2 一部介助（他人に支えてもらう）があればできる	3 できない
(12)50m以上歩けますか。		
1 できる	2 一部介助（他人に支えてもらう）があればできる	3 できない
(13)階段を昇り降りできますか。		
1 できる	2 介助があればできる	3 できない
(14)自分で着替えができますか。		
1 できる	2 介助があればできる	3 できない
(15)大便の失敗がありますか。		
1 ない	2 ときどきある	3 よくある
(16)尿もれや尿失禁がありますか。		
1 ない	2 ときどきある	3 よくある
(17)家事全般ができていますか。		
1 できている	2 できていない	

問 17 社会参加の状況について伺います。

(1) 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか。	1 はい	2 いいえ
(2) 新聞を読んでいますか。	1 はい	2 いいえ
(3) 本や雑誌を読んでいますか。	1 はい	2 いいえ
(4) 健康についての記事や番組に関心がありますか。	1 はい	2 いいえ
(5) 友人の家を訪ねていますか。	1 はい	2 いいえ
(6) 家族や友人の相談に乗っていますか。	1 はい	2 いいえ
(7) 何かあったときに、家族や友人・知人などに相談をしていますか。	1 はい	2 いいえ
(7-1) (相談している方のみ) 相談相手を教えてください。(あてはまるものすべてに○)		
1 配偶者（夫・妻）	6 友人・知人	11 社会福祉協議会
2 息子	7 医師・歯科医師・看護師	12 地域包括支援センター
3 娘	8 民生委員	13 ケアマネジャー
4 子の配偶者	9 自治会・町内会	14 市役所
5 兄弟・姉妹	10 老人クラブ	15 その他（ ）
(8) 病人を見舞うことができますか。	1 はい	2 いいえ
(9) 若い人に自分から話しかけることがありますか。	1 はい	2 いいえ
(10) 趣味はありますか。	1 はい	2 いいえ
(11) 生きがいがありますか。	1 はい	2 いいえ
(12) ボランティア活動をしていますか。	1 はい	2 いいえ
(13) 地域活動に参加していますか。(あてはまるものすべてに○)		
1 祭り・行事	5 ボランティア活動	
2 自治会・町内会	6 その他（ ）	
3 サークル・自主グループ（住民グループ）	7 参加していない	
4 老人クラブ		

問 18 あなたが普段利用する主な交通手段は、次のうちどれですか。

①食料品や日用品の買物、②医療機関の受診のそれぞれでお答えください。

(①②ともそれぞれあてはまるものすべてに○)

	①食料品や日用品の買物	②医療機関の受診
例	①	②
(1) 徒歩	1	2
(2) 自転車	1	2
(3) バイク	1	2
(4) 自動車（自分で運転）	1	2
(5) 自動車（人に乗せてもらう）	1	2
(6) 電車	1	2
(7) 路線バス	1	2
(8) 病院や施設のバス	1	2
(9) 電動カート・車いす	1	2
(10) タクシー	1	2
(11) その他（ ）	1	2

☆全員に伺います。

【4. 今後の暮らしや住まいについて】

問 19 あなたの介護保険料所得段階は、次のどの段階ですか。（ひとつだけ○）

1 第1段階	(年額 23,600 円)	6 第5段階	(年額 54,700 円)
2 第2段階	(年額 23,600 円)	7 第6段階	(年額 59,000 円)
3 第3段階	(年額 35,400 円)	8 第7段階	(年額 70,800 円)
4 第4段階－1	(年額 42,900 円)	9 第8段階	(年額 82,600 円)
5 第4段階－2	(年額 47,200 円)		

※保険料の年額は、平成 22 年 7 月にお送りした平成 22 年度介護保険料納入通知書をご覧ください。

問 20 介護保険の保険料について、家計への影響は次のうちのどれに近いですか。
(ひとつだけ○)

1 大きい	4 やや小さい
2 やや大きい	5 小さい
3 適当である	6 わからない

問 21 介護保険制度で提供する介護サービスや介護予防のためのサービスの範囲について、あなたの考えにもっとも近いものは、次のうちどれですか。（ひとつだけ○）

1 サービスは最低限でよいから、保険料はなるべく安いほうがよい	
2 保険料もサービス内容も今の水準程度がよい	
3 保険料が多少高くても、施設・居住系サービスが充実している方がよい	
4 保険料が多少高くても、在宅サービスが充実している方がよい	
5 その他（	）
6 わからない	

問 22 日常生活での不安、悩み、心配ごとがありますか。それはどのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○)

1 健康に不安がある	
2 身体が不自由であり介護が必要である	
3 認知症にならないか心配である	
4 一人きりで頼れる人がいない	
5 生活のための収入が足りない	
6 家事が大変である	
7 外出時の転倒や事故に不安がある	
8 地震や火災が起きたときの避難が心配である	
9 家業や財産の相続、お墓の管理のことに不安がある	
10 子どもや孫のこと	
11 判断能力が衰えたときの契約や財産の管理が心配である	
12 社会の仕組み（法律、社会保障、金融制度）がわからない	
13 その他（	）
14 特にない	

問 23 あなたは、今後どこで介護を受けたいと思いますか。

(もっとも近い考えひとつだけ○)

- 1 自宅や親族の家など、在宅で暮らしたい
- 2 主に介護サービスを利用して、高齢者向け住宅に住み替えて暮らしたい
- 3 数人で暮らせる、家庭的な介護つきホーム（施設）で暮らしたい
- 4 介護保険施設（特別養護老人ホームや老人保健施設など）に入りたい
- 5 有料老人ホームに入りたい
- 6 病院に入院したい
- 7 その他（ ）
- 8 わからない

問 23-1 問 23 で「1」と回答した方へ、今後どなたから介護を受けたいと思いますか。
(もっとも近い考えひとつだけ○)

- 1 家族または親族だけで介護をしてほしい
- 2 介護サービスを利用しながら、家族または親族が介護をしてほしい
- 3 介護保険サービスを利用し、家族・親族以外の人に介護をしてほしい

問 23-2 問 23 で「2～7」と回答した方へ、その場所を選んだのは、どのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 在宅で介護してくれる親族等がないから
- 2 親族等に世話になることに気が引けるから
- 3 介護を受ける環境が整っているから
- 4 自分の希望する介護を受けることができると思うから
- 5 経済的な事情から
- 6 現在住んでいる自宅の近くだから
- 7 治療が必要だから
- 8 その他（ ）

☆全員に伺います。

問 24 あなたは、人生の最期を迎える場所は、どこを希望していますか。(ひとつだけ○)

- 1 病院
- 2 自宅
- 3 施設
- 4 その他（ ）
- 5 わからない

問 25 あなたは、在宅で暮らし続けるために必要なことは、どのようなことであると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----|-------------------------------------|
| 1 | 住み続けられる住まいがある |
| 2 | 家族が同居している、または近くにいる |
| 3 | 見守ってくれる友人・知人が近くにいる |
| 4 | 日中に訪問介護や通所サービスなど、普段から利用できる介護サービスがある |
| 5 | 夜間にも訪問介護や訪問看護など、訪問してくれる介護サービスがある |
| 6 | 必要に応じて、通ったり、宿泊することができるよう介護サービスがある |
| 7 | 入浴のみ、食事のみ、リハビリのみなど、短時間の通所サービスが受けられる |
| 8 | 介護者の心身の負担を軽減するさまざまな支援がある |
| 9 | 介護者の入院など緊急時に入所可能な短期入所サービスが利用できる |
| 10 | 自宅に医師が訪問して診療してくれる |
| 11 | 身近に利用できる医療機関がある |
| 12 | その他 () |
| 13 | わからない |

問 26 あなたは、普段の生活の中で手助けしてほしいことが何かありますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | | | |
|---|----------------|----|---------------|
| 1 | ごみ出し | 10 | 病院以外の外出時の付き添い |
| 2 | 買い物 | 11 | 声かけ・見守り |
| 3 | 調理 | 12 | 日ごろの話相手 |
| 4 | 洗濯や部屋の掃除 | 13 | 金銭管理・書類の確認 |
| 5 | 玄関前や庭などの家周りの掃除 | 14 | 市役所などでの手続き |
| 6 | 簡単な力仕事 | 15 | 家電器具やパソコン等の操作 |
| 7 | 病院への送迎 | 16 | その他 () |
| 8 | 病院の付き添いや薬の受け取り | 17 | 特になし |
| 9 | 病院以外の外出時の送迎 | | |

問 27 あなたは、ご近所の人とどの程度のつきあいをしていますか。(ひとつだけ○)

- | | |
|---|---------------------------------|
| 1 | ほとんど顔も知らない |
| 2 | 顔は知っているが、声をかけたことはない |
| 3 | 顔を合わせればあいさつをする |
| 4 | 留守の時には届け物を預かったり、留守にする時は声をかけたりする |
| 5 | 親交があり、ときどき家を行き来する |
| 6 | その他 () |

問 28 あなたは、町会や自治会に加入していますか。(ひとつだけ○)

- | | |
|---|-------------------------------|
| 1 | 町会や自治会に加入し、積極的に活動している |
| 2 | 町会や自治会に加入はしているが、あまり活動はしていない |
| 3 | 町会や自治会があることは知っているが、加入はしていない |
| 4 | 町会や自治会があることを知らない、または町会や自治会がない |

【5. 木更津市の高齢者福祉施策について】

問 29 あなたは、木更津市の高齢者福祉施策について、今後充実してほしいと思うことはありますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | | |
|----|-------------------------|---|
| 1 | 健康増進事業 | |
| 2 | 介護を予防するための事業 | |
| 3 | 介護保険や市の在宅介護サービス | |
| 4 | 介護を受けられる施設の整備 | |
| 5 | 介護する家族に対する支援 | |
| 6 | 介護保険制度や市の高齢者施策に関する情報提供 | |
| 7 | 申請や相談がしやすい窓口の設置 | |
| 8 | 高齢者の就労や社会参加の支援 | |
| 9 | 定期的な見守りや安否確認など、地域の助けあい | |
| 10 | 判断能力が低下した場合の支援や高齢者の人権擁護 | |
| 11 | 高齢者のための住宅施策 | |
| 12 | 段差解消や歩道の設置など安全なまちづくり | |
| 13 | 医療機関の整備など医療の充実 | |
| 14 | その他（ | ） |
| 15 | 特にない | |

問 30 木更津市の高齢者福祉施策について、あなたはどのように感じますか。
（もっとも近い考えひとつだけ○）

1	とても充実している	そのように感じている理由は何ですか （ ）
2	まあ充実している	
3	どちらとも言えない	
4	あまり充実していない	
5	充実していない	

問 31 木更津市の高齢者福祉施策へのご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

【6. 介護サービスについて】

問 32 あなたの要介護度は、次のうちどれに当てはまりますか。(ひとつだけ○)

- | | |
|---|-------|
| 1 | 要支援 1 |
| 2 | 要支援 2 |
| 3 | 要介護 1 |
| 4 | 要介護 2 |
| 5 | 要介護 3 |
| 6 | 要介護 4 |
| 7 | 要介護 5 |
| 8 | わからない |

問 33 あなたの要介護度は、ここ1年の間にどのように変化しましたか。(ひとつだけ○)

- | | |
|---|-------------------------------|
| 1 | 1年前と変わらない |
| 2 | 1年前より、軽くなった (例：要介護 2 → 要介護 1) |
| 3 | 1年前より、重くなった (例：要介護 1 → 要介護 3) |
| 4 | わからない |

※要介護認定を受けて1年未満の方は、初めての認定結果と現在を比べてください。

問 34 あなたは、要介護認定を受けるときに、申請に関する情報をどこから入手しましたか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----|------------------|
| 1 | 市役所 |
| 2 | 地域包括支援センター |
| 3 | かかりつけの医療機関 |
| 4 | 市役所のホームページ |
| 5 | 民生委員 |
| 6 | ケアマネジャー |
| 7 | 介護サービス事業者 |
| 8 | 親族・友人・知人 |
| 9 | 自分で選んでいないのでわからない |
| 10 | その他 () |

問 35 あなたが受けた要介護認定訪問調査について、満足していますか。(ひとつだけ○)

- 1 満足している
- 2 やや満足している
- 3 どちらともいえない
- 4 やや不満である
- 5 不満である

☆問 35 で「4、5」と回答した方に伺います。

問 35-1 要介護認定訪問調査に満足していない理由は次のどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

- 1 訪問調査の時間が短すぎた
- 2 訪問調査の時期が入院中など、体の状態が安定していない時期だった
- 3 本人や家族の説明をよく聞いてくれなかった
- 4 本人が緊張して、いつもと違った状態で調査された
- 5 質問内容が不十分で、体の状態や認知症等をうまく説明できなかった
- 6 調査員の態度がよくなかった
- 7 その他 ()
- 8 わからない

問 36 あなたが受けた要介護度については、納得していますか。(ひとつだけ○)

- 1 妥当である
- 2 思ったよりも高め(重め)である
- 3 思ったよりも少し高め(重め)である
- 4 思ったよりも少し低め(軽め)である
- 5 思ったよりも低め(軽め)である
- 6 なんともいえない

☆問 36 で「2～5」と回答した方に伺います。

問 36-1 要介護度が思ったよりも高めまたは低めと思った理由は次のどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

- 1 自分自身で、以前よりも体の状態が悪く(良く)、介護が必要(不必要)と感じているから
- 2 家族等から(家族として)以前より重い(軽い)と言われたから
- 3 以前より年をとったので要介護度は重くなるはずだと思うから
- 4 利用しているサービスが不足(過剰)しているから
- 5 その他 ()
- 6 わからない

(ひとつだけ○)

☆問 37 で「2」と回答した方に伺います。

(あてはまるものすべてに○)

問 38 あなたは、ご自分が利用したサービスについて満足していますか。利用したものすべてに○を付けてください。(あてはまるものすべてに○)

また、それぞれの満足度について、該当するもの1つに○を付けてください。

「やや不満」「不満」に○をつけた方は、不満の理由もご記入ください。

サービスの種類	利用 した	→	満足	やや 満足	不満のある方		不満の理由
					やや 不満	不満	
例	①		1	②	3	4	
(1) 昼間・訪問介護 (ホームヘルプサービス)	1	→	1	2	3	4	
(2) 夜間・訪問介護 ※1 (ホームヘルプサービス)	1	→	1	2	3	4	
(3) 訪問入浴介護	1	→	1	2	3	4	
(4) 訪問看護	1	→	1	2	3	4	
(5) 訪問リハビリテーション	1	→	1	2	3	4	
(6) 居宅療養管理指導※2	1	→	1	2	3	4	
(7) 通所介護 (デイサービス)	1	→	1	2	3	4	
(8) 通所リハビリテーション (デイケア)	1	→	1	2	3	4	
(9) 認知症対応型 通所介護 ※3	1	→	1	2	3	4	
(10) 短期入所生活介護 (ショートステイ)	1	→	1	2	3	4	
(11) 短期入所療養介護 (医療ショートステイ)	1	→	1	2	3	4	
(12) 福祉用具貸与	1	→	1	2	3	4	
(13) 福祉用具購入費の支給	1	→	1	2	3	4	
(14) 住宅改修費の支給	1	→	1	2	3	4	
(15) 小規模多機能型 居宅介護 ※4	1	→	1	2	3	4	

※1 夜間・訪問介護：24時間安心して在宅生活が送れるよう、巡回や通報システムによる夜間専用訪問介護サービス

※2 居宅療養管理指導：医師、歯科医師、薬剤師等が家庭を訪問し、療養上の管理や指導を行うサービス

※3 認知症対応型通所介護：認知症の方を対象として、日常生活に必要な入浴・排せつ・食事などの身の回りのお世話や機能訓練を施設などで受けるサービス

※4 小規模多機能型居宅介護：小規模な施設で、通いを中心としながら、訪問や短期宿泊を組み合わせたサービス

問 39 介護保険サービスを利用するようになって、あなた自身には、次のような変化がありましたか。((1)～(4)について、それぞれもっとも近いものひとつだけ○)

(1) こころの状態について	1 安定した 2 変わらない	3 不安定になった 4 わからない
(2) やる気や生活のほりに ついて	1 出てきた 2 変わらない	3 なくなった 4 わからない
(3) 日常生活において、 ひとりでできること	1 多くなった 2 変わらない	3 少なくなった 4 わからない
(4) 日ごろの体調について	1 よくなった 2 変わらない	3 悪くなった 4 わからない



☆問 39(1)～(4)で、1つでも「1、2」に○を付けた方に伺います。

問 39-1 あなたにとって、(1) 役立ったサービス、(2) ご自身が努力したことはありますか。(1)と(2)のどちらにもお答えください。

(1) 役立ったサービス (あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1 昼間・訪問介護 (ホームヘルプサービス) | 10 短期入所生活介護 (ショートステイ) |
| 2 夜間・訪問介護 (ホームヘルプサービス) | 11 短期入所療養介護 (医療ショートステイ) |
| 3 訪問入浴介護 | 12 福祉用具貸与 |
| 4 訪問看護 | 13 福祉用具購入費の支給 |
| 5 訪問リハビリテーション | 14 住宅改修費の支給 |
| 6 居宅療養管理指導 | 15 小規模多機能型居宅介護 |
| 7 通所介護 (デイサービス) | 16 わからない |
| 8 通所リハビリテーション (デイケア) | 17 特にない |
| 9 認知症対応型通所介護 | |

(2) ご自身が努力したこと (あてはまるものすべてに○)

- | |
|--------------------------|
| 1 栄養バランスのとれた食事をするようにした |
| 2 散歩や簡単な体操など、身体を動かすようにした |
| 3 家にこもらず外出するようにした |
| 4 友人と交流するようにした |
| 5 趣味などに取り組むようにした |
| 6 その他 () |
| 7 特にない |

問 40 介護保険サービスの利用額（利用者負担分）について、制度上利用できる上限（区分支給限度額）いっぱいまで利用しましたか。（ひとつだけ○）

1 上限まで利用した	2 上限まで利用していない	3 わからない
------------	---------------	---------

区分支給限度額			
要支援1	概ね 49,700 円	要介護3	概ね 267,500 円
要支援2	概ね 104,000 円	要介護4	概ね 306,000 円
要介護1	概ね 165,800 円	要介護5	概ね 358,300 円
要介護2	概ね 194,800 円		

☆問 40 で「2」と回答した方に伺います。

問 40-1 上限まで利用していない理由は何ですか。（主なもの3つまでに○）

- 1 心身の状態からみて、今くらいのサービスで十分と考えるため
- 2 家族が介護しているので、それほど多く利用しなくても済んでいる
- 3 利用料が高くなるため（経済的な理由のため）
- 4 現在利用しているサービス以外に、どのようなサービスを利用していいかわからないため
- 5 ヘルパーなど他人が家に入るのはわずらわしいと思うため
- 6 通所介護（デイサービス）などのように、施設に通うことは抵抗感があるため
- 7 短期入所（ショートステイ）などのように、短期であっても施設に入所することには抵抗感があるため
- 8 制度上利用できる上限について知らなかったため
- 9 ケアマネジャーがケアプランにうまく要望やニーズを反映してくれないため
- 10 その他（ ）

問 41 あなたは、ケアマネジャーの対応について、どのように感じていますか。それぞれの項目についてお答えください。（(1)～(8)それぞれひとつだけ○）

	はい	いいえ	わからない
例	①	2	3
(1) ケアプランの内容や利用料などを十分に説明してくれる	1	2	3
(2) 必要なときに連絡がとれる	1	2	3
(3) 家族や本人の希望を反映してくれる	1	2	3
(4) 要望にすぐ対応してくれる	1	2	3
(5) サービス事業者を選べる	1	2	3
(6) サービスについて説明してくれる	1	2	3
(7) ケアプランの変更を希望したときに対応してくれる	1	2	3
(8) 介護保険サービス以外のサービスを十分説明してくれる（おむつ給付や配食サービスなど）	1	2	3

☆全員に伺います。

問 42 あなたやあなたのご家族が、利用したいまたは利用し続けたい居宅サービスはどれですか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 昼間・訪問介護（ホームヘルプサービス）
- 2 夜間・訪問介護（ホームヘルプサービス）
- 3 訪問入浴介護
- 4 訪問看護
- 5 訪問リハビリテーション
- 6 居宅療養管理指導
- 7 通所介護（デイサービス）
- 8 通所リハビリテーション（デイケア）
- 9 認知症対応型通所介護
- 10 短期入所生活介護（ショートステイ）
- 11 短期入所療養介護（医療ショートステイ）
- 12 福祉用具貸与
- 13 福祉用具購入費の支給
- 14 住宅改修費の支給
- 15 小規模多機能型居宅介護
- 16 わからない
- 17 特にない

問 43 あなたは、サービス事業者をどのようにして選んでいますか。介護サービスを利用していない方は、利用する場合には、どのようにして選ぶと思いますか。

（主なもの3つまで○）

- 1 ケアマネジャーに勧められた
- 2 地域包括支援センターに勧められた
- 3 家族に勧められた
- 4 友人・知人に勧められた
- 5 実際に利用した人に意見を聞いて決めた
- 6 実際に利用してから事業者を決めた
- 7 介護サービス情報の公表制度の情報
- 8 利用料金
- 9 自宅からの距離
- 10 介護サービスの内容
- 11 事業所の職員の対応
- 12 その他（）
- 13 わからない

☆ここからは、「主に介護している方」に伺います。

【7. 主な介護者について】

問 44 主に介護をしている方はご本人から見てどのようなご関係にありますか。

(ひとつだけ○)

1 配偶者	6 ホームヘルパー等の専門職
2 息子・娘	7 その他 ()
3 息子・娘の配偶者	8 介護している人はいない
4 孫	
5 兄弟・姉妹	

☆質問は以上です。お疲れ様でした。

☆問 44 で「1～5」と回答した方に伺います。

問 44-1 主に介護している方の性別と、現在の満年齢をお答えください。

(1) 性別	1 男性 2 女性	(2) 年齢	満	歳
--------	--------------	--------	---	---

問 45 あて名のご本人と主に介護をしている方は、同居されていますか。(ひとつだけ○)

1 同居している
2 別居しているが、15分以内で行き来できる範囲である
3 別居しており、行き来には15分以上かかる

問 46 主に介護をしている方は、要介護認定を受けていますか。(ひとつだけ○)

1 健康であり、要介護認定は受けていない
2 何らかの病気や障害などがあるが、要介護認定は受けていない
3 要支援1・2、要介護1
4 要介護2～5

問 47 主に介護をしている方だけでなく、あて名のご本人を介護している方全体のことで伺います。介護をしている方が不在となることはありますか。(ひとつだけ○)

1 昼夜問わず、ほぼ誰かしら介護者がいる	3 夜間、介護者が不在となることがある
2 日中、介護者が不在となることがある	4 昼夜ともに、不在となることがある

問 48 (ご本人が介護サービスを利用されている方へ、) 介護サービスを利用しているときのご本人の様子はいかがですか。(ひとつだけ○)

1 満足している様子である	4 何かを我慢している様子である
2 担当するスタッフにより態度が異なる	5 いつも無表情である
3 不機嫌である	6 その他 ()

問 49 （ご本人が介護サービスを利用されている方へ、） そのとき、あなた（主に介護している方）ご自身はどのようにお感じですか。（主なもの3つまで○）

- 1 本人がうれしそうにしており、満足である
- 2 サービス利用中は介護者自身もリフレッシュでき、ありがたい
- 3 本人よりも介護者の方が、サービス利用を増やしたいと感じるときがある
- 4 本人と介護者とで、サービス利用について意見が一致しないときがある
- 5 サービス利用後、本人が気分を害したり、具合が悪くなったりすることがあり、サービス内容やスタッフの対応等に不安がある
- 6 本人がサービス利用を嫌がることがあり、介護者としてつらいときがある
- 7 その他（ ）

問 50 介護をするうえで、困っていることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 特になし
- 2 経済的負担が大きい
- 3 精神的負担が大きい
- 4 肉体的負担が大きい（睡眠不足・腰痛等を含む）
- 5 日中は介護者が不在のときが多い
- 6 夜間の介護の負担が大きい
- 7 介護サービスをもっと利用したいが、本人が嫌がる
- 8 介護サービスをもっと利用したいが、家族や周囲が反対する
- 9 介護サービスをもっと利用したいが、限度額がいっぱいである
- 10 介護者の都合等に合わせて柔軟に使える介護サービスがない
- 11 介護の方法がわからない
- 12 介護のために仕事や家事、育児が思うようにできない
- 13 介護のことが気になって、思うように外出できない
- 14 介護者のための相談窓口が少ない
- 15 介護のストレスから、イライラして本人に当たってしまうことがある
- 16 その他（ ）

問 51 介護をしているご家族に対する市の支援として、どのようなサービスが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 介護者同士の交流の場の提供
- 2 介護のコツなどが学べる介護教室の開催
- 3 介護に関する相談事業の充実
- 4 冠婚葬祭・急病時に預けられるような緊急ショートステイの充実
- 5 冠婚葬祭・急病時に在宅で面倒を見てくれるサービス
- 6 家族が休みたいときに利用できるショートステイの充実
- 7 経済的支援の充実
- 8 その他（ ）
- 9 特になし

質問は以上で終わります。ご協力ありがとうございました。

木更津市高齢者日常生活ニーズ調査報告書

平成23年(2011年)3月

発行 木更津市福祉部高齢者福祉課

〒292-8501 千葉県木更津市潮見1丁目1番地

電話 0438-23-7111 (代表) FAX 0438-23-7181

URL <http://www.city.kisarazu.lg.jp/>
